

文書番号	標題	年代1	形態	数量	内容	備考
1	[中村家系譜関係書類・金銭受領証・借用証等]			1箱(18通・ 仮2冊・5 包・1纏め)		1-1~1-26木箱入り一括。木箱表書「御年貢通入」
1-1	[中村家系譜・書状類一括]			1包(3通・1 纏め・4点)		1-1-1~1-1-8封筒入り一括。封筒上書「中村孫三郎国学ノ系統」
1-1-1	[宛所未詳 藤井高尚書状]	年未詳10月 12日	横切紙	1通	歯が痛いので明日訪問先の児島から帰ること、何らかの文章の添削に関する私案を伝えたもの	端裏に鉛筆で「121」の整理番号書入れあり
1-1-2	[中村家系図草稿]			1纏め(仮2 冊)		1-1-2-1~1-1-2-2折込一括
1-1-2-1	系書 岡山市天瀬三四 中村寛治	年月日未詳	便箋	仮1冊	初代中村孫三郎(本家より分家初代)から6代中村寛治の家族に至る系図。寛治の妻の生家備後平田家に関する情報を含む	便箋をホチキスで綴じたもの。
1-1-2-2	系書 岡山市天瀬三四 中村寛治	年月日未詳	便箋	仮1冊	初代中村孫三郎から6代中村寛治の家族に至る系図。1-1-2-1と同文だが訂正・補足の書入れが多数みられる	便箋を綴じたもの。
1-1-3	[中村禎三郎宛 岡山県通達]	明治10年2月 16日	横切紙	1通	備中国都宇郡二子村の中村禎三郎を「老農」と認定する旨、通達したもの	虫損あり
1-1-4	[何御うもし宛 小林うめ消息]	年未詳6月	横継紙	1通	暑さが耐えがたいこと、土用の見舞いに朝川の鮎を贈るので賞玩してほしいことを伝えたもの	
1-1-5	[天保山十景須磨浦封筒]	年月日未詳	封筒	1点	「天保山十景之内須磨浦秋風」と題し、表に彩色風景画を、裏に外山中納言光和の和歌を刷った封筒	
1-1-6	[天保山十景伊駒山封筒]	年月日未詳	封筒	1点	「天保山十景之内伊駒山時雨」と題し、表に彩色風景画を、裏に庭田大納言重孝の和歌を刷った封筒	
1-1-7	[天保山十景住吉郭公封筒]	年月日未詳	封筒	1点	「天保山十景之内住吉郭公」と題し、表に彩色風景画を、裏に柳原大納言光綱の和歌を刷った封筒	
1-1-8	[天保山十景二上嶽雪封筒]	年月日未詳	封筒	1点	「天保山十景之内二上嶽雪」と題し、表に彩色風景画を、裏に飛鳥井大納言雅香の和歌を刷った封筒	別1-6-5-1に別1-6-5-2を巻き込み一括
1-2	金子借用証文之事	文久元年辛酉 12月	縦継紙	1通	借用主庄屋修平→禎助 氏宮御普請入用銀として金16両3歩を借用	
1-3	借用申銀子之事	天保7年丙申 12月	縦継紙	1通	庄屋礒右衛門・年寄良右衛門・百姓惣代勘十郎・大庄屋亀山武兵衛・同平松林右衛門→孫三郎 御地頭家御公務入用銀を上納するため、銀札6貫目を借用	(奥書)「戸川因幡守内作廻方亀山惣左衛門・同蔵方小山秀右衛門」
1-4	家の分家を記者也	天明8年戊申 6月13日	縦紙	1通	中村清左衛門~七右衛門と続く中村本家と分家初代の中村孫三郎との系譜関係、および孫三郎の妻や子女について詳細に記録したもの	
1-5	御神供料御寄進田地請取手形之事	宝暦5年乙亥 4月吉日	縦紙	1通	氏御宮祠官松嶋村三浦大和→二子村中村孫三郎 寄進された西坂分の田地地利米をもって毎年9月9日に35膳の御神供を調進し、孫三郎の金井安全諸願成就の祈禱を行う旨、約したもの	
1-6	金子預り手形之事	文久2年9月	縦切紙	1通	金預り神代村直太郎・同村周平・同撫川吉岡屋基平→二子村禎助 金30両の預り証	(包紙上書)「金子預り手形 一通」
1-7	宗門御改書上	文政4年巳3月	縦継紙	1通	二子村孫三郎→大庄屋亀山栄三郎 孫三郎・萩野夫妻の旦那寺と年齢を申告したもの	(奥書)大庄屋亀山栄三郎→御役所、備中国都宇郡中庄性徳院末二子村利生院・無住二付代判本寺性徳院証通

1-8	為取替規定書	嘉永2年酉3月	縦継紙	1通	西原村守谷友蔵・二子村中村口二・同同禎助・東阿曾村片岡善七・神代村臣辺口太郎・水江村後見土倉重左衛門・大江村後見田原馬左衛門 中嶋村八右衛門の一家が流り病で亡くなった後に残された八右衛門倅敬三の後家つやとその幼児の処遇や居宅の処置について	
1-9	借用申銀子之事	天保7年丙申12月	縦継紙	1通	二子村庄屋礪右衛門・同村年寄良右衛門・同村百姓代勘十郎・大庄屋亀山武兵衛・同平松林右衛門→上庄村房之助 御地頭家御公務御入用銀を上納するため、銀札4貫目を借用	(奥書)「戸川因幡守内作廻方亀山惣左衛門・同蔵方小山秀右衛門」
1-10	乍恐御訴詔	延享4年卯10月	縦継紙	1通	富屋半六→御奉行 老後も大坂に留まって商売を続けたいものの病氣と借金で困窮する半六が、資金援助の相談に応じない国元備中二子村在住の兄七右衛門・弟孫三郎を訴えたもの	文書の上部汚損あり
1-11	[協救社関係書類]			1包(2通)		1-11-1~1-11-2包紙入り一括。(包紙上書)「基金証文 中村禎三郎殿」
1-11-1	請取申金子之事	明治5壬申年正月	縦紙	1通	長田武松・林和作・松浦庸之助・近藤又蔵・角田米三郎→備中都宇郡二子村中村禎三郎 大坂協救社種豚代金の受領証	(端裏奥書)「大坂協救社」
1-11-2	別紙一札之事	明治5壬申年正月	縦紙	1通	長田武松・林和作・松浦庸之助・近藤又蔵・角田米三郎→中村禎三郎 提供された金50両を協救社基金のうちに入れ種豚買入れに用いたことを証し、利益金の割合などにつき詳述	
1-12	[借用証文一括]			1包(3通)		1-12-1~1-12-3包紙入り一括。(包紙上書)「証文一札 木綿屋証書式通入」
1-12-1	記(米借用証書)	明治12年2月27日	縦紙	1通	小田音次郎→中村禎助 米24俵を借用し代金の残りを支払うことを約したもの	
1-12-2	預り申手形之事	年未詳未2月日	縦切紙	1通	木綿屋口口平→中村禎助 米40石の預り証。入用時は返弁することを約す	
1-12-3	地質入金子借用証文之事	明治5年申4月14日	縦紙	1通	借用主小田音次郎・証人中村禎助・証人中村信太郎→中嶋白神八右衛門 九つ田の8畝9歩などを質物に入れ、金札200面を借用したもの	
1-13	[銀札ならびに融通関係書類一括]			1包(4通)		1-13-1~1-13-4包紙入り一括。(包紙上書)「己亥十二月 帯江銀札并融通伺之状 大庄屋返書并札場備金受取書」
1-13-1	[孫三郎宛 大庄屋書状]	年未詳12月14日	横継紙	1通	大庄屋→二子孫三郎 融通の義につき今一応お立会い御相談したいと伝える	(端裏上書)「二子孫三郎様 大庄屋 要用書」
1-13-2	覚(札場備金受領証)	年未詳亥12月17日	横切紙	1通	札場(印:帯江口座)→二子村北国屋孫三郎・西屋敬次郎・仲屋弥七 札場備金24両余の受領証	
1-13-3	[禎助宛 某書状]	年未詳7月8日	横継紙	1通	献上金の内7両を受け取ったので仮受取書を渡す旨を伝える	(端裏上書)「禎助様 口口」
1-13-4	[平松林右衛門宛 孫三郎書状]	年未詳12月13日	横切紙	1通	二子村孫三郎→大庄屋平松林右衛門 昨日申し上げた銀札ならびに融通の義について	
1-14	[中村家過去帳]	年月日未詳	折本	仮1冊	延享4年没の中村七右衛門、寛延3年没の同人室から文政3年没の中村礪右衛門娘に至るまでの過去帳。一部、松尾家に関する記述あり	
1-15	議定書之事	年月日未詳	縦紙	1通	近来、御寺境内より高鳥居山へ移した金毘羅社について、増加する参詣者や通夜人に対応するため設けた御拝殿御通夜所において他村の者を誘引して博奕などの不行跡を行ったり相撲・芝居を催行したりしないよう、申し合わせたもの	

1-16	明治六年戊酉十一月 催合講取引通	明治6年11月	半・横長	仮1冊	講主二子村中村信太郎・金預り中村正三・和田広治→中村禎三郎 加入者に元懸け金20円を年利2円40銭で預け、成年に不懸け金と元懸け金利子の合計額を受け取ったもの	包紙あり。(包紙上書)「催合講取引通袋 二子」
1-17	証(早島谷氏位牌料并墓守料の田につき)	明治44年9月20日	縦紙	1通	都窪郡中庄村大字中庄1199番邸譲請人安原虎満夫・同所同番邸親権者安原栄三郎→都窪郡庄村大字二子中村祥三 中庄村大字中庄縄目の田について、中村家親族の早島町谷家絶家に際し同家の位牌・墓祭料として無代価にて譲り受けたものであることを申告したもの	封筒あり。(封筒上書)「讓謙院様生家都窪郡早嶋町谷氏絶家二付、其親族ナル[中庄村安原]栄三郎二位牌料并二墓守料[ ]此地所[ ]二無代価ニテ讓渡証書在中 明治四拾[ ]月廿日」
1-18	覚(二子村礪右衛門ほか宛 帯江御役所達書)	年未詳辰2月7日	横切紙	1通	御役所→二子村礪右衛門・源次兵衛・村中惣判頭共 庄屋が閉門処分とされたので、その村の諸願そのほか万事につき礪右衛門らが心づけ取り計らうよう命じたもの	
1-19	[帯江御役所達書ほか一括]			1纏め(3通)		1-19-1~1-19-3折込一括
1-19-1	覚(献上金受領証)	年未詳酉12月3日	横切紙	1通	尾口市太郎→二子村禎助 献上金8両の受領証。追って本紙受取書を交付する旨伝える	
1-19-2	覚(金受領証)	年未詳酉7月8日	横切紙	1通	土倉弥口→二子村禎助 金7両を受け取り、たしかに御銀方へ渡したと、皆納の上で本紙受取書を交付することを伝える	
1-19-3	覚(二子村孫三郎宛 帯江御役所銀受領証)	年未詳寅11月28日	横継紙	1通	御役所→二子村孫三郎 銀2貫目の受領証	
1-20	覚(二子村禎助宛 帯江戸川氏家臣連署献納金受領証)	年未詳辰11月	横切紙	1通	長瀬素六郎・角田才兵衛・西山澄之丞・亀山惣左衛門・西山治右衛門・諏訪波江・小宮左門・岸常右衛門→二子村禎助 献納金7両の受領証	包紙あり。(包紙上書)「請取書 二子村禎介」
1-21	借用証文之事	天保10年己亥5月	縦継紙	1通	大庄屋助役中村礪右衛門・大庄屋亀山武兵衛→二子村孫三郎 郡中拝借銀返納のため銀4貫400目3分1厘を借用したもの	
1-22	[分銅改書一括]			1包(3通)		1-22-1~1-22-3包紙一括。(包紙上書)「分銅御改書 二子村孫三郎」
1-22-1	[分銅改書]	年月日未詳	横切紙	1通	分銅役所→窪屋郡二子村孫三郎	1-22-2に折込
1-22-2	[分銅改書]	年月日未詳	横切紙	1通	分銅役所→二子村孫三郎	1-22-3に折込
1-22-3	覚	年未詳酉6月6日	横切紙	1通	惣代兩人→二子村孫三郎 銀17匁5分を「此人」に送るよう伝える	1-22-1~1-22-2を内部に折込
1-23	覚(帯江戸川氏家臣連署扶持給与状)	年未詳丑8月	横切紙	1通	高島一学・東郷右衛門・小田仲右衛門→二子村孫三郎 2人扶持を給与する旨、伝達したもの	包紙あり。(包紙上書)「書付 二子村孫三郎」
1-24	領収証	明治42年6月18日	縦紙	1通	仁和会会計主任幹事渡辺伊之助・仁和寺執綱幹事岡本慈航→中村祥三 寄附金5円の受領証	
1-25	[表彰状]	明治40年9月14日	縦紙	1通	真言宗御室派管長一等教師大僧正土宜法龍→利生院檀徒中村祥三 利生院改築にあたって浄財を喜捨し周旋尽力した中村祥三を表彰したもの	
1-26	[書状断簡]	年月日未詳	横継紙	1通	差出・宛名欠 勘十郎と源兵衛の出入が林喜之助・忠五郎の仲裁で内済になったことなど	破れて二つに分裂したものを巻き込んである
2				1纏め(18通・仮5冊・1包・13括・5綴)		2-1~2-42もと蒔絵手文庫に一括収納。手文庫は旧所蔵者の手元に残し、内容物のみSILティッシュで1纏めにした。
2-1	覚(二子村禎助宛 帯江戸川氏家臣連署献納金受領証)	嘉永7年甲寅3月	横切紙	1通	角田才兵衛・西山澄之丞・亀山惣左衛門・西山治右衛門・小宮左内・岸常右衛門→二子村禎助 献納金の受領証	包紙あり。(包紙上書)「請取書 二子村禎助」

2-2	〔日本海員掖済会会員募集関係書類〕			1包(3通)		2-2-1~2-2-3封筒入り一括。(封筒上書)「大字二子 中村祥三殿 岡山県都窪郡庄村役場」
2-2-1	〔中村祥三宛 庄村長内田弥太郎書状〕	明治40年11月10日	縦切紙	1通	庄村長内田弥太郎→中村祥三 その筋より非常の督促を受け、日本海員掖済会への加盟を依頼したもの	
2-2-2	会員ノ会費出金方	年月日欠		1通	日本海員掖済会の通常会員・特別会員の会費について案内したもの	印刷物
2-2-3	日本海員掖済会要覧	明治38年12月		1通	日本海員掖済会創立の主旨目的・事業成績の要目・入会手続・関係施設・定款・第24回定式総会時の演説内容などを記載	印刷物
2-3	流地証書之事	慶応4年辰5月	縦紙	1通	売主二子村周五郎・証人同村新蔵・同断口次郎→二子禎介 田地売渡代銀を受け取り、去年分の年貢上納を済ませたこと、年季が明け流地となった当該田地につき今年の夏作より禎介が作配することを確認したもの	(奥書)「庄屋陸太郎」
2-4	覚(二子村孫三郎宛 帯江御役所献納金受領証)	年未詳亥11月	横切紙	1通	御役所→二子村孫三郎 当秋の江戸表御門長屋類焼に関する献上金の受領証	
2-5	〔神盃授与状〕	明治44年4月8日	横切紙	1通	国幣中社吉備津神社宮司正六位勲六等佐々木元孫→中村寛治 吉備津神社本殿屋根葺き替え費を寄附した中村寛治に神盃を授与したもの	印刷物に年月日と宛名を書き入れ
2-6	記(出雲大社神前社入免許状)	元文5年庚申7月晦日	縦紙	1通	神官長谷川濤守祐昌→備中国都宇郡二子村住中村孫三郎 出雲大社に対する格別の寄附につき、その氏名・歳を記した書を国造へ披露の上神前に奉納したこと、子孫に至るまで社参の際は神前社入を許可することを伝えたもの	包紙あり。(包紙上書)「御供証文 二子村中村孫三郎殿 大社神官長谷川濤守」
2-7	覚(贈与銀等目録)	年月日未詳	縦紙	1通	所司衆・御手代衆・御料理人衆・御家来衆に贈った銀・鳥目の目録	
2-8	御祈禱料御寄進田受取手形之事	弘化4年丁未12月	縦紙	1通	堀尾藤大夫→二子村中村禎助 寄進された畦之内の田地地利米をもって永代に五座八幡宮の神供を調進し、家内安楽子孫長久の祈禱をなすことを約したもの	包紙あり。(包紙上書)「御寄進田受取手形 堀尾藤大夫」
2-9	御神供寄進田地請取手形之事	宝暦元年辛未12月	縦紙	1通	万寿庄宗鏡寺祠官三浦大和→二子村坪井七左衛門・同御年寄中・発願主中村孫三郎 寄進された鳥羽分楠戸の田地地利米をもって毎年元旦の神供を調進し、氏地大小氏子の安全祈禱をなすことを約したもの	包紙あり。(包紙上書)「毎歳正月朔日御神供料 氏御宮寄進田地御証状」
2-10	松嶋村・二子村為取替一札	安永3年午6月	縦継紙	1通	松嶋村名主小十郎・同村五人組頭源十郎・同村百姓代次郎左衛門・同源四郎・二子村庄屋彦三郎・同村年寄九右衛門・同与次右衛門・同村百姓代孫九郎・同六右衛門 二子村と松嶋村との境にある水路の浚渫で排出される掘土置場や堤防・畔・道などの修繕について、両村の間で内談・取決めしたもの	(奥書)「下庄村庄屋金左衛門・三田村名主円右衛門・中田村名主六左衛門」。包紙あり。(包紙上書)「是二子村・松嶋村境出入取扱内済証文 取扱人数三田円右衛門・中田六左衛門・下庄金左衛門 封 安永三午年六月廿六日」。この包紙の外側を「旧領主戸川氏ヨリ書類 中村」と記した包紙でさらに包む
2-11	〔藤井高尚関係書状一括〕			1括り(25通)		2-11-1~2-11-25紙綴一括。紙背の整理番号「中1」~「中25」(順不同)
2-11-1	〔卯右衛門・順蔵宛 真野竹堂遺言状〕	天保5年甲午春2月	縦紙	1通	竹堂守(花押)→卯右衛門・順蔵 自分を数十年間貞実に介抱してきた「とよ」に対し、自分の死後隠居料のうち銀2貫目を譲ることを伝え、同人存命中は見捨てないよう懇請したもの	紙背に「中24」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-2	別陳(宛名未詳 藤井高尚書状)	年月未詳17日	横切紙	1通	昨日やってきた福嶋・生坂よりの使いが本の代銀持参を忘れていたこと、来春2月10日ごろから西大寺へ出張し赤穂へも出かける予定であることを伝える	紙背に「中5」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-3	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳7月11日	横切紙	1通	中元嘉儀の御礼、貸出し中の冊子書入れ本6冊のうち返却された1冊を落手したこと、先生が9月に上坂するとか引き取るとか聞こえるが、この国に先生がいなくなったら皆が困ること、玉島の幸文等は弟子に見限られているとの噂があることなどを伝えたもの	紙背に「中1」の整理番号が鉛筆で書き入れられている

2-11-4	〔宛名未詳 藤井高尚書状断簡〕	年月日未詳	横切紙	1通	老眼で書見も出来ず、日暮より寝入って半夜で目覚め困っていることなどを伝える	紙背に「中15」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-5	〔和歌書付〕	年月日未詳	横切紙	1通	「はつき口の夜いたう曇りければ」の詞書と、「八重雲のはるけむかたそなかりける 月ゆゑふかき冬のう口は」など3首の和歌を記す	紙背に「中16」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-6	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳12月1日	横切紙	1通	大病後は寒さに耐えかねること、中村生を通じてお願いしていた銀子借用が叶ったことなど。	花模様の料紙を使用。紙背に「中17」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-7	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年月未詳6日	横切紙	1通	長良七郎・沖村の耕平・足守の方からの取次もの(絹の懸物豎文章など)につき、謝礼に関する取引を宛先(貴家)に依頼したもの	紙背に「中19」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-8	口状(宛名未詳 藤井高尚書状)	年未詳6月24日	横切紙	1通	両郷社の屋根修繕について。	紙背に「中18」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-9	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳7月16日	横切紙	1通	松の屋文後集の製本と大坂への送付について。	紙背に「中20」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-10	覚	年未詳7月23日	横切紙	1通	長門守(藤井高尚)→孫三郎(中村)「おみね」と「あん居の方」用に「みどりちやちりめん」などの反物を送ってくれるよう依頼したもの	紙背に「中22」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-11	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳8月20日	横継紙	1通	残暑あたりから不快であること、中元を拝受したこと、来春自分が出張して講釈する際に使う書物についての相談などを書き送ったもの	紙背に「中21」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-12	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳11月6日	横継紙	1通	藤井長門守→宛名欠 去月飛脚をもって伝えた下原の一条は不行届きのことがあり取りやめになったことなどを伝えたもの	紙背に「中23」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-13	〔中村孫三郎宛 藤井高尚書状〕	年未詳亥12月18日	横継紙	1通	藤井長門守→中村孫三郎 当暮に廻す利息銀のうち100目につき、早く廻してくれたことへの感謝、3貫500目の銀子も20日までに受け取る堅約だが一両日延びる可能性があることなどを伝えたもの	紙背に「中25」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。切封が残存
2-11-14	〔断簡〕	年月日未詳	横切紙	1通	急便を待っていたが無いまま今日になり、大坂からの書状のこともあり心にかかっている、などと伝えたもの	紙背に「中2」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。前後が裁断され一部のみ残存
2-11-15	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳9月8日	横切紙	1通	藤井松齋→宛名欠 一昨日江口まで出て昨日川舟で撫川まで戻り、そこから歩行で帰宅したので立ち寄りなかつたこと、10日に短文を写した本を持参してくれるよう伝えたもの	紙背に「中3」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-16	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳5月26日	横継紙	1通	早島へ来月2日3日ごろ参り、同所に3~4日逗留し、それから新田の植田氏と福島とを廻って帰ることなどを伝える	紙背に「中4」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-17	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳4月22日	横継紙	1通	毎年の上方向き帰りに際して贈り物をもっているが、今回は頂戴するとしても来年以降は止めてくれるよう、足の痛みを労わるよう伝えたもの	紙背に「中6」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-18	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年月未詳9日	横切紙	1通	夜前の投宿時の感謝を述べ、帰路は矢部の仮橋が落ちていたため致し方なく川上に迂回して土手の細道を歩き、橋をみつけて渡って帰ったことを伝える	紙背に「中7」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-19	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳7月21日	横継紙	1通	秀松屋より出金する金2両が8月上旬までに揃うので、9月に中村氏が上坂する際に送ること、松の屋文集後篇のことなどを伝える	紙背に「中8」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-20	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年月日未詳	横切紙	1通	松屋文後集1部(3冊組)の販売について、素人売りの価格・書林仲間取引額を示し、銀札10匁で売るので代銀を送るよう依頼したもの	紙背に「中9」の整理番号が鉛筆で書き入れられている

2-11-21	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳10月29日	横継紙	1通	松の屋文後集と松の落葉の校合作業について。京から全3巻を送ったので早く校合して返送するよう申し来たっているが、こちらには本が届いていないこと、今年中の校合は難しく来年になりそうなことなどを伝えたもの	紙背に「中11」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-22	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳11月5日	横継紙	1通	旧来のとおりに会集・評定の席には貴君だけ出座するのがよいだろう、などと伝える	紙背に「中12」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-23	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳7月25日	横継紙	1通	『古今新釈』の板木の取扱いにつき、名古屋永楽屋ほかと折衝したもの	紙背に「中13」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。冒頭欠か
2-11-24	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳正月19日	横切紙	1通	入湯願が叶わなかったのは残念であること、疝の病で腰が痛み、一昨晚駕籠で岡山より帰宅したことなどを伝える	紙背に「中14」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-11-25	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳9月8日	横切紙	1通	折悪しく瘧疾が起り、その後も老人疲労が甚だしく伏せていること、宛先の人物がいつ大坂へ登るのかの問い合わせ、自分も10月10日までに丸亀へ行き20日ほど逗留することなどを伝える	紙背に「中10」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12	[藤井高尚関係書状一括]			1括(29通)		2-12-1~2-12-29紙綴一括(もと封筒入り)。(封筒上書)「天瀬中村寛三氏所蔵 藤井高尚書簡 二十五通 十六年八月十七日借用 今月九日」
2-12-1	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳11月5日	横継紙	1通	老拙講釈について、「塩長」=塩屋長兵衛の京店廻り最寄りのよさそうな場所へ、旧来の連中を一日集めて実施することを両人に伝えるよう依頼。『出雲崎日記』の版本製作についてなど。	紙背に「中41」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-2	覚(御預銀利息受領証)	年未詳亥12月18日	横切紙	1通	藤井長門守→中村孫三郎 当暮の御預銀利息の受領証	封筒入り。封筒上書「中村孫三郎様 用事 藤井長門守」。封筒に「中47」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-3	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳11月8日	横切紙	1通	足守の方より御言継の件、真野竹堂一周忌零祭についてなど	紙背に「中32」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-4	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳12月16日	横切紙	1通	毎々贈られてくる歳時の御音物について	紙背に「140」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-5	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年月未詳14日	横切紙	1通	今夕は別荘月見、十五夜は真野竹堂閑居に月見に参る予定でいること、西浜へ向かうつもりだったが故障で延期になっていること、早鳥での講釈は朝晩やってはかどっていること、早鳥で素人に歯を抜かれ出血おびただしく歩行にも困っていることを伝える	紙背に「139」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-6	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年月未詳11日	横切紙	1通	来春の上方行きが遅れるようなら早春より備中所々へお出でいただけようになりたい、このあいだ惣社清水屋貞八郎が来たのでまづ惣社で集まりを持てるよう頼み置いたことを伝える	紙背に「中27」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-7	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年月日未詳	横切紙	1通	昨日、大坂船町長田作五郎と申す者から書状が来て「久しく疎意にうち過ぎした」と書いてあったが、一向にこの人物に覚えがない、老人不覚にて懇意な人以外はまるで覚えていない、とある	紙背に「中38」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-8	松屋文後集校合之事	年月日未詳	横継紙	1通	直しを付け頭へ見出しを残らず書き出したので、この頭の見出しのみ一通り点検して城戸へ渡すこと、直しの校正は御面倒ながらそちらでやってほしいこと、製本に出すのは来る3月と考えていることなど、校正にかかわる具体的な指針を記述したもの	紙背に「中34」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-9	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳12月26日	横切紙	1通	正月の事どもを追々彼と準備し、尚齒会を18日に実施すること、これにつき6日にお出での際御示談したいこと、真野竹堂老人にもお出でを願っていることなどを伝えたもの	紙背に「中28」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-10	[宛名未詳 藤井高尚書状]	(天保元年)8月3日	横切紙	1通	今月末に御上坂されると監物方で聞いたが、京都は大変な状況で7月18日9日までも地鳴・地震が止まらなかったとのことなので、近日見舞状を出そうと思っていると伝えたもの	天保元年7月2日に発生した京都及び隣国の地震に関連。紙背に「中30」の整理番号が鉛筆で書き入れられている

2-12-11	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳正月4日	横継紙	1通	新年を祝害するとともに、贈与された「真鴨」の番い(つがい)についてお礼を述べたもの	紙背に「中46」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-12	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳7月27日	横切紙	1通	塩屋部による「意味挾一条」について、在坂中の「貴君」が取扱い平和に解決させたことへの謝意、塩屋の出銀に関する行き違いについて別紙覚書をもって申し出たので、大坂の両家と京の城戸と三家で相談の上返事をくれるようにとの依頼、校合した板下を船便で送ることなどを伝える	紙背に「中35」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-13	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳正月4日	横切紙	1通	旧冬23日ごろより「お岑」が痙にて打ち倒れ晦日元日には危篤になったが、昨3日より少し快方に向かい大いに安堵したことなどを伝える	紙背に「中36」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-14	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳12月2日	横継紙	1通	風邪を引き今も頭痛で長文を書くのがつらいので、ただ専要のことのみ一言づつ記したものを、『中臣祓』『松の落葉』二ノ巻の板下・板木に関するやりとりなど。	紙背に「中49」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-15	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳11月25日	横切紙	1通	延引していた20枚の短冊を書いて進呈するが、歌は選んで書いたものの中風で右の手も何となく平生の状態ではなく、よい出来とは言えないが御容恕ください、とある	紙背に「中29」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-16	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳12月5日	横継紙	1通	書初めのことについて真野竹堂と書状を往復したこと、『紫式部日記釈』出版について2部分の代銀を正月の拙子出立前に受け取る段取りとしたいことなどを伝える	紙背に「125」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-17	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳9月3日	横継紙	1通	早島童女につき磯右衛門殿より承ったこと、幸助と申す男を眼代に遣わした事など。縁談か。	紙背に「中50」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-18	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状]	年未詳11月27日	横継紙	1通	藤井長門守→中村孫三郎「塩長」=塩屋長兵衛へ貸す金子について、拙子手元は甚だ差支えているが、今日金2両を二子へ持たせ遣わした事、『松乃屋文後集』を5部刷って京都・大坂・此本へ送ることなどを伝える	紙背に「中26」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-19	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳7月10日	横継紙	1通	勘略中に謝礼を多めにもらうのは宜しくないので、毎例のとおり50疋のみ拝受し、残りはお預けするとの意向を伝える	紙背に「中48」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-20	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳2月15日	横継紙	1通	藤井長門守→宛名欠『松の落葉』目録ができていないとの報せに驚き、本書の校合が済んでいるのに目録不出来の状態では書林が目録なしの状態では出板すると言いつい出しかねないので、目録を急いで完成させてほしいと伝える。また、拙子の今春の上方行きが種々故障で延びていること、一昨日神前で鬮取りをしてこの3月の堀家備後守出府、辰の2月に監物と交代、巳の2月の鞆負介参府が決まったこと、4月の亡父25回忌霊祭を執行後、そちらへ出立することを伝える	紙背に「中45」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-21	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳11月19日	横切紙	1通	『松の落葉』の板木5丁は彫り残しがあるのに、5丁のうち2丁のみが送られてきたが、5丁揃っていないと役に立たないと述べ、『松の落葉』全部4冊試し刷りを揃えて中田清右衛門に送ってくれるよう伝える	紙背に「124」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-22	口状(宛名未詳 藤井高尚書状)	年未詳12月1日	横切紙	1通	岡山や倉敷からの懇望を引き受け、正月16日から岡山へ出向き、2月11～2日より倉敷へ向かい、2月中は倉敷にて水沢茶園にて講釈・歌文会を開催する心づもりであることを伝え、老後の慰みに岡山・倉敷で国学が流行るのをみたい、御代官にも薦めたいと記す	紙背に「中44」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-23	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年月未詳14日	横継紙	1通	今日も歯痛で大いに困っていること、正銀400匁并1ヶ月分の利ををたしかに落手したこと、作之丞の烏帽子着染式が粉られることなどを記す	紙背に「中43」の整理番号が鉛筆で書き入れられている

2-12-24	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳9月2日	横継紙	1通	中元謝儀の御肴料1封についてお礼を述べ、福光氏より送られてきた著作の奥書に加筆して返したことが、預かっている文章の添削の残りを盆後に済ませる予定だったが土地のことで庭瀬と懸け合いになり難しいことなどを伝える	紙背に「中42」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-25	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳8月9日	横継紙	1通	この間舟便にて「塩長」＝塩屋長兵衛へ溜まっていた返書と雪月花の歌のことを委細に申し送ったが、雨で舟便が遅れたこと、『松の落葉』四ノ巻半まで執筆しこれを書き終わったら著述を丸きり止めようか、名護屋の書林が相談に応じて出板を引き受けてくれたら又続けようかと思っていることなどを伝える	(端裏書)「十月廿五日夕達入」。紙背に「中40」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-26	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳3月4日	横継紙	1通	京都東山の彼岸桜が漸く咲きかけている状況から嵐山の桜の開花予測を報じ、13～4日ごろ上京するのがよいこと、城戸より貴家へ今春送った書状中に出雲路日記について記した大切な書付が入っており、これがないと調べが行き届かないので探して送ってほしいことなどを伝える	紙背に「中39」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-27	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳2月3日	横切紙	1通	『松の落葉』は今日まで取りに来る人がいないので、明日中に誰も来ないようであれば、荷物の中へ入れて大坂へ持ち出し、勘定を直すつもりであることなどを伝える	紙背に「中37」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-28	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳7月12日	横切紙	1通	中元謝儀として金50疋・美酒1樽を贈られたことへの礼状	紙背に「中31」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-12-29	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳8月10日	横継紙	1通	倉敷より七太夫・寿助両人がやってきて一件につき取扱いの最中だが、空しく破談となりそうな様子であることなどを伝える	紙背に「中33」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13	[藤井高尚・高枝書状一括]			1括(25通)		2-13-1～2-13-25紙綴一括、封筒入り。(封筒上書)「天瀬三四中村寛治氏所蔵 藤井高尚翁書簡二十五通 昭和十六年十一月十一日夜借用ノ事」。藤井高枝は高尚の後継者
2-13-1	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳6月17日	横継紙	1通	往反に必要な日数もあり、盆前にかかって間に合わない場合関牛や自分にとって支障になるので、今回の舟便で金1両をまず送ること、その金を塩長＝塩屋長兵衛より受け取って三ノ巻板下料として遣わすよう伝える	紙背に「63」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-2	別陳(宛名未詳 藤井高尚書状)	年未詳4月1日	横切紙	1通	衣服を入れて持ち運ぶための両掛の大きさについて、半分の大きさに切った位の方がよい、近来早島へ逗留する際にそれを用いたい、と伝えたもの。	紙背に「64」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-3	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳12月6日	横継紙	1通	明日相談して承りたいことがあるので、繰り合わせの上御在宿くださるよう依頼したもの。	紙背に「61」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-4	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳3月15日	横継紙	1通	この間は両日も雨天でもなかったのに御出でもなく大いに迷惑していること、老拙は二十日から西大寺方面へ出かけることなどを伝える。	冒頭部分が破損して読めず。紙背に「62」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-5	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳11月18日	横継紙	1通	近來物忘れが甚だしく書付を出すのを失念していたこと、権頭のところへ人を遣わしたが留守で帰ってくるのは来月中頃になることなどを伝える。	紙背に「60」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-6	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年月日未詳	横切紙	1通	武者小路御隠居の社中は人が減って勢いがなくなってきていることなど、京都の歌人の動向を報じる。また「桜のちれる所木の間に月あるかたの自画賛」に添えた和歌など四首について添削指導している。	和歌の添削のための付箋が4枚貼られている
2-13-7	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳6月10日	横継紙	1通	『吉野の山つと』を見て文章の達者ぶりに驚いたが、「大誤甚敷俗言も書交」た内容だったので、他事を措いて数日吟味校訂し無難な内容に仕立てたこと、序文を書いて送ったので見てほしいこと、船便だと届けるのが遅くなりそうなので飛脚で紙包を送ることなどを伝える。	紙背に「58」の整理番号が鉛筆で書き入れられている

2-13-8	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳3月8日	横継紙	1通	倉敷で不埒の一条が生じ、同地へ参ることも当分難しいこと、水沢・大島屋・中島屋が典膳に入門したのは捨て置かず三人とも生涯にわたって門下から退けようと思っていたが、植田武右衛門が取扱いに入って三人を勘弁するよう申し出てきたことなどを伝える。	紙背に「57」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-9	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳4月1日	横継紙	1通	時候の善悪、「彼一件」の処理もあるので上坂を秋まで延期すること、『文後集』『松の落葉』の校合と書林からの持ち帰り部数のこと、業合大枝の著書『新学異見弁』のことについて、宛名の人物に伝達・依頼したもの。	紙背に「56」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-10	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳正月元日	横継紙	1通	新年の挨拶を述べ、旧冬11日の書状が二子より届いたこと、『落葉』四ノ巻と『中臣祓』は今もって届かないこと、業合大枝の著書は板下まで出来たが序文跋文のところまで手間取っていること、「江戸一件」も大方内済で片付きそうなことなどを伝える。	紙背に「55」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-11	覚	丑7月	横継紙	1通	藤井長門守(印) 書林と思われる塩屋に対し、『松の落葉』出版に必要な板下料その他の出版経費を支援として貸し付ける意思を示し、その理由(拙作著述の書は御書林方の世話なくては天下後世に弘め残すことは出来ないこと、上坂の際いつも止宿などで世話になっていること)を記したものの。	紙背に「54」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-12	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳10月21日	横継紙	1通	「塩長」=塩屋長兵衛が大病と聞いて驚き、この人がいなければ著述を止めようかと思っていたほどの「大切之仁」であることを記す。また、『三のしるべ』の板が出来て二、三度校合したものがこちらに送られてくる手筈なのに大坂で止まっているのはどうしたことかと問い、『松の落葉』目録のはしがきの文章を直したので長兵衛が存生であれば届けてほしいと伝えている。	紙背に「52」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-13	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳9月16日	横切紙	1通	今年は疝の病が起こらないものの、兎角不快で困っていることなどを伝える。	破損分解寸前、取扱要注意。紙背に「53」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-14	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳4月7日	横切紙	1通	病癢が漸々増長して堪り兼ねていること、小田氏に添書も認めたことなど。	紙背に「51」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-15	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳5月20日	横継紙	1通	今年は若州小浜へ参り、大坂も万事繁昌にて多忙だったため、逗留がいつもより20日ほど長く100日に及んだこと、買物もたくさんして金15両が残ったので持ち帰ったこと、遠からず早島へ行き新田の植田氏や福島まで廻りたい気持ちでいることなどを伝える。	紙背に「75」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-16	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳5月晦日	横切紙	1通	一昨日無事に帰郷したこと、今年は旅中至って健やかに一日の不快もなく22日に円亀(丸亀)より下村へ渡ったこと、その前に高田京之介の亭へ世話になり、新田の植田家を経て27日に帰宅したことなどを伝える。	紙背に「74」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-17	[中村孫三郎宛 藤井高枝書状]	年未詳5月20日	横切紙	1通	藤井左衛門介高枝→中村孫三郎 以前借用を申し込んだ銀札700目の用意があることを聞いて大いに力を得たと喜び、確かなる者を差し出すので引き渡してほしいこと、来月中旬ごろまでにもう300目ほど作廻してほしいことなどを伝える。	端裏上書「高枝」。紙背に「73」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-18	専用御状	年未詳8月26日	横継紙	1通	校合本の取り寄せ依頼について、この校合本はかねて人に貸すようなことはしておらず、船積にして遠方へ送るようなこともしていない旨、申し遺わしたことなどを伝える。	紙背に「65」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-19	[都々慈の屋宗匠宛 藤井高起《高枝》書状]	年未詳文月12日朝	横継紙	1通	今昔物語・宇治拾遺両部を受け取ったこと、尚齒会で作成している全16部の書籍の経費分担関係と集金の進捗状況を示し、分担者のうち権頭と主膳(高吉)は中風にかかって困難な状態にあることなどを伝えている。	端裏上書「都々慈の屋宗匠様御返事 松の屋高起拜」。紙背に「66」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。藤井高起は高枝の別名。

2-13-20	童女一件	年未詳11月18日	横継紙	1通	板倉本城屋にいる容儀が至極宜しい童女(11歳)および岡山中買町片上屋方で子守をしている容儀も大概に宜しく利口発明の童女(13歳)について。自宅に奉公させたい童女について、その両親などとの交渉経緯を記したものか。	紙背に「67」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-21	[氏名未詳書状]	年未詳11月朔日朝未明	横継紙	1通	子居の庄窪津氏の来訪を受けたこと、来る4日早朝より来訪をお待ちしていること、芝居見物のこともあるので朝5時までにごちらに到着するのがよいことを伝える。また大不埒を犯した下女に去月29日暇を出したが代わりに雇うべき下女が一人もみつからないことを伝える。	紙背に「68」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-22	別陳(宛名未詳 藤井高尚書状)	年未詳8月12日	横切紙	1通	左衛門他行・配札のことなど一円多忙につき祭に出かけられなくなったこと、左衛門(藤井高枝か)・堀家右兵衛とも留守なので16、7日の来訪は延引してほしいこと、銀300目をなにとぞ貸してほしいとの後室よりの要請などを伝える。	付箋が付されている。紙背に「69」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-23	[宛名未詳 藤井高尚書状]	(天保3年カ)12月22日	横継紙	1通	今日銀子受取の使いとして差し上げた竹蔵に「福嶋廻り300匁」なども渡してくれるよう伝え、過日使いを下さった時折悪しく倉敷植田氏よりの使いが来て対応が行き届かなかったことを謝る。また、拙子70歳の賀宴として歌会の催しを元日に行うことを伝えている。	紙背に「72」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-24	[中村氏宛 藤井高尚書状]	年未詳7月20日	横継紙	1通	『松の落葉』出板をめぐって口口が「塩長」=塩屋長兵衛の仕方に憤り、引き受けを別人に改めなければ板下を断り書かないと言いつ出したため、関係者の道理を整理・解決して何とか出板するための方途を探っている。この書を口口が書かないと「本ノ疵」になるという。	端裏上書「中村氏行」。紙背に「71」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-13-25	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳8月12日	横継紙	1通	7、8年以前から依頼を受けていた『梅園の詞』について、上中2巻は皆済して本に仕立ててもよい状態になったこと、下ノ巻は古文辞4章がまだ書けていないことを伝える。また、沖村へ菊見に出かけて以降の予定を記す。	付箋が付されている。紙背に「70」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-14	[藤井高尚書状一括]			1括(10通)		2-14-1~2-14-10一括(SILティッシュで包む)
2-14-1	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳6月11日	横継紙	1通	今明日おきんが帰ってきたが昨日から疫病にかかって倒れてしまった、こちらは病人が多く出入りの男女は皆倒れるか忌を受け一人もいないので、おきんが本快して帰るまで梅をこちらに置いておきたいことなどを伝える。	紙背に「110」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-14-2	[中村孫三郎宛 藤井松斎書状]	年未詳11月29日	横継紙	1通	中村氏が持ち帰った「干牛丸」(滋養強壯薬)を一日も早く用いたいこと、『松の落葉』の受け渡し(備前侯などへ渡す)に関することや「久キ一件」が内済となり安堵したので姫路経由で浪華へ出かけることを伝える。	包紙入り。包紙上書「中村孫三郎殿 藤井松斎」。包紙に「113」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-14-3	専用(宛名未詳 藤井高尚書状)	年未詳8月14日	横切紙	1通	この銀子は左衛門に渡すようにして嘉兵衛には渡さぬこと、福島に差し合いがある場合御地より直接沖村へ参るべきこと、倉敷での宿は宮崎屋・妹尾屋のうち差し合いのない方へ参るつもりでいること、宮崎屋の隠居の名前を失念し文通に困るので聞き合わせてほしいことを伝える。	紙背に「114」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-14-4	口状(二子中村氏宛 藤井高尚書状)	年未詳8月24日	横継紙	1通	22日晩に拙子方の松野が安産し母子ともに無事であること、産屋の祝いがあって27、8日は他行出来ないで29日早朝に貴家へ参り同日福島へ同道して参る予定であることなどを伝える。	端裏上書「二子行」。紙背に「115」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-14-5	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳12月13日	横継紙	1通	銀700匁をたしかに落し手貴家に証書を送ったこと、銀300匁と利銀の分については22日に使者をもって受取に行かせること、来春の祝事の御贈物のこと、伊勢の人高尾善左衛門から依頼のあった紙包を遣わずので渡してほしいことなどを伝えたもの。	草花の模様が刷り込まれた料紙を使用。紙背に「116」の整理番号が鉛筆で書き入れられている

2-14-6	中村孫三郎上坂一条	年未詳亥10月28日	横継紙	1通	松齋(藤井高尚)→宛名未詳 来春より中村孫三郎を上坂させるつもりだが、いつ頃行かせるのがよいか、門人取扱いの関係から借宅が必要だがどうか、歌文の師として歌書・儒書の講釈をする塾を開業するつもりだがどうか、問い合わせたもの。各条項の下に下げ札(付箋)をつけて細字で回答を記入してほしい、この書付を中村氏に見せ安心して上坂させたい、と記す。	紙背に「117」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-14-7	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳8月9日	横継紙	1通	拙子の丸亀行きが取止めになったので、倉敷祭を目当てに28日の朝同伴して貴宅へ行き、そこから船にて晩までに福島へ参り、29日に同所で新古今和歌集を少し読み、晦日の晩に倉敷へ移り、9月朔日祭見に出かけ、2日は沖村へ菊見に行き、3日4日は植田氏のいる新田へ行き、そこから帰宅する心づもりであること、逗留の家は宮崎屋・妹尾屋のどちらかにすること、5日より板倉で能が始まるので6日は能見に参ろうかと思っていることなど伝える。	紙背に「119」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。内容的に2-14-3と関連
2-14-8	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳5月23日夕	横継紙	1通	『松の落葉』出版につき、「塩長」=塩屋長兵衛に対し京に掛け合いもう一部試し摺りを作らせ6月中に送るよう申し遣わした事、7月中に校合、8月には本を仕立てさせ、この秋中には是非こしらえたいと思っていることなどを伝える。	紙背に「120」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-14-9	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳3月9日	横継紙	1通	京都の桜の開花予想(昨日参ってみたところ東山の桜は彼岸桜の早咲きのものが咲いているのみだったので、嵐山の桜は16、7日が盛りではないかと思う)を伝え、明日は禁裏の御管弦始に楽人に付き添って参る予定で、明後日は富小路殿へ話に参り、15日に丸山で用があるので、嵐山花見は16日に決めたこと、貴君もそのころ上京するのがよいことなどを伝える。	紙背に「122」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-14-10	口状(中村氏宛 藤井高尚書状)	年未詳11月2日	横継紙	1通	『源平拾遺』の板行が済み製本も出来て書林より80部依頼があったこと、貴家へは20部を送ったので売りさばきをお願いすることなどを伝える。また、米穀高値につき大坂は大いにやかましく芝居なども一向に出来かね、拙子の会も連中町役のものが皆出てこなくなり差支えもあるので、近日中に河内国今口村へ引っ込み来年正月末に大坂へ戻るつもりであると伝える。	端裏上書「中村御氏行」。紙背に「123」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15	[藤井高尚関係書状一括]			1括(22通)		2-15-1~2-15-22一括封筒入り。封筒上書「昭和十七年口月四日拜(以上10字見せ消し) 中村氏宛 高尚書簡二十五通拝借口(以上11字見せ消し)」昭和十八年五月八日 一二六~一五〇迄二十五通拝借
2-15-1	[宛名未詳 藤井松齋書状]	年未詳5月8日	横切紙	1通	藤井松齋→宛名欠 宛名の人物が船で無事帰国したことを祝賀し、金子の儀と落葉・文集などのことに触れつつ、今後の予定(11日に立出で岡山で船遊、それより児島へ渡り帰路14、5日までに早島へ廻り講釈の後、20日ごろ帰宅する)を知らせる。	紙背に「126」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-2	取次之方被心得候謝儀凡之規定上方之振合	年月日未詳	横継紙	1通	短尺・色紙・掛物画賛・文章の代金相場につき、数量や料紙、内容の軽重ごとに細かく規定したもの。	紙背に「127」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-3	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状]	年未詳10月14日夕	横継紙	1通	『松の落葉』一ノ巻より前にくる別巻にきちんとした外題がなく、一ノ巻に合わせた外題がついているが、こうしたことは古今和漢に例がなく、随筆には不似合で木に竹を接いだようで、天下の諸先生に馬鹿者と笑われてしまう、と述べる。また同書の製本が出来たら拙子がい取り取る60部と板元よりの贈呈分を合わせた67部を貴君が船で下る際に持ち帰ってほしいと伝えている。	包紙入り。包紙上書「中村孫三郎様 要用 藤井長門守」。包紙に「128」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-4	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年月日未詳	横切紙	1通	城戸氏へ地震の見舞いを遣わしたが、その返書がこちらには来ず貴家か河氏のところに留まったままになっているように思う。返礼は特に必要ないが何か用事を申し来たっているようだとして拙子が捨て置いたようになってしまうので内容を一通り確認してほしい、と伝える。	紙背に「129」の整理番号が鉛筆で書き入れられている

2-15-5	雨夜物かたりの中	年月日未詳	横継紙	1通	『源氏物語』の雨夜の品定め部分に関する評論か。「此御説いとわろし…紫式部の文にハあらずつたなきえせ文也」との付箋が貼られている。	紙背に「130」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-6	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳9月13日	横切紙	1通	芦手歌絵の図を見せられたが絵柄が古代の芦手の様になっておらず拙子の論と食い違っている、この板下は広く用い予定なので芦手の論を参照して指図してほしいと伝える。	紙背に「131」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-7	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年月未詳29日	横継紙	1通	城戸より『松屋文後集』の校合を急ぐため5部摺して1部を下すので、それを校合したものを送ってくれば販売用の本を摺り出す、と言ってきたが、その件をめぐって「河」が憤っていることを伝えたもの。	紙背に「132」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-8	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年月日未詳	横切紙	1通	明朝大坂へ人を派遣するとの報せを「岡熊」より聞いたので、詠草を直したものを返すついでに「専用一二」を伝えたもの。「河」に『文集後篇』『松の落葉』の進行について夏以来度々書状を送っているが返答がないこと、京の板木師に『松の落葉』の板木5枚の欠落について掛け合っていること、『吉野の山つと』がどうなったのか、熊谷の歌の評はどうかなど知りたいとある。	紙背に「133」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-9	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状ほか一括]			1包(2通)		2-15-9-1~2-15-9-2一括包紙入り。包紙上書「中村孫三郎様用書 藤井長門守」。「134」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-9-1	松の落葉之事	年未詳6月10日晚	横継紙	1通	「河より」『松の落葉』二、三之巻の抜摺を見せられたが、校合できたものではなかったのものでそのまま返却したところ、その後何の沙汰もないので状況を問い合わせ、この春渡した四ノ巻はもちろん二、三ノ巻も訳が立つよう取成してほしいと依頼したもの。	
2-15-9-2	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状]	年月未詳8日	横切紙	1通	「此状認拙子方々便上ヶ候を待候所一日々々と差合候而延々…」とあり、2-15-9-1の追伸か。筑前紙に消息文一章を書いたものを江口氏に送ったことなど伝える。	紙背に「135」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-10	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年月日未詳	横継紙	1通	兵庫に「河」の手代が出張するとのことだが、その名も居場所も失念しているので、名前と居場所を記した書付を明石中町の松屋太兵衛方へ送ってくれるよう「中村君」から申し聞かせてほしい、と伝えている	手代の名前と居場所の書付を明石へ送付する理由を書いた付箋が貼付されている。紙背に「136」の整理番号が鉛筆で書き入れられている
2-15-11	[藤井高尚宛 蒔閑牛書状]	年未詳9月29日	横切紙	1通	蒔閑牛→藤井長門守 『松の落葉』三之巻校合を早速確認して中村君へ送ったことを伝え、用命のあった芦手絵について芦と月は薄墨で、霞や岸水などは濃墨で仕上げるなど意匠の詳細についてやり取りしたもの。	絵柄に関する細かい記述が書かれた付箋が2枚貼られている。紙背に「137」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。蒔閑牛は大坂の挿絵画家。
2-15-12	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳9月27日	横切紙	1通	宛名の人物が船出した後、こちらから一書を送ったが返事がないが無難か、城戸方へ『後文集』下巻の試摺を返却する序に専用のことをお尋ねすると伝え、『松の落葉』の板木彫刻の一件、同書の懸札を三都の書林に置く件などについて、確認・要請を行ったもの。	紙背に「138」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-15-13	[中村氏亡母哀悼和歌]	年月日未詳	横切紙	1通	中村氏の母が亡くなったことを風の便りに知った「由」という人物がその死を悔やんで詠んだ和歌2首が記されている。「鳥部山烟の跡に消残り くゆるハ花の思ひなるかな」ほか。	紙背に「141」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-15-14	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳11月晦日	横切紙	1通	『松屋文後集』の板本校合が済んだものを送ったので、一覧の上で城戸へ渡して板木師に直させ、直ったものを確認してほしいと依頼したもの。	紙背に「142」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-15-15	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳7月11日	横継紙	1通	「おきん」という女性の処遇、質請について。おきんの処遇が決まらなければ、同人をこちらの下女と引き替え飯焼として家に置く心づもりなどと記す。	紙背に「143」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。

2-15-16	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状]	年未詳11月13日	横継紙	1通	福島よりいまだ挨拶もないが何かもつれているのかと問い、芝居中の出費が案外多いので来年からやり方を改める心づもりであること、講釈はあまり謙退だと聞く人に信じてもらえないので少々思い切って言い話すのがよいことなどを伝える。	包紙入り。包紙上書「二子にて 中村孫三郎様 御報被下候二不及候 藤井長門守」。包紙に「144」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-15-17	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳6月朔日	横切紙	1通	拙子の中風の具合も悪くないこと、涼くなってからお出で下さればよいことなど伝える。	下部破損。紙背に「145」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-15-18	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳5月2日	横継紙	1通	孫三郎が家替えた今度の家は華やかで庭も広く植木も元からあり、草花も作られていて、月も差し入り殊の外よろしい物件であること、来春は早く大坂に上り「かはち屋」に逗留して講釈は「少しばの屋」で実施するつもりであることを伝える。	紙背に「146」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-15-19	別陳(宛名未詳 藤井高尚書状)	年月日未詳	横切紙	1通	「干牛丸」を金200疋分買い取りたいので、近日舟便を出す際に金1両3歩2朱を差し上げる旨、伝える。	紙背に「147」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-15-20	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳6月15日	横切紙	1通	『松の落葉』『文後集』について塩長＝塩屋長兵衛・城戸氏に文通したこと、『松の落葉』凡例と一、二巻の板下の校合を行っており、二巻には直し落ち・見落としもないが、凡例には落字があるので塩屋長兵衛に直させることなどを伝える。	紙背に「148」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-15-21	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳12月22日	横切紙	1通	京庄家に止宿する件につき万事の掛け合いを拙子の存意通りに塩長＝塩屋長兵衛が取り計らってくれたことを喜び、貴家よりも文通ついでに塩屋長兵衛へ挨拶するよう伝える。また、勤解由よりも写本が届けられ大いに安心したこと、正月4日のことについて竹堂よりも挨拶が来たこと、太田監物画賛の一条についてなどを伝える。	紙背に「149」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-15-22	[藤井高尚宛 蔀閑牛書状]	年未詳5月18日	横継紙	1通	蔀閑牛→藤井長門守 『松の落葉』二之巻板下61丁分が完成したので、引き続き三ノ巻の制作に取り掛かるつもりだったところ、塩長方＝塩屋長兵衛が愚意に添わずいまだ取り掛かれていない、このまま放置するのは少子の本意でないので、板下引請先の河儀方への変更を許可してくれればすぐ取り掛かることができると伝え、塩屋との間に生じた問題について長文の事情を記している。	端裏に付箋あり。「蔀閑牛ノ状也、是ヲ先ニ御覧可被下候」とある。本文中にも付箋による補足がなされている。紙背に「150」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-16	[藤井高尚・高枝書状一括]			1括(13通)		2-16-1～2-16-13封筒入り一括。封筒上書「天野屋系図及書翰」(他資料の封筒を流用したもの)
2-16-1	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状]	年未詳7月24日	横切紙	1通	松齋→(中村孫三郎) 松の屋両婦人および清田屋義右衛門の三名から、詠歌・茶事の稽古について二子の中村先生に出講をお願いしたいとの仲介依頼を持ちかけられた高尚が、孫三郎に対して依頼に応じて出講してくれるよう伝達したもの。	包紙入り。包紙上書「二子村にて 中村孫三郎様 至而急儀用事平安ノ事 宮内 藤井長門守」。包紙に「101」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-16-2	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳7月16日	横継紙	1通	返書をみたが急ぎ書きのせいか所々読めず文意が解せないと断った上で、事前の話し合いに相違して自分から小田氏への書状を帯江陣屋を介して届けることが困難となっていることに疑問を呈し、自分の存生中に書物の板行を実現するため小田氏と連絡をとって板下校合・板木試摺などにつき永楽屋の考えを尋ねるたい、保養のため新田の植田家まで歩行するつもり、と伝えている。	
2-16-3	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状]	年未詳5月29日	横継紙	1通	『源平拾遺』を売りさばいてくれた分の代金については盆前に購入者から取り集め、盆後に送ってくれたらよいと伝える。また、沖新田の某家に新板の本を御礼に贈りたいが手元がない、蔀閑牛が板下を仕立てた『神ノ御蔭日記』、京の池田主計允が板下製作中の『松屋文後々集』が新板で出るのでそれを贈れば「一枚十文之筆耕料」より少しはよい値になる、と述べている。	絵柄付きの封筒入り。封筒上書「中村孫三郎様 御再三之 藤井長門守」。

2-16-4	〔中村孫三郎宛 藤井高尚書状〕	年未詳12月25日	横切紙	1通	歳晩賀儀の金子および「御家の詞」執筆の謝金を贈られたことに謝意を述べ、尚齒会製本引受の件、文章袋仕立ての件、二子の中村氏への届け物といって筆を持参し代金を立て替えてくれるよう言ってきた法師のことを伝える。	包紙入り。包紙上書「中村孫三郎様 奉復 藤井松齋」。
2-16-5	〔中村孫三郎宛 藤井高尚書状〕	年未詳8月17日	横継紙	1通	孫三郎が足痛のうえ発熱があって明日の出立が難しいと聞き、明後日朝の8つ時に二子より駕籠にて岡山へ出向くよう伝え、待ち合わせ場所の中買町片上屋堂右衛門方で正6つ時に落ち合い、そこで駕籠を乗り換えて岡山を出立、藤井宿での約束に間に合うようにしよう、片上まで行けば懇意な志賀宇右衛門がいるので貴君はそこで一両日居残ってもよいと思う、と伝える。	包紙入り。包紙上書「二子 中村孫三郎様 至而急用 宮内藤井長門守」。包紙に「105」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-16-6	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳6月15日	横切紙	1通	蔀間牛が板行引受先を「河氏」＝河内屋へ変更しなければ『松の落葉』三、四ノ巻の板下を書かないと言ってきた件につき、岡山より急ぎの飛脚をもって依頼したもの。この書状に詳細に記した解決案をもって大坂河内屋と「塩長」＝塩屋長兵衛との掛合を済ませた上で、大坂での問題は済んだと添え書きして京都へ送るよう指示している。	
2-16-7	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳12月29日	横継紙	1通	歳暮の贈答品(砂糖など)に対する礼を述べ、宛先の人物が紀州へ送ろうとしている歌の書き抜きを預かったので上方出立前までに紀州へ遣わすつもりだ、業合氏にもそのことを伝える、と記す。	
2-16-8	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳3月7日	横継紙	1通	藤井長門守→「表之方入用」は先だっの借用銀で済ませたが、種々のことがありもう100匁借用したいこと、去年拝領した肩衣を着用して今度の14日に初めて役場宗門改に出勤することを伝えている。	
2-16-9	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳3月20日	横継紙	1通	西国橋の米熊が大坂へ帰る便に言づけてこの書状を送ること、この地方で風邪が流行して困っていることを述べ、4月5～6日に亡父の25回忌霊祭を行った後、備後守に押し含めた上で4月10日ごろ浪華へ出向き、5月末に帰る予定であることを伝える。	
2-16-10	〔中村孫三郎宛 藤井高枝書状〕	年未詳5月14日	横継紙	1通	藤井左衛門介高枝→中村孫三郎 高枝の亡母の葬式に参列予定だった孫三郎は足痛のため欠席し代わりに菓子などを贈った。これに高枝が深く感謝の意を述べ、当月17日・18日の亡母の50日霊祭への参加を案内し、霊祭までに金20両ほど用意してはくれないだろうか、と打診したもの。	端裏書「高枝梅ノ礼書」。端裏に「112」の整理番号が鉛筆で書き入れられている。
2-16-11	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳11月7日夕	横継紙	1通	前書で「河氏」＝河内屋の仕方は甚だ気に障り痛に障ると書いたが心落ち着いてみると考えるとところもあったので同人には伝えなくてよい、と述べる。また、『文集』の出板は来年でもよろしいが『松の落葉』は貴君が一通り落丁などの有無を確認した上で全部の試摺を送ってほしい、「塩長」＝塩屋長兵衛への用立金の割合は拙子3両貴家5両でもその逆でもよい、と伝える。	
2-16-12	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳8月13日	横切紙	1通	少々歩行できるようになったので明14日に出かけ、福島江口家主人は留守でも子息がいると思うのでちょっと参り、倉敷水沢は忌明けなのでこの家へ移り、そこから新田の植田家へ行く予定でいること、手代の島田太仲は当分差障りにて宮内まで出かける暇はないと言っていたが倉敷まで出かけて知らぬ顔もいたし兼ねるので水沢家で会おうと思っていることなど伝える。	
2-16-13	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳正月17日夜	横切紙	1通	銀子について、早春には300目ほど用意できそうなので旧冬そのことを申し上げたが、互いの認識に何かの行き違いが生じ、そのことを釈明したもの。	

2-17	〔中村禎助宛 久兵衛書状〕	年未詳11月19日	横継紙	1通	早島溝手内久兵衛→中村禎助 中村孫三郎の存生中に借用した茶席道具一式を返却するので御入手下さるようにと伝えたもの。返却する茶道具(江岑棚など)の目録が記されている。	
2-18	〔借用証文・消息類一括〕			1括(16通・1冊・1括)		2-18-1~2-18-18綴紐一括。
2-18-1	稲荷大明神	文化2年丑正月吉日	折本	1冊	日本国中に1356社あるという稲荷大明神を列挙したもの。「いなりの太社山城国ふかくさいなり大明神、西三十三ヶ国備中口ん一玉姫めいなり大明神」など。	裏に「谷屋武蔵 此主」とある。
2-18-2	覚	年未詳戊寅12月朔日	横切紙	1通	長興カ→谷屋弥七 元銭30匁の借用証文。	途中が千切れかかっており取扱い注意。
2-18-3	覚	年未詳庚子極月29日	横切紙	1通	藤屋宇助→谷屋弥七 銀128匁の受領証。	
2-18-4	〔某消息〕	年月日未詳	折紙	1通	保(署名カ)→宛名未詳 昨夕は色々と咄も出来てうれしかった、いつもの時分に寝入ってしまった、今夕は淋しい、などと書かれている。	
2-18-5	覚	年月日未詳	横継紙	1通	千光寺坂の6畝をはじめ12筆分の畑の面積と高を列挙したもの。	
2-18-6	口上	年月日未詳	折紙	1通	安→御あねさま 断簡。冒頭の挨拶部分のみ残存。	途中から半分に破り取られている。
2-18-7	〔中村氏関係俳句・消息類〕			1括(2通)		2-18-7-1~2-18-7-2折込み一括。
2-18-7-1	〔俳句〕	年月日未詳	縦紙	1通	八十拜 母君に深く孝養してきた中村何某が今日男になったのを見て、元娘曾我を思い出して詠んだ俳句。「成人や其かひ有て花の枝」。	
2-18-7-2	〔某消息〕	年月日未詳	横継紙	1通	先日あれこれ取り揃え送ってもらったものの取込みせわしく「大きニ心外の御無さた」をしてしまったが、遅ればせながら中村孫三郎様をはじめ鉄松へもよろしく御礼・寒気御見舞を申し上げる旨を伝えたもの。	紙背にも試し書のようなものが書き込まれている。
2-18-8	〔中村御ふもじ宛 りのカ消息〕	年月日未詳	横継紙	1通	□□□リのカ→中村御婦もし様 先月29日に帰った際ちよっと参るはずだったが無沙汰しており、遠からぬうちに参って御咄したい、貞介様へよろしく御伝えください、などと書き送ったもの。	
2-18-9	〔中村禎助宛 岡本栄助書状〕	(天保13年カ)9月11日	折紙	1通	岡本栄助永(花押)→二子村禎助 禎助の養父が養生の甲斐なく病死したことに驚き、弔意を書き送ったもの。	虫損あり。
2-18-10	済証文之事	明和7庚寅年10月	縦紙	1通	橋本屋吉左衛門→戎屋常右衛門・谷屋弥七・札屋彦兵衛・浜田屋善左衛門 明和5年に家島で橋本屋の船が難船になった際、大坂荷主6軒・早島荷主4軒と熟談して補償銀の出銀分担を定めたが、橋本屋の出銀が延引したため半額の負担で済ませることを互いに了承・確認したもの。	
2-18-11	〔中村後室・中村健治宛 加藤新五郎書状〕	年未詳12月晦日	横切紙	1通	加藤新五郎カ→中村御後室・中村健治 中村孫三郎の死去を伝え聞いた新五郎が弔問のために書き送った見舞状。	虫損あり。
2-18-12	壹年切売渡シ申田地之事	明和5戊子年12月8日	縦紙	1通	売主市場村助作・口入はなや権治郎→小浜はまたや善左衛門 当御年貢上納のため千光寺坂の中田6畝ほかを売り渡し、代銀を受領したもの。	年寄太郎右衛門・庄屋口左衛門奥書あり。虫損あり。
2-18-13	覚	年未詳庚子12月29日	横切紙	1通	九郎兵衛→谷屋弥七 講銀60匁の受領証。	

2-18-14	借用申銀子証文之事	明和9口辰年 12月	豎紙	1通	銀請主頓行カ村庄次郎→浜田屋善左衛門 大たわの中畑4歩を質物として銀を借用し、来る己の10月中に元利を返済する旨約束したもの。	庄屋彦四郎の奥書あり。端裏書「大たわ長津帳 頓行庄治郎」。
2-18-15	借用申銀子之事	宝暦13未年 極月	豎切紙	1通	大工伊兵衛・宗四郎→谷屋弥七 銀子400目を借用し来る申の10月までに返済する旨約束したもの。	
2-18-16	覚	安永3午年12 月23日	豎継紙	1通	伏見屋三郎右衛門→八文字屋七左衛門 浜田屋善左衛門分の銀600目受領証。	
2-18-17	[安宛 覚証書状]	無神月2日	横継紙	1通	覚証→安 秀太夫君の大病を心配し早速見舞いに出かけるはずだったが心外なことに出かけなくなったことにつき詫びたもの。	
2-18-18	預申銀子之事	安永2巳年12 月17日	豎切紙	1通	浜田屋善左衛門→谷屋弥七 銀1貫目を借用し来年正月中に元利相違なく返済する旨約束した借用証文。	
2-19	覚	年月日未詳	豎紙	1通	吉岡宗七郎→中村孫三郎・中村源次郎 生鯛・備前長船の刀剣・扇子の進呈目録	
2-20	売渡申田地之事	天保13年壬 寅12月	豎紙	1通	二子村売主禎助・同村証人勘十郎→庭瀬御屋敷宮田おりう 当寅の御年貢を上納するため、前五反田の田地3ヶ所を5年の期間を区切って売り渡し、代銀札2貫500目を受け取ったもの	二子村庄屋健治の奥書あり。包紙あり、上書「宮田氏証文帰入分」
2-21	[買入証文一括]			1括(5通)		2-20-1～2-20-5紙綴一括。紙綴上書「買入証書」
2-21-1	流地証文之事	安政4年丁巳 12月	豎紙	1通	売主二子村組右衛門・証人同村藤八郎→二子村禎助 年貢上納のため銀555匁を借用し、流地として田地を引き渡したものの。	庄屋官蔵の奥書あり。
2-21-2	売渡申田地証文之事	弘化4年未12 月	豎紙	1通	売主勘十郎・証人幸蔵→貞助 山下の田地4畝13歩半を売り渡し、年貢上納のための代銀360目を受け取ったもの。	庄屋又六の奥書あり。
2-21-3	売渡申田地証文之事	弘化4年未12 月	豎紙	1通	売主二子村勘十郎・証人同村幸蔵→貞助 二子花の田地4畝26歩を売り渡し、年貢上納のための代銀420目を受け取ったもの。	東庄庄屋伊三郎の奥書あり。
2-21-4	売渡シ申田地之事	嘉永6年丑12 月	豎紙	1通	売主定平治・証人菜吉→貞助 田地4畝5歩を売り渡し、当暮の年貢上納のため代銀375匁を受け取ったもの。	庄屋中村健治の奥書あり。
2-21-5	壱ヶ年切売渡田地之事	安政4年丁巳 12月	豎紙	1通	売主文吉・証人幸八・同断宇吉・同断権蔵→禎助 田地3畝歩を売り渡し、年貢上納のため代銀460目を受け取ったもの。	庄屋周平・庄屋後見長瀬市太夫の奥書あり。
2-22	[歌稿・大坂書肆関係書状類一括]			1括(24通・ 2括・2纏め)		2-22-1～2-22-28紙綴一括。
2-22-1	[宛名未詳 某書状]	年未詳7月7 日	横継紙	1通	自分が当月無事に帰国したことを伝え、大坂表天野屋指引については別紙にて申し上げること、そのほかの取替銀については当盆前にお越しくさるようお願いすることを伝える。	
2-22-2	口上(中村先生宛 塩屋長兵衛書状)	年未詳9月14 日	横継紙	1通	塩屋長兵衛→中村先生 注文品の送り状。『さらへ考』『禁秘抄』などの書物や『住吉図』『南都図』などの絵図を含む注文品について代価を記した目録を示し、『住吉沿革図』など江戸の出板物でこちらにないものは後日発送する旨を伝えている。	
2-22-3	書出し(中村先生宛 塩屋長兵衛請求書)	年月日未詳	横折紙	1通	塩屋長兵衛→中村先生 ある年の6月20日～11月15日に購入した『中古類題』などの代銀総計から各種引き分を差し引いた額を示したものの。	
2-22-4	[中村寛消息・詩文一括]			1括(2通)		2-22-4-1～2-22-4-2巻込み一括。
2-22-4-1	[中村寛消息]	年未詳きさら ぎ20日余り4 日	横切紙	1通	寛→■明大とこカ 「めつらかなる御せうそこうけ玉りぬ…」とある。	
2-22-4-2	元日集りて酒のむといふ題に	年月日未詳	横切紙	1通	寛 「む月立ぬる日は春のよろこひいはんとて…」とある。	

2-22-5	〔歌学・出版関係書類一括〕			1括(6通・1括)		2-22-5-1～2-22-5-7折込み一括。
2-22-5-1	〔中村先生宛 浅野佐七書状〕	年未詳4月12日	横継紙	1通	浅野佐七→中村先生 先ごろ『八代集抄』上巻を全部差し上げたが書面と書籍を別々に送ったので念のため窺うと述べ、藤井松齋先生も壮健で在坂していること、国元の近所での火事見舞い、勸進能の開催日限が決定せず待ち遠しいことなどを伝える。	
2-22-5-2	〔歌稿一括〕			1括(2通)		2-22-5-2-1～2-22-5-2-2折込み一括。
2-22-5-2-1	〔中村寛和歌書付〕	年月日未詳	横切紙	1通	寛「七夕 かさねあけはいかなる山やたくふへき ふたつの星の つもるおもひを」など4首の和歌を記す。	
2-22-5-2-2	〔歌句書付〕	年月日未詳	横切紙	1通	「数ならぬ 身もほとほとに おのか志へ ねかふるのミ おほかるを かゝるつたなき すく世にて…」などと記す。	
2-22-5-3	〔中村寛和歌書付〕	年月日未詳	横継紙	1通	「昌邦ぬし」が関東へ下る際に詠んだ和歌への返歌ではないが、との詞書を添え、和歌3首を記す。「問とはむ言の葉のみかほともなく 又あふ坂の秋をこそまで」など。	
2-22-5-4	〔中村先生宛 浅野佐七書状〕	年未詳9月14日	横継紙	1通	浅野佐七→中村先生 松屋先生の御止宿についての心労を謝し、とりあえず御止宿処は決まったこと、御講席は妙勤寺を用いることにしたことを伝え、品物の注文と代金支払いにつき礼を述べたもの。	
2-22-5-5	覚	年未詳7月28日	横切紙	1通	名田屋佐七→中村様 『琴曲抄』『雅譜集』など中村氏から注文を受けた書籍類につき代価を示した代金請求書。	
2-22-5-6	〔宛名未詳 浅野佐七書状〕	年月日未詳	横継紙	1通	松屋先生の上坂時の御止宿および稽古場として借り受ける予定の妙勤寺、仲介人の守広氏をめぐって、借り賃なども含めた問題が生じ、やりとりしたもの。	長文で後欠、内容と字体から浅野佐七の書状と推定。
2-22-5-7	〔中村先生宛 塩屋長兵衛書状〕	年未詳8月14日	横継紙	1通	長兵衛→中村先生 注文のあった『中古類題』の値下げ本を送ること、「八伊」が少しばかりの本代を支払った後とんと音沙汰ないこと、江口様も当春昨年勘定についてやり取りした際少し注文を受けたがその後連絡が絶えたことを伝える。	
2-22-6	〔紀行文〕	年月日未詳	横切紙	1通	明石より兵庫へ行き旅宿を求めて舞子の浜の松原近くを辿った際の様子、9月10日住吉明神に参詣した時の様子を叙述し、それぞれ和歌を詠んだもの。	
2-22-7	〔中村先生宛 浅野佐七書状〕	年未詳4月20日	横継紙	1通	浅野佐七→中村先生 『八代集抄』代料を受け取ったこと、松齋先生(藤井高尚)は随分壮健で講釈も4月3日で休みになったこと、大坂で旧冬より数度の火災が起きているが当地や船場中は無事であることなどを伝える。	
2-22-8	〔和歌書付〕	年月日未詳	横切紙	1通	「我君は千代にましませさゝれ石の いはほとなりて苔のむすまで」など和歌2首を記す。	模様刷りの料紙を使用。
2-22-9	〔中村寛和歌書付〕	年月日未詳	横切紙	1通	寛「松島といへる所にて百人一首のかうさたしけるはての日によみ侍る」との詞書を付して和歌2首を記したもの。	
2-22-10	覚(和書価額書付)	年月日未詳	横継紙	1通	『源氏物語』56冊、『八代集抄』50冊、『大和物語』6冊、『六百番歌合』8冊など、書籍ごとに値段を記述したもの。	
2-22-11	覚(中村先生宛 塩屋長兵衛書状)	年未詳3月26日	横継紙	1通	塩屋長兵衛→中村先生 『類聚方集覧』『列仙伝』など和書図画類の購入代銀について、過銀差し引きの上支払いを求めたもの。	
2-22-12	〔中村先生宛 塩屋長兵衛書状〕	年未詳11月23日	横半	1通	塩屋長兵衛→中村先生 「八伊」代銀をいまだ申し受けていないこと、倉敷秀松屋が尊家様への代銀を為替で送ったことについてなど。	内容は書状だが、横半を袖で貼り合わせ帳面状に仕立ててある。

2-22-13	住吉奉納廿首和歌	年月日未詳	縦紙	1通	小川布淑・四方田長淳・前波黙軒などの詠じた奉納和歌20首を記す。	奥に「大森忠之主の仕へ奉る口御社奉納の歌也」とある。
2-22-14	[中村先生宛 塩屋長兵衛書状]	年未詳6月13日	横継紙	1通	長兵衛→中村先生 松屋先生もこの節は帰省して御休息されているものと存ずると述べ、先頃拙作を小本の卦に少々したためたものを『譚潜序』という本1冊を添えて舟便で送ったので、お馴染みの余興と思って御覧くださいと伝えたもの。	奥に同日付けで中村先生に宛てて名田屋佐七が送った和書の代金請求書が記されている。
2-22-15	[中村先生宛 浅野佐七代金請求書]	年未詳未12月	横継紙	1通	浅野佐七→中村先生 『袖珍古言梯』『琴曲抄』など和書の代金請求書。	
2-22-16	[雅言書付]	年月日未詳	縦紙	1纏め	「しか かくとかなし 御心なり 我心なからまゝならぬ也 …」など、和歌や文学作品で用いられる単語・文節を散らし書き状に記している。	3枚1まとめ。
2-22-17	[宛名未詳 某書状]	(天保11年)9月25日	横継紙	1通	松齋先生(藤井高尚)の病気が重くなり8月朔日ついに逝去したとの報に驚いてお悔やみの言葉を述べ、高尚死去の報せが生駒氏には伝わっていなかったので自分から委細を話し、その他諸方面に報せたこと、葬式の形式的なことについて書き送ってほしいことを伝える。	端裏書「九月廿五日」。
2-22-18	[中村孫三郎・礪之助宛 周■書状]	年未詳3月17日	横切紙	1通	伯母様が道中無難に15日暁方に到着し、翌日は休息して17日晩に伊兵衛の舟にて下ったことを伝えたもの。	端裏上書「孫三郎様 礪之助様 ■下 周■」。
2-22-19	[小柴舎君の妹宛 ■おき書状]	年未詳菊月はつか	横切紙	1通	■おき→小柴舎君のいと 今日君のひとり居られるのを随分淋しい思いをしているのではと想像している、お暇の際もあるようなら君が来てくれるのを待っている、といった内容。	
2-22-20	[和歌詠草]	年月日未詳	横継紙	1通	「春立ける日」「春風解氷」「文政山のことを」などの歌題で和歌12首を記し、友もなく一人で詠んだ歌なので遠慮なく御加筆いただきたいと伝えたもの。	
2-22-21	[中村賢兄宛 高雄和歌詠草]	年月日未詳	横継紙	1通	高雄→中村賢兄「菊契千秋」などの歌題で「皆々此程の口ずさみ」という和歌8首を記して送ったもの。	
2-22-22	[和歌詠草]	年月日未詳	横継紙	1通	「ひとりね」「口かたむ」「いはて思ふ」などの歌題で和歌5首を詠んだもの。	
2-22-23	[中村寛和歌詠草]	年月日未詳	横折紙	1通	寛「寄屋恋」「富多山にのほりて」などの歌題で和歌6首を詠んだもの。	
2-22-24	[和歌詠草]	年月日未詳	横折紙	1通	「初冬暁」「原寒草」の歌題で和歌4首を詠んだもの。	
2-22-25	琴笛などあそひものかたりす	年月日未詳	縦紙	1通	寛「仲国かものせし亀山のほとり口あらて難波の大城の北なる川つらを行にも音きこゆ…」とある。	
2-22-26	[根来の君宛 中村寛書状]	年未詳きららぎ10日	横切紙	1通	寛→根来の君の御もとへ「きのふは朝またきよりかしこき御蔭にて永きよのくるしもしらてゆくりなく楽しみくらしいとゝうれしうなむ…」などとある。	模様刷りの料紙を使用。
2-22-27	[物語講釈書抜書]	年月日未詳	横切紙	1纏め	「源氏 いつれ御 更衣女御ノ次也 いとやんことなき」などとあり、古典の文章から単語・文節などを抜き書きしたものか。	4枚1まとめ。4枚目紙背に「源氏聞書外にも帳面のしるし置有之」とある。
2-22-28	暮秋雨	年月日未詳	縦紙	1通	「風そよき今はとくれて行秋の かたみにのこすよはのむら雨」など、「暮秋雨」の歌題に沿った和歌5首を詠んだもの。	
2-23	[中村寛文稿]	文政11年12月	縦紙	1通	「松生ぬしハ世々少彦名の神の教へを守りて医の道を業とし玉ひけるに…」。医業を営む「松生」氏について叙述したもの。	

2-24	[文稿]	年月日未詳	縦紙	1通	箕島の里の大橋寿山を初めて訪ねた際の事柄を散文にまとめ和歌を添えたもの。	校訂の書き入れあり。
2-25	小柴の屋引受方約定	文政7申年11月	縦紙	1通	中環玉・牧野口三郎唯宗・荒井庄右衛門広・堀尾安三郎岸根・山本長兵衛春口・吉川儀蔵道照・近藤作次郎正口『松の屋文御集』板行を受け、以後旨趣を申し立て連中の列を離れたりしないこと、余儀なき故障で学室への出席を休むことがあっても詠草などを怠りなく差し出すこと等を誓約したもの。	虫損による破損あり。
2-26	[中村寛文稿]	文政13年3月21日	縦紙	1通	吉備のミちの中より浪速の小しばの屋に來りをる中村寛 中西正栄(字は弥太郎)が住吉大社で拾って所持している珍しい石について叙述したもの。裏には「うめの初花のはしかき」と題する別の文章を記してある。	虫損による破損あり。
2-27	[書状類一括]			1括(23通)		2-27-1~2-27-23紙綴一括。
2-27-1	[書状案文]	年未詳霜月17日	横折紙	1通	酒肴を贈られたことへの返礼などについての草案か。	
2-27-2	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横切紙	1通	大坂出立について、弥三郎が出立する予定なのか、船で出かける予定なのか、高沼君に出船について状況を聞き合わせてくれるよう依頼したもの。	差出・宛名部分を欠いており、断簡か。
2-27-3	[中村鉄杉宛 奈良敬輔書状]	年月日未詳	縦紙	1通	下拙が当月3日の8つ前に出帆しその夜の5つ時に到着したことを伝え、病人の容態が心配なので病状を承りたいと述べたもの。	上書「中村鉄杉様 奈良敬輔」。
2-27-4	[宛名未詳 某書状]	年未詳9月6日	横切紙	1通	中村孫三郎が長病の末養生かなわず明るる5日に死去したとの報せを受け、お悔やみを伝え「中村皆様」への取成しを依頼したもの。	
2-27-5	[小国屋源次郎・同儀右衛門宛 岩田屋三郎兵衛書状]	年未詳正月28日	横折紙	1通	岩田屋三郎兵衛→小国屋源次郎・同儀右衛門 線綿包1俵を愚妻方へ送ってくれたことに御礼を述べたもの。	
2-27-6	[紀行文]	年月日未詳	横切紙	1通	播磨国内を通行した筆者が宿泊地や立ち寄った名所について記したもの。14日に姫路銭屋に宿泊し、十五日に曾根天神へ参詣、加古川より馬に乗り大久保・明石方面へ向かっている。	
2-27-7	[宛名未詳 某書状]	年未詳2月12日	横継紙	1通	不要になった脇差を売却したいとの相談を受けた差出人がこれを承知し、早々の御出でを願ったもの。	
2-27-8	[宛名未詳 宮崎昌行書状]	年未詳3月7日	横折紙	1通	宮崎昌行→(宛名墨塗にて抹消、読み取れず) 御母公様の病気について様子を承りたいと伝えた見舞状。	
2-27-9	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横継紙	1通	酒屋孫三郎が養生かなわず死去したとの報せを受けて弔意を伝え、葬礼の際に何の勤めもしなかったことを詫びたもの。	差出・宛名部分が切断されている。
2-27-10	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横切紙	1通	新春・年始祝いを述べたもの。	草案か。差出・宛名部分なし。
2-27-11	[宛名未詳 某書状]	年未詳3月7日	横継紙	1通	生鯛1尾をもらったことへの礼状。	差出・宛名部分なし。
2-27-12	[利生院宛 中村礒右衛門書状]	年未詳3月23日	横切紙	1通	調印のため今日少子が出向いて御印判を拝借するつもりだったが、拠無い用事が出来て大失敬したと伝えたもの。	端裏上書「利生院様 貴下要書 中村礒右衛門」。
2-27-13	[徳治宛 藤井内書状]	(天保13年)9月6日	横切紙	1通	藤井内→徳治 孫三郎が病気のため今朝亡くなったとの報せを受け驚いたが、祭礼前神用繁多のうえ左衛門(藤井高枝)も留守中で無音に過ごしたことを詫び、左衛門の帰宅次第お悔やみを申し上げる旨を伝えたもの。	藤井高枝留守中につき家内が代わって連絡したもの。
2-27-14	[鉄助宛 奈良敬輔書状]	年未詳6月朔日	横継紙	1通	敬輔→鉄助 当3月より長尾へ引き取り開業したが追々病用繁多となり一安心していることを伝え、中ノ庄伯父様によろしく伝えてくれるよう願ったもの。	

2-27-15	[中村孫三郎宛 ■■■や嘉二郎書状]	年未詳6月15日	横継紙	1通	■■■や嘉二郎→中村孫三郎 当方で異事があったが放念してほしいこと、御後室様へ然るべく伝えてほしいことなどを願ったもの。	
2-27-16	[茶室関係書付]	年月日未詳	横継紙	1通	中板・向板の設えなど茶室の間取りについて、挿絵を入れて記述したもの。	冒頭部分欠損。
2-27-17	[宛名未詳 某書状]	年未詳3月24日	横継紙	1通	沢所水門尻中堤の服付普請および九造の居宅普請取り掛かりについて依頼したもの。	
2-27-18	[宛名未詳 某書状]	年未詳11月28日	横継紙	1通	宮内尊大人の逝去について報せてくれたことを謝し、左衛門様から何の沙汰もないこと、京城戸・大橋氏らよりの弔い状・香料が送られてきたので	
2-27-19	口書	年月日未詳	縦紙	1通	自分が庄屋・年寄らの取り計らいが村方のためにならないなどと言いつらしている、との風聞により実否について尋ねられたが、そのようなことは一言も申した事実はない、と弁解したもの。	
2-27-20	[中村宗匠宛 某書状]	年未詳閏7月カ	横継紙	1通	(花押)→中村宗匠 こちらで広間8畳敷・小座敷2畳などを備えた建物を普請しており、大坂唐物町の家は7月いっぱいまで明け渡し当月4日の稽古は伊藤屋にて催し、9日より西隣の新座敷へ移るつもりであることを伝え、当秋御上坂いただければ臨時の一服も進上し積もる物語もしたい、と伝えている。差出人は「刀脇差の商人」で「学文ハ少しもなし」というが茶道をたしなむ者で、近隣の茶人宗匠に関する情報をも書き送っている。	長文。冒頭部分欠損。
2-27-21	[中村孫三郎宛 吉沢粟野太夫書状]	年未詳9月吉日	横折紙	1通	吉沢粟野太夫未(花押印)→中村孫三郎 嘉例の御祈祷・御祓大麻と祝儀を進上する。	
2-27-22	[西屋敬次郎宛 佐伯屋藤八郎書状]	年未詳3月晦日	横継紙	1通	佐伯屋藤八郎→西屋敬次郎 当月限返済銀子の件につき孫三郎より紙面をもらい、礪右衛門が登坂し彼の地で大病にかかったものの近日快方に向かっていること、銀子の件はまだ用談も出来ない状態なので今少し延引することなど報せを受けたと記す。	
2-27-23	[中村孫三郎宛 吉沢粟野太夫書状]	年未詳9月吉日	横折紙	1通	吉沢粟野太夫未(花押印)→中村孫三郎 嘉例の御祈祷・御祓大麻と祝儀を進上する。	
2-28	[書状類一括]			1括(85通・1枚・仮1冊・1纏め)		2-28-1~2-28-88紙綴一括。
2-28-1	[浜田屋善左衛門宛 花沢六兵衛書状]	年未詳6月2日	横継紙	1通	花沢六兵衛(印)→浜田屋善左衛門 「新表」を少々購入したい、注文より過大な品物を用意するのは無用にしてほしいと伝え、具体的な注文品の具体的な番付・数量などを伝えたもの。	
2-28-2	[中村先生宛 塩屋長兵衛書状]	年未詳8月8日	横継紙	1通	長兵衛→中村先生 注文の品(倭節用の新板・さらへ考など)についてやり取りし、先生様より御細書が到来したこと、京都より宮内先生宛の書状が届いたので貴家様宛の手紙に同封して送ることなど伝える。	
2-28-3	[某書状・受領証一括]			1纏め(2通)		2-28-3-1~2-28-3-2巻込み一括。
2-28-3-1	[宛名未詳 某書状断簡]	年月日未詳	横切紙	1通	唐白虎山水の装潢料を七郎次様へつかわしたとの報せを承知したこと、浦上氏の用事について初秋以来数度書状を出しているが一度も返書がなく困っていることなどを伝える。	中に2-28-3-2を巻込み。後半欠か。
2-28-3-2	覚(大坂書林金受領証)	年未詳未9月14日	横切紙	1通	名田屋佐七(印)→中村先生 金受領証。	2-28-3-1の中に巻込み。

2-28-4	[先生宛 塩屋長兵衛書状]	年月未詳20日	横切紙	1通	長兵衛→先生様 藤井松齋も退屈していると思うが、23日より勸進能が始まる予定で開帳見せもの遊山の客をあてにしていた商人が皆落涙していると伝え、松齋先生が秋に上坂する際に何卒お繰り合わせの上お出で下さるのをお待ちしている、と書き送ったもの。	
2-28-5	[真野竹堂宛 某書状]	年月日未詳	横切紙	1通	昨冬高松より牛窓へ渡り陸路を帰ったこと、帰京は極月5日になりそうなこと、牛窓は月色がとてよく詩を作って楽しんだことなど伝える。	「竹堂真野老先生 侍史」とある。
2-28-6	[宛名未詳 某書状断簡]	年月日未詳	横継紙	1通	病気の全快祝いと無沙汰のお詫びを述べ、倉敷の客が延引し昨日「熊」が人をつかわしたところ別紙の通り返事が来たのでご覧に入れると伝えたもの。	後半欠か。
2-28-7	[中村礒右衛門宛 性徳院書状]	年未詳7月19日	横切紙	1通	地蔵尊のことについて無遠慮な返事をしたことに気付いて釈明したもの。『和語陰騭録』全1巻が必要なので返却してほしいと記した「覚」が貼付されている。	冒頭部欠損、文書の紙面に「覚」が貼り付けられている。
2-28-8	[中村孫三郎遺族宛 真野唯蔵書状]	(天保13年カ)12月5日	横継紙	1通	真野唯蔵→中村孫三郎御跡 中村孫三郎が先だって死去したとのことについて一向に知らず、お悔やみも申し上げなかったことを詫びたもの。	
2-28-9	[中村寛和歌詠草]	年月日未詳	横継紙	1通	寛「夏草露」「或人の墓にまうてけるにいたく草生繁りたるをかなしみて」などの題で和歌8首を詠んだもの。	歌句に添削がなされている。
2-28-10	[中村君宛 権齋書状]	年未詳8月晦日	横継紙	1通	権齋→中村君 宮内において尚齒会開催とのこと聞き、珍しい円居をうらやましく思ってその席に列なる心持で歌を詠み、松の屋大人へ遣わしたことなどを伝える。	
2-28-11	[宛名未詳 某書状]	年未詳5月19日	横継紙	1通	御本家礒右衛門の逗留中諸入用・密葬入用残銀の処理についてやりとりしたもの。	端裏に「五月十九日」とある。
2-28-12	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横継紙	1通	銀子のことについて菊三郎に厳しく申し聞かせてほしいと依頼し、もし菊三郎に異変があれば旦那様に頼んで早速私どもが出向き、不足の銀子を滞りなく受け取るつもりだと伝えたもの。	
2-28-13	覚	年未詳11月21日	横切紙	1通	無津久右衛門→谷屋弥七 検見下の引き分・洪水砂入による引き分を示し、庄屋にて帳面をご覧のうえ引き合わせてほしいと伝えたもの。	
2-28-14	[宛名未詳 某書状案]	年月日未詳	横切紙	1通	今日出勤すると申し上げたが風邪のため出勤できず失敬したと伝えたもの。	同じ趣旨の文面が紙面の表裏に書かれている。
2-28-15	[宛名未詳 某書状]	年未詳11月28日	横継紙	1通	米の相場について、この間より大きく違い下落して65匁くらいであること、庭瀬・撫川・妹尾(瀬の尾)・早島あたりの両替札相場も高値で64匁6分くらいであることを伝え、金5~60両時借の依頼を断る旨、回答したもの。	
2-28-16	[和歌詠草]	年月日未詳	横切紙	1通	「池水半氷」「閑路雪朝」などの歌題で和歌4首を詠んだもの。	
2-28-17	[中村孫三郎宛 中村某書状]	年未詳7月8日	横継紙	1通	中村→中孫三郎 今日遠方から御子息様が御来光になったこと、書状を昨晚拝見し返事を御子息様に渡したこと、何らかの事柄について松島堀尾氏へ委細話したことなど。	
2-28-18	覚	年月日未詳	横継紙	1通	『源氏物語』『八代集』『新勅撰和歌集』『長秋詠藻』などの和書の値段と総計を示したもの。「右直段ハ上方方本屋下り居申直段」とある。	
2-28-19	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横切紙	1通	平田老人よりの申し越しに従い御菓子料を進上し、かつ珍しい品ではないが西瓜1つを当方より進上するので御笑味くださいと伝えたもの。	

2-28-20	奉公人御請状之事	明和3年丙戌 極月	縦紙	1通	奉公人親帯江沖新田彦兵衛・請人早島沖新田治右衛門・口入同市場助九郎→早島谷屋弥八 彦兵衛の娘さわを当戌極月より来る亥の極月まで奉公に出し72匁を受け取ったこと、一日でも奉公に従事しないようなことがあれば人代・日雇賃銀を立替えることなど契約したもの。	冒頭部やや虫損あり。
2-28-21	[中村禎助宛 江口亀之助書状]	年月未詳20 日	横継紙	1通	亀之助→二子禎介 昨日の晩になって足が痛くなり明日の酒津行きは覚束ないので延引してほしいと伝えたもの。	端裏上書「二子中村禎助様 大急内用書 福島江口亀之助」。
2-28-22	覚	年未詳10月 12日	横継紙	1通	浅野佐七→中村先生 『掌中和歌童翫抄』『袖珍古言梯』など和書の購入代金と支払い状況を報せたもの。	
2-28-23	[手習]	年月日未詳	縦紙	1通	書状冒頭の挨拶文を記す。	
2-28-24	[東叡山寛永寺三十五坊書付]	年月日未詳	横継紙	1通	寛永寺の凌雲院前大僧正・紅葉山御宮別当の戒善院権僧正を筆頭に、院家・諸坊の名と大名の名前が列記されている。史料の性格未詳。	
2-28-25	[中村孫三郎宛 守屋周左衛門書状]	年未詳正月 21日	縦紙	1通	周左衛門の悴が亡くなった際、早々にお悔やみに出向き野辺の送りを務めた孫三郎に対し礼を述べたもの。	奥裏上書「中村孫三郎様 守屋周左衛門」。
2-28-26	[宛名未詳 某書状断簡]	年月日未詳	横切紙	1通	時候の挨拶と「其御村藤助方当村虎屋并」との本文の一部のみ残る。	書状の冒頭部分のみが残存。
2-28-27	[中村おきぬ宛 古川兩人消息]	(天保13年カ) 10月13日	横折紙	1通	中村孫三郎様のことを承って驚いたが、相応の御養子様がいるので安心に思うこと、平生の無音のお詫びと来春是非参りたいとの意思を伝えたもの。	上書「なか村おきぬ様 古川兩人方」。
2-28-28	[宛名未詳 某書状]	年未詳12月 23日	横継紙	1通	礒右衛門殿へ取替おいた銀子について、たしかな質物入り証文に認めてくれるよう伝えたもの。	差出・宛名部分欠損か。
2-28-29	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横切紙	1通	浅原一条につき孫三郎より書状にて厳しく催促したところ甚だむずかしいとの返書を寄越してきたので書面をご覧に入ると伝え、西坂君と相談の上で今一応浅原へ相談することは出来ないか、と尋ねたもの。	
2-28-30	[中村礒右衛門宛 平松林右衛門書状]	年未詳10月 20日	横継紙	1通	昨晩お目にかかりたいと思っていたが出勤の間に御帰宅なさって会うことが出来ず残念、相談したいことがあるので出勤してほしいと伝えたもの。	
2-28-31	[中村孫三郎宛 嘉次郎書状]	年未詳5月10 日	横継紙	1通	嘉二郎→■孫様 数日の雨天に困惑していると述べ、先日みごとな竹の子を送ってくれたことへの謝意を伝えたもの。	端裏上書「孫三郎様貴下 嘉次郎」。
2-28-32	[中村孫三郎宛 広島屋嘉二郎書状]	年未詳8月4 日	横継紙	1通	広島屋嘉二郎→中村孫三郎 夏頃出向いて御馳走に預かったことに感謝し、早々に書状を差し上げるはずのところ彼是取り紛れ延引したことを伝える。	
2-28-33	覚(銀借用証)	宝暦7年丑11 月26日	横切紙	1通	同村荘左衛門→谷屋弥七 銀30目の借用証文。	
2-28-34	[千柯俳句懐紙]	年月日未詳	縦紙	1通	千柯 絲調主人を賀すとの詞書、「山こえて薫りもふかし花の兄」の俳句を記す。	
2-28-35	[中村孫三郎宛 広島屋市三郎書状]	年未詳正月5 日	横折紙	1通	広島屋市三郎→中村孫三郎 年賀のあいさつを述べたもの。	
2-28-36	すゝみのことは	年月日未詳	横切紙	1通	ゆたか(中村寛) 随筆的な文章が記されている。「水無月廿日頃土もさく斗照はたらきしなこりにや、日くれて後もいミうたへかたければ…」	

2-28-37	[宛名未詳 某書状]	年未詳3月9日	横継紙	1通	葎屋十兵衛が参宮しているので帰坂したときに返事をする事などを伝えたもの。	端裏に「三月九日」とある。
2-28-38	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横切紙	1通	家内の者へ文をいただき御返事申し上げるべきところ、持病がすぐれず無沙汰していることを詫びたもの。	
2-28-39	[中村孫三郎宛 柴原惣助書状]	年未詳4月	横継紙	1通	柴原惣助→中村孫三郎 鳥越先生(常成か)が先月死去したため弟子たちで追善歌をつくることについて、三須・阿曾・足守にいる惣連中(佐久間見蔵・高杉祥平ら)より孫三郎へ願い出たもの。	柴原惣助は高梁本町の書肆。
2-28-40	[中村御婦もし宛 見雲消息]	(天保13年)	横継紙	1通	中村孫三郎の死去についてお悔やみの意を伝えたもの。	上書「中村御婦もし様 見雲 たちへ方」。
2-28-41	[安原三省宛 石■篤三書状]	年未詳9月15日	横切紙	1通	石■篤三→安原三省 礼状か。	
2-28-42	[谷茂蔵宛 宮崎為軒書状]	年未詳霜月念6日	横切紙	1通	宮崎為軒→谷茂蔵 妹を当屋敷の中山忠左衛門養女に遣りたいことなど伝える。	
2-28-43	[宛名未詳 某書状]	年月未詳24日	横継紙	1通	「右一件」につきそのまま捨て置くのも如何かと思うので、御普請中で多用とは思いますがちょっとお目にかかり相談したい、と伝えたもの。	
2-28-44	[中村孫三郎宛 三宅恵輔書状]	年未詳12月23日	横継紙	1通	三宅恵輔→中村孫三郎 先だって不図参上した際供応してもらったことの礼、今日すす払いに取り掛かったこと、年尾の御肴料一封を進上すること、短冊など入手して佐々木・三宅へ届けたことなどを伝えたもの。	
2-28-45	[土手免許状]	年月日未詳	横切紙	1通	大池中樋が「御免土手」である旨を証したもの。	
2-28-46	[中村堅君宛 目黒常三書状]	(天保4年)葉月12日	横継紙	1通	目黒常三→中村堅君 金子10両の借用依頼を承知し、金子を渡すこと、証書1通をたしかに受け取ったことを伝えたもの。	奥に「覚」と題する天保癸巳8月12日付け北国屋孫三郎宛生■屋義太郎の金10両引渡証が付属する。「覚」と本紙との間は上端部を残して切れ目が入れられており、分離に注意。
2-28-47	[歌書校]	年月日未詳	縦折紙	1枚	刷りものの歌書の一部の頁に朱で校正を入れたもの。	
2-28-48	[宛名未詳 某書状]	年未詳4月14日	横継紙	1通	上坂した江口様が持参した書面に対する返書。当年は「古大人」の3回忌で歌勸進の催しがあり題すりが出来たので「大人」も含め諸方へ送った、秋水園も好人物だったが旧年故人になり灘の堀千尋が歌勸進を企画している、江口様が持参した歌勸進用の「御秀詠」は秋水園の高弟梅香園守近を經由して催主堀氏へ渡すのがよい、江戸奥の儒者成島邦之助の「上書」1冊をもらったので献上する、などと伝える。	端裏に「四月十四日」とある。
2-28-49	追啓	年月日未詳	横継紙	1通	唐紙1枚では広すぎるので、少し寸法を落として表具すれば大いに格好よくなる、と伝えたもの。	
2-28-50	[白紙]	年月日未詳	横継紙	1通	未使用の白紙。	
2-28-51	[中村老大人宛 室山藤右衛門書状]	年未詳正月16日	横継紙	1通	別紙書付の通り小生が出向いてお尋ね申し上げるべきところ、神用など差支え出向けないので書中で尋ねる、書面で分からないところがあれば使いの者に聞いてほしいと伝え、蔵書のうち『源平盛衰記』の借用について伝えたもの。	端裏上書「中村老大人 急用■■ 室山藤右衛門」。紙背に書付あり。
2-28-52	預申候(銀受領証)	年未詳卯3月14日	横継紙	1通	撫川治左衛門・口入忠右衛門→谷屋弥八郎 銀100目の受領証。	

2-28-53	[中村孫三郎宛 ■村勘右衛門・孫九郎書状]	年未詳8月9日	横継紙	1通	同孫九郎・■村勘右衛門→中村孫三郎 愚父が長病の末7月20日に死去したことを報せたもの。病中に孫三郎から「好之道和歌」を教諭され病を忘れて楽しんでおり、涼しくなったら全快すると思っていたが残念な結果になったこと、詠んでもらった追善和歌を霊前に供えたことなど伝えている。	
2-28-54	[宛名未詳 某書状]	年未詳正月28日	横継紙	1通	拙老は当年古稀を迎えたので鏡餅を進上すべきところ、遠路なので略儀ながら料1封を差し上げる旨を伝えたもの。	
2-28-55	[中村宗匠宛 皎月庵宗度書状]	(天保8年)7月21日	横継紙	1通	皎月庵宗度カ→中村宗匠 去る2月19日の放火(大塩平八郎の乱)後何かと安堵せず米価も高騰し、淡路町の抱屋敷隣の家も類焼したこと、堂島の実家同苗の者も放火の際心力を尽くした影響で病気が再発し、自分も去月29日より病臥していたこと、放火のため三味・浄瑠璃などもしばらくは中止となっているが、逃げて命の助かった茶道は互いに無事を喜び、茶の交わりのある人を助けたこと、「聖人之教を守物読人」には大塩の関係者として入牢させられた者が少なくないこと、浪華の宗匠には心得違いの者が多く京師の宗匠は大いに腹を立てているが、自分ひとりとは古風を捨てず奢りを止めて努力していること、明年の上坂を待っていることなど伝える。長文。	大塩平八郎の乱関係史料。
2-28-56	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横継紙	1通	家屋の普請について。かねてお願いしていた家相の件について隣村の懇意な人物に頼んで絵図を仕立て送ったこと、庭入り口を7間、葦屋で高さ1丈の建物とすること、夏の日差しに備えて縁側の庇をあと2尺余深くした方がよいこと、普請をいつ開始するか指図してほしいことを伝えたもの。	
2-28-57	[銀書付]	年月日未詳	横継紙	1通	二子村庄屋健次袖扣 播州平福御料諸入用、銀3貫目・利180目 松島村佐源二江払入半方などの記入あり。	
2-28-58	[恋しき御方宛 中村礪男消息]	年月日未詳	横継紙	1通	「いよるへき便も無之の侘しき硯にむかひはしめてそむる思ひのたけを」とあり、恋文かと思われる。	料紙の継ぎ目がはがれ、2枚に分解している。
2-28-59	追啓	年月日未詳	横継紙	1通	旧冬以来家中の儀や諸掛合で大いに取込み、返書が延引していることなど伝えたもの。	
2-28-60	[中村寛和歌詠草]	年月日未詳	横切紙	1通	寛「芦間鶯」の歌題で「さらたに夜床■なる芦原に つかひはなれてをしと鳴なる」など2首を詠んだもの。	
2-28-61	口上覚	年未詳巳3月14日	横継紙	1通	二子村庄屋坪井七左衛門 先年より坪井氏が所持する字赤岩草山について、去暮に借財方に差し入れ分家紋太郎の差配で数家に譲渡されたこと、当巳年2月18日晩に赤岩草山で松木を伐採する者がおり逃げ去ったことなど。	
2-28-62	口上	年未詳4月25日	横継紙	1通	伊藤屋喜右衛門→中村様 このたび長兵衛と申す者を入れ替えに遣わしたので、初めてのことでおうかがいすることがあれば宜しく指図してやってほしいと伝えたもの。	
2-28-63	[宛名未詳 某書状]	年未詳9月6日	横切紙	1通	帯江よりお帰りの際に聞いた中島屋内談一件について。中島屋源介親子が終夜熟談して返答してきた内容を承ったところ、次男徳蔵が今2~3ヶ年遊学する気持ちを持っているものの、金平は病身情弱なので徳蔵を手近に置いて助けにしたいとの心で、徳蔵を他所に出すことはできないと言っていることなどが記されている。	
2-28-64	[宛名未詳 某書状]	年未詳2月29日	横継紙	1通	残銀の納付延引について伝えたものか。	端裏に「二月廿九日」とある。
2-28-65	[中村孫三郎宛 前庄屋カ書状]	年未詳12月4日	横継紙	1通	前庄屋カ→二子村孫三郎 有城村永五郎と亀山村とよの件につき、先ごろの村々よりの歎願をふまえ格別の思し召しをもって宥免されたことを伝えたもの。	端裏に「追々見」と書かれている。

2-28-66	副啓(藤井宛 塩屋長兵衛書状)	年未詳正月17日	横継紙	1通	塩屋長兵衛→藤井様 この2封の手紙は旧年差し出したはずが、遥々後になって宛先不明で戻ってきたので、今般尊家に差し上げる旨を伝えたもの。	
2-28-67	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横切紙	1通	御公儀様・御上と同じ名を使用する者に改名するよう触れを出したが、従わない者がいるので今後そういったことがないようにせよ、村々に早島の御家中と同名の者がいたら早々に変名せよ、糯米の御蔵入は当月24日なので間違いなく納入せよ、などといったお触れを伝達したものの。	
2-28-68	[中村宛 目黒某書状]	年未詳11月29日	横切紙	1通	残り米と御算用書をたしかに受け取り、御指図の通り代銀のうちとして1貫目を渡すのでお受け取り下さいと伝えたもの。	端裏上書「中村様 目黒 銀札壹貫目添」。
2-28-69	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横継紙	1通	中村礪右衛門が看病の甲斐なく死去したことを悼み、21日の葬式のこと、礪右衛門の養子取りのことと役所への訶養子願いの手続きのこと、娘の病気のことなどについて伝えたもの。	
2-28-70	[宛名未詳 某書状]	年未詳7月12日	横継紙	1通	軽微の至りながら御肴料を進呈することを伝えたもの。	端裏に「七月十二日」とある。
2-28-71	[中邨宛 宣山書状]	年未詳林鐘中7	横切紙	1通	何かの品について御料理下さったことを大慶の至りと喜んだもの。	端裏上書「中邨様 不及御筆■候 宣山」。
2-28-72	[宛名未詳 某書状]	年未詳卯月3日	横継紙	1通	愚老の航年祝いとして金一封をいただいたことへの謝意、亡母の年廻に略儀な茶を送ったところ丁寧な返書と香料を送ってもらったことへの感謝、中村礪右衛門の病気が快方に向かい食べ物なども少しづつ進むくらいになったことなどを伝えたもの。	
2-28-73	[往来物写]	年月日未詳	横折紙	1通	「成節者昼往て萱苺夜ハ菰笹を編…」などとある。	
2-28-74	[宛名未詳 猶平次書状]	年未詳10月28日	横継紙	1通	猶平次→■■屋 自分の死後に乱れが起こり、私の死骸を捨て置いて争論に及ぶようなことがあれば家の存亡に関わるので、勘当した者に地子米と衣服代を与えるようなことは決してしない、もし本心がすわって比丘尼などにもなれば俵から扶持米と夏冬の衣類は与える、これらのことは「しづ」より娘へ申し聞かせるよう言いつけておく、と記したものの。	冒頭部および宛先部分が欠損。
2-28-75	[宛名未詳 某書状]	年未詳7月3日	横切紙	1通	栓だって取り替えた金子の返済期限につき、盆前だったのを9月まで延ばしてほしいとの要望に返答したもの。	端裏に「七月三日」とある。
2-28-76	[中村寛宛 片山新右衛門書状]	年未詳5月7日	横継紙	1通	時候の挨拶状。	
2-28-77	[宛名未詳 某書状]	年未詳12月29日	横継紙	1通	貴所様が今般苗字・帯刀を許されたことを祝い、中村礪右衛門が登坂して留守中の間、役向きを貴所様が受け持つことにつき労いの言葉をかけたもの。	端裏に「十二月廿九日」とある。
2-28-78	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横継紙	1通	時気見舞の手紙。	
2-28-79	[随筆]	年月日未詳	横継紙	1通	「先年拙者始而登坂之節、山川貞三老錢別ニ…」などとある。	
2-28-80	[鉄松宛 嘉二郎書状]	年未詳2月5日	横継紙	1通	嘉二郎→鉄松 御母公様へ何か草花を少々つつ2、3種ばかりお越し下さるようお願い、門之助・西喜様よりの小船が松島あたりへ上荷を積み取りに来たことを伝えたもの。	
2-28-81	東北	年月日未詳	美大・横半	仮1冊	謡曲『東北』の写本。「所はこゝのへの東北のれいちにて 王城のきもんの守りつゝ あくまをはろふ雲水の…」。	

2-28-82	[中村御後室・中村鉄松宛 岩津嘉二郎書状]	(天保13年カ) 9月8日	横折紙	1通	岩津嘉二郎→中村御後室・同鉄松 長病のため養生していた御主人様(中村孫三郎)が先日死去したと聞き、お悔やみを述べたもの。	
2-28-83	[中村孫三郎宛 備前屋作右衛門書状]	年未詳正月5日	横折紙	1通	備前屋作右衛門→北国屋孫三郎 改年の吉慶を祝う年賀状。	
2-28-84	[宛名未詳 某書状]	年未詳11月29日	横継紙	1通	『本朝国郡建置図説』『本朝弓馬要覧』などの和書の在庫について報せたもの。	端裏に「此状十一月廿九日相認其俛上申候」とある。
2-28-85	[中村寛宛 前安養憲承書状]	年未詳卯月19日	横継紙	1通	前安養憲承→中村寛先生 拙者西播磨出遊のことについて、彼の地は儒家が繁昌している場所なので、漢学を少し承知しておきたく思うので、貴家御所蔵の左伝・国語・四書の古注類を拝借したいと伝えたもの。	
2-28-86	[宛名未詳 某書状]	(天保13年カ)	横継紙	1通	御養父様(中村孫三郎カ)が重病のため養生叶わず亡くなったことについて、お悔やみを述べたもの。	
2-28-87	[宛名未詳 某書状]	年未詳2月23日	横継紙	1通	中村磯右衛門が上坂の船中で風邪にかかり、無難に着岸して天野屋へ着いた後、伊藤隆元・小泉氏など医者にかかり服薬したものの快癒しないので、可能であれば御内室様に上坂してほしいと依頼したもの。	
2-28-88	覚(銀預かり証)	年未詳庚子大晦日	横継紙	1通	高沼村新介→浜田屋善左衛門・谷屋弥七 講銀の預かり証。	
2-29	[萬葉集抜抄]	年月日未詳	横継紙	1通	「久かたの天のかぐ山…」など萬葉集より秀歌を抜き書きして注釈を加えたもの。	5枚一括。付箋貼付けあり。
2-30	花匂ふはる	年月日未詳	半・縦	1綴	冬月・早苗・五月雨晴・野螢・蟬声夏深などの歌題で39首の和歌を詠んだもの。	7丁を紐で綴るが紐が抜けて分解状態
2-31	[歌稿]	年月日未詳	半・縦	1綴	早苗・田植・新樹・山里のうのはななどの課題で23首の和歌を詠んだもの。添削が書き入れられている。	
2-32	都通慈乃屋の詞	年月日未詳	縦紙	1通	中村孫三郎の住処となっている都通慈の屋(つつじのや)について叙述したもの。	
2-33	肥培論序	天保2年10月	半・縦	1綴	中玉樹(中原玉樹。後の安原玉樹)『肥培論』の序文草稿。「ひとりおのか家なる婢の父来りていふやう…」	
2-34	[中村寛文稿]	文政12年8月22日	半・縦	1綴	吉備のミちの中より難波の小柴舎にきたりおる中村寛 知人を誘って夕願寺・大日寺といった萩の名所を巡った様子を叙述。「萩のほないまハ盛りなるらむとゆかしき折しも保教のとひ来ていさとそゝのかさるれはいとうれしと思ふにあはせて…」	
2-35	[文稿]	年月日未詳	美・縦	1綴	「後の文月のはかり、酒津といへる里にもしぬこは河辺川のしもなる河つらの里にて、あるし長興の君いざこよひハこの川上に逍遙せんとして、申の時はかりに船よそひして出たつ、…」後半に「人々のよみ玉へるうた」として長興・光弘・義鄰・方矩の和歌を載せる。	
2-36	[和歌集草稿]	年月日未詳	半・縦	仮1冊	「試筆」「早春湖」「海辺早春」「子日」などの歌題で、正澄・戊申・春蔭・惟義・雅嘉・直好・亮澄・芳樹・嘉吉・春門・雪臣らが詠んだ和歌を記載したもの。「長閑にもかかれれる御代のけしき哉 きのふの去年とけふのことしと」など。	最終丁の袋とじ内に「江戸堀三丁目 平のや四郎五郎・同由蔵」と書かれた罫紙を挟み込み。
2-37	下書三枚	年月日未詳	半・縦	仮1冊	「としなりのきみの、きりの火桶によりそひて歌おもひしたまふかた、かきたるを…」校正用の下書と思われる。	表題に続けて「にごりの■御引合、しかし是も御ひまかげ候へは思召候て誠の御すり立ニ而改候てもよろしく候」とある。
2-38	松の落葉目録	年月日未詳	半・縦	仮1冊	『松の落葉』の序文と一之巻～三之巻の目次。校正用の下書と思われる、字句を修正する書き入れがなされている。	

2-39	小柴舎月次兼当和歌	年月日未詳	半・縦	仮1冊	「朝花」「松下納涼」「暁郭公」「窓前螢」などの歌題で、中村寛・堀尾岸根・大伴(大野)直興・大田武経(晋斎)・牧野唯宗・渡辺保教・藤原(安原)玉樹・源俊師・章(緒方洪庵)らが詠んだ和歌を記載。	
2-40	瓊矛	年月日未詳	半・縦	仮1冊	中玉樹(中原玉樹。後の安原玉樹)「天津神の神結ひに結ひたまふ万のものゝ中に、なにこともたらひてたふとき限りのものは人なり…」。国学関係の文章か。	
2-41	[中村寛ほか詩文懐紙一括]			1括(26枚)		2-41-1~2-41-26巻込み紙綴一括、二重の包紙入り。外包上書「中村寛読歌斗己」、内包上書「寛懐中 祖父筆」
2-41-1	[正月堂大人を偲んで]	年月日未詳	縦紙	1枚	寛(中村)「老てますゝゝ壮人なるへしとハ、ことさへくから人の言のはにのみきゝわたりしを、通満ぬしのちかく学ひの親なる正月堂の大人こゝらのをしへ子をつとへて…」などと随筆的な文章を記す。	2-41-10と内容同一。
2-41-2	かくらすところ	年月日未詳	縦紙	1枚	寛(中村)「ものへ行けるに冬の日のならひにて、おもほへず暮ければ、ふけゆかは風もたへかたかるへしとて立帰るに、ものゝ音かずかすきこゆるをあやしと見めくらせは、…」などと神社で行われている神楽の様子を随筆的に記す。	
2-41-3	梅の花山里の家にある所	年月日未詳	縦紙	1枚	きぬ「うめ咲はかた山さとのかくれかも おなし都の春そきにける」の和歌を記す。	紙背に小さな字で「きぬ」と記される。
2-41-4	多春採若菜といふことを	年月日未詳	縦紙	1枚	きぬ「とし毎に春の野沢のはつわかな つもるかたみに千代やこもれる」の和歌を記す。	紙背に小さな字で「きぬ」と記される。
2-41-5	春日詠水辺柳和歌	年月日未詳	縦紙	1枚	中邨寛(中村寛)「いひほしてつるとはなしに青柳の 糸によりくる池のいろくず」の和歌を記す。	
2-41-6	春日詠柳露和歌	年月日未詳	縦紙	1枚	中邨寛(中村寛)「しらたまをぬくかとミれば青柳の 露もて人をはかるなりけり」の和歌を記す。	
2-41-7	霜埋落葉	年月日未詳	縦紙	1枚	寛(中村)「もみち葉のつもれる上におく霜も しろきを後の色にやハあらぬ」の和歌を記す。	
2-41-8	遠村霧	年月日未詳	縦紙	1枚	寛(中村)「たちこめし遠の一むらほのゝゝと ミゆるやきりの絶まなるらむ」の和歌を記す。	
2-41-9	瀧水鳥	年月日未詳	縦紙	1枚	寛(中村)「をし鴨の春はよとめりはな紅葉 めてし大井の川の岩ふち」ほか和歌2首を記す。	
2-41-10	[正月堂大人を偲んで]	年月日未詳	縦紙	1枚	「老てますゝゝ壮人なるへしとハことさへく、から人の言のはにのみきゝわたりしを、通満ぬしのまなひの親なる正月堂の大人、こゝらのをしへ子をつとへて、大なるもちひさきもおのかまにゝゝかゝせ、も■みつからハたゝ一時をかきりて千文字をなむ書たまひぬ、…」能書の正月堂大人について記し、「時かへすかきえし亀のいきほひに 千とせもしるくおもほゆる哉」など2首の和歌を添えたもの。	2-41-1と内容同一。
2-41-11	瓶にさしたる梅の花といふ題を	年月日未詳	縦紙	1枚	寛(中村)「梢の雪はきえぬれと、さらかへる春風に見る人もミらるゝはなもかちけかちなれば、こゝろとくほころひたる、…」などと記す。	
2-41-12	やよひに聞ありける年といふ題にて	年月日未詳	縦紙	1枚	なかむらゆたか(中村寛)「人のこゝろ長閑なるにもならはて梢の花はいつしかねにかへりぬ…」との記文に「あふげつゝふしつゝなひく袖かぜや いせちにつゝく四方のたみくさ」の和歌を添える。	
2-41-13	冬日詠向炉火和歌	年月日未詳	縦紙	1枚	中邨寛(中村寛)「なに事をおもふつまにもまづよきて 朝ゆふなるゝうつみ火の文徳」の和歌1首を記す。	

2-41-14	たかなせるところ	年月日未詳	縦紙	1枚	ゆたか(中村寛)「物へゆきける道のほとりに竹の林あり、垣のひまより見いれければ、こゝろ生出たるたかなせ長きみしかきこゝろしらひしつゝ折人あり、近きわたりの難波の市にもの次成へし、…」などと随筆的な文章を記述。
2-41-15	山里に紅葉見に来ることは	年月日未詳	縦紙	1枚	「何かし法師もすミえつる所なればと思ひいりて、きつるもしらで、けに都近き山なれと夏過秋来ても問来る友もなく…」などと随筆的な文章を記載。
2-41-16	〔梶谷義鄰追悼和歌〕	年月日未詳	縦紙	1枚	都通慈の屋のあるし寛(中村寛)「ことしやよひの十日ばかり」に亡くなった梶谷義鄰のために記した追悼文と和歌。「花をめで月にうかるゝをりゝもわするたになく君をしのはむ」。
2-41-17	〔蝦蟇石〕	年月日未詳	縦紙	1枚	通都慈の屋のあるし 寛(中村寛)「板野ぬしひめもたれたる蝦蟇石なむ、世にあやしき石にて、ミやひ人のかけりめてはやせば…」などと随筆的な文章を記す。
2-41-18	雨の中に残りのきくを見る	年月日未詳	縦紙	1枚	寛(中村)「わざともつろひたてぬけにや まかきの菊の例よりハこよなく…」の詩文を記す。
2-41-19	卯月祭の日といふ事を	年月日未詳	縦紙	1枚	小しばの舎 寛(小柴舎 中村寛)「けふは中の酉のひなれと葵のかつらかけておもふのみ、またまうてし事なけれハ…」などと随筆的な文章を記述。
2-41-20	〔牧野唯宗追悼和歌〕	年月日未詳	縦紙	1枚	中邨寛(中村寛) 去年10月に亡くなった「おのが学ひの道のはらから」牧野唯宗の墓がある円珠庵に参拝して詠んだ和歌。「しをれつる草木は春にかへれとも かへらぬきみそかなしかりける」。
2-41-21	おみなへしうることは	年月日未詳	縦紙	1枚	ゆたか(中村寛)「男やまのわたりへものしけるに、よしありけなる家にずさとおほしきものゝつとへるをふと見いれば、女郎花をこゝらほらせてうる成けり、…」。
2-41-22	〔明憧大徳を偲ぶ〕	文政10年1月	縦紙	1枚	吉備の道の中二子の里にすむ中邨寛 以前上庄に住んで親しい関係にあった明憧大徳が西阿知に移り住み、今年京都に上って仁和寺法親王の仰せで摂津国伊奈寺の法還寺に移り住んだことを記した文章。
2-41-23	〔中村寛和歌懐紙〕	年月日未詳	縦紙	1枚	寛(中村寛) 詞書「むそちを過ぬれとさちなくて、とり子をさへなさざりければ」、和歌「子なければおやともよばで生出し 年のこよみにかへるやさしさ」。
2-41-24	淀のわたりに船あり子規なくといふ題に	年月日未詳	縦紙	1枚	小しばの舎 寛(小柴舎 中村寛)「つとめて淀のわたりせむと出たるに、舟は在なから人は見えず…」などと随筆的な文章を記す。
2-41-25	松にかゝれる藤の言葉	年月日未詳	縦紙	1枚	寛(中村寛)「花といふはなの咲出る春の日ハ、永しともおもひしらて、こゝろミしかく散ぬるをなむ…」などと随筆的な文章を記す。
2-41-26	海つらに船ながら明したる	年月日未詳	縦紙	1枚	ゆたか(中村寛)「市の中なから奥まりたる家にて、いとつかなれハ、明くれふミ見るにたよりよけれと、屋のあつさのたへかたければ、灯火をかゝけ見ることえせて、いとさうゝ敷思ひ侍たるに、友だちの来ていさこの難波の浦はに出てすゝまむとそゝのかさるれば、…」などと随筆的な文章を記し、和歌1首を記す。「くまもなくかたるをきけは夏の夜の 明るをしさも月斗かは」。
2-42	〔短冊類一括〕			1括(79枚・1括り)	2-42-1～242-80SILティッシュ製の紙紐で一括。

2-42-1	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「関路鶴」、和歌「旅人にならひやすらむ朝らの せき路 になのるくたかきのごゑ」。
2-42-2	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「誠の桃の花ならぬはかなき色の空めなれと…」、和歌 「はなをおもひ人をしのへる頃なれば こゝろも空にふみたかへけ む」。
2-42-3	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 「むなげそといふもうへなり河柳 みゆる木たまのたくひなけ れば」。
2-42-4	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「かゝみ山にて雨にあへる」、和歌「こゝろして雨もふるま しかゝみやま うつらむ老の影やはつと」。
2-42-5	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「ひる来てよなとまらず」、和歌「関守のぬる夜はをらて打 もねぬ ひるまばかりにとふそつれなき」。
2-42-6	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「こゝろにもあらでせうやうしけるに…」、和歌「こひてたに かゝるをりにハあふなるを やうなき身そとなにおもひけむ」。
2-42-7	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「湖上冬月」、和歌「冬されば比えのやま風さえさえて つ きかけすこしにほの海はら」。
2-42-8	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「桃の花のもとに人のうちゑひたる」、和歌「うるはしきそ ま人もも咲もゝの はなの下にうちミたれつゝ」。
2-42-9	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「七月七日に成ぬれとあすなむ秋ハたつと人のいへりけ れハ」、和歌「天の川いとゞ淵瀬やたとらむ また夏のこるほし合 のそら」。
2-42-10	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「東雲大とこゆくりなくはな…」、和歌「恵みつきくのいろ いろ見てそしる とはて過せしこゝろおそさを」。
2-42-11	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「擣衣」、和歌「萩の葉にきくもわひしき秋かぜの さそふ きぬたのごゑそ身にしむ」。
2-42-12	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「きしのうゑといふ題を」、和歌「狩人のよるをもしらて春 の野に つまとふ雉子の声のかなしさ」。
2-42-13	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「梅遠蕉」、和歌「さそはれて苔のほそ道分いれば やゝ ふかくなるたにのうめかゝ」。
2-42-14	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「蚊遣火」、和歌「いとまなきしつかしわさか永き日に さ げてくゆらす夜のかやり火」。
2-42-15	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「飯島の君に出雲路秋雨記といふ書をおくりけるとて」、 和歌「ふみの名にすいつものいつゝちへ おもひ出つゝ恋やわ たらむ」。
2-42-16	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「世をそむく」、和歌「薪こりあか汲うきに世のうさを おも ひかへけむ人のたふとさ」。
2-42-17	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「篠霰」、和歌「かぜになり雨にきくさへ寒けきを あられ たはしる軒の玉さゝ」。
2-42-18	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「むそちを過ぬれはさちなくほとり子をさへなさざりけれ ハ」、和歌「子もたねばおやともよばで生いてゝ そらのこよみにか へるやさしさ」。
2-42-19	[天野屋九兵衛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	直興(大野直興。天野屋九兵衛の本名) 詞書「中邨氏のぬしをい はひて」、和歌「四十あまり二つの春をむかへつゝ なを千代かさ ね鶴の毛衣」。

2-42-20	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「余所にきく袖のしくれにかきくらす こゝろのやミをおもひこそやれ」。	
2-42-21	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「めぐりくる月とハ去年にかはらねど むかしにかわるけふそかなしき」。	
2-42-22	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「む月ついいたち…」, 和歌「肩きぬのかたまらへつゝとひなく かたるこゑさへ春めきにけき」。	
2-42-23	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「去年のこそ月日も春もめ吹き来て むかしにかはるけふそかなしき」。	
2-42-24	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「七夕雲」, 和歌「雨いのるひとのこゝちもまよひけり ほしのあふ夜のゆふたちのくも」。	
2-42-25	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「ときわかずつものみかは人ミなの こゝろにきらぬ雪のふしのね」。	
2-42-26	[中村寛ほか和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	(表) 寛 歌題「紅葉分枝」, 和歌「つれなしとらみもはてし山ひめの 片枝にふかき色を見すれば」。(裏) 小柴舎 和歌「やまなしに葉守の神はまさずとも むしある君の木になさハリそ」。	薄く剥いだ木製の短冊の表裏に和歌が記されている。
2-42-27	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「鶴川」, 和歌「うかひ船くらき火影をなけくかな わかむふけぬることはおもはで」。	
2-42-28	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「さくら鯛の歌あまたよみてたまひけるをよろこひ侍りて」, 和歌「言の葉のはなにかへえつさくら鯛 けふのまとゐの君のめくみに」。	
2-42-29	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「三宅光弘ぬしおほやけのことありてあつまの大城にまゐりたまふ馬のはなむけによめる」, 和歌「むさし野にこゝろなそめそのむらさき こゝらにほへる花を見るとも」。	
2-42-30	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「ものへ行けるに雨ふりて道あしく成けるを越君のあしたかし玉ひければことなく帰りておもふこゝちを…」, 和歌「あなうれしたかなさけふかへつゝこし よにしむこゝろことにしそおもふ」。	
2-42-31	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「とふこゝろありける頃」, 和歌「すみよしにつゝくなにはも草まくら 旅とし思へば住うかりけり」。	
2-42-32	[某保教・中村寛連歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	保教・寛 詞書「嵐山のふもとにあそひて」, 和歌「さくら花影さへにほふ大み川 保教」, 「松の木のままのこすゑのみかは 寛」。	
2-42-33	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「こゝろにもあらてせうやうしけるに…」, 和歌(表)「こひてたにかゝるをりにハあふなるを やうなき身そとなにおもひけむ」, (裏)「けふのみかこゑもたのみし黒崎の かひたきいそのむかしおもへば」。	表の和歌は2-42-6と内容同一。
2-42-34	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「旅宿橋」, 和歌「ふる郷にむかしをさへもしのへとや たひのやとりにほふ橋」。	
2-42-35	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	義方(中村寛) 和歌「かさゝきのふるすもいかて栄あらむ かくしもしいきみかきまさりせは」。	
2-42-36	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「五月雨晴」, 和歌「をやみたにめつらしと見し五月雨のなこりなきまてはるゝ嬉しさ」。	
2-42-37	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「やとの名の瓶の小柴のしばしばも 君しきまさはものハおもはし」。	

2-42-38	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「おほやけことありて吾妻へ行たまふ馬のはなむけにとて」、和歌「はらつゝみうちてたのしむたみくさの つひになひかむときちかミかも」。	
2-42-39	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「なか月廿日余り三日のひ師にしたかひて植田ぬしをはしめてとふらひ侍て」、和歌「来て見ればことの葉草の花盛 あきも末野となにおもひけむ」。	
2-42-40	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「心にもあらてせうやうしけるにある君にゆくりなく逢奉れはやかて種々の物語をさせて酒玉ひぬ御肴の鯉鮒鱧をよミかくし侍りて」、和歌「こひてたにかゝる折にはあふなるを やうなき身そとなにおもひけむ」。	2-42-6と内容同一。
2-42-41	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「高雄の紅葉をすりておこせければ」、和歌「世に高きたか雄のやまはもみち葉の やしほにおへる名にてそありけれ」。	詞書にある高雄の紅葉を刷り込んだ料紙を使用。
2-42-42	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「田家鳥」、長歌「声のなるミねをこして雲路をかたる…」。	
2-42-43	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「外のかたより見いれらるゝをやさしとて門の戸をせて待置つれと見るめのあいかハしければすたれにかふるとて」、和歌「くゝり戸もなつのあつさハくゝりえて うつきになればこゝろもかへせり」。	
2-42-44	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「うからやからつとひておのれかむそちの賀をものしければ」、和歌「三十ちそとおよひをりしハむかしにて むそちをすくる老となりにき」。	
2-42-45	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「あやしきいしをえたまへるも神のミこゝろしるくたふとくおほし侍れハ」、和歌「こひいのることのまにまに守ります 神のみいつの常磐をそ見る」。	
2-42-46	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「太田義経のぬし法橋にのほられけるをほぎて」、和歌「生くすりとりて雲ぬにのほるとふ ふもとにわたるさいはひのはし」。	
2-42-47	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「或家にやとり侍りてつれづれのなくさめに…」、和歌「昔人ならとこたへしやまふきに はなも実もあるけふにやはあらぬ」。	
2-42-48	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「はつきりの夜いたう曇りければ」、和歌「雨雲のはるけむかたそなかりける つきゆゑふるき千々のうらみは」。	
2-42-49	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「亀山の大人の七十の春をむかへ侍るにほぎまゐらせて」、和歌「七十の歳みも浮世ののりこえて いくもゝとせもおもふまにまに」。	
2-42-50	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「千とせ山こゝなむ老の坂くちハ よそにきくさへはるけかりけり」。	
2-42-51	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「天保とあら玉れる春のはしめに」、和歌「天つ神ほしときけばはらつゝみ うちてそあふく国津ミたみも」。	
2-42-52	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「祖父おはも子さへ孫さへ引つれて ミちさりあへぬ伊勢まゐり哉」。	
2-42-53	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「天かけりうれしとやミむ家のかぜ ふきつたへたるこのまとゐをも」。	

2-42-54	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「七十の歳みも浮世ののりこえて いくもとせもおもふまにまに」。	2-42-49と内容同一。
2-42-55	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「木の葉いたくふるよ」, 和歌「おのつから散さへをしきもみち葉を 残さしとふく風のはけしき」。	
2-42-56	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「関路夕」, 和歌「淡路嵩かよふちとりも声たえし すまの関ちのゆふへさひしも」。	
2-42-57	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「忍恋」, 和歌「しのふるはわかこゝろにて知られしも 身よりいたせる涙なるかも」。	
2-42-58	[某和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	詞書「一富士二たか三茄子といふことを」, 和歌「一ふしにたかとおもふうつし絵は さんなすひともいつる名山」。	
2-42-59	[某和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「盃のめくるもおそくなかそうに しつけくよめる月ののさかりは」。	
2-42-60	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「往事夢」, 和歌「とありけりかくも在しと思ひいつる いそちの夢はいつかさむらむ」。	
2-42-61	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	ゆたか(寛) ときしもあれたちはなかをる法の庭に むかしのはぬ人はあらしな」。	紙背に「真島隆玄家祖四百五十当暮追奠勸集」とある。
2-42-62	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「窓前螢といふ題に」, 和歌「ほのかなるまなひのまとの灯火に ひかりをそへたとふほたるかも」。	
2-42-63	[某和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	詞書「もちひ鏡の絵に」, 和歌「あしきにハ影もうつさすよきことをミかきてむかふかみもち哉」。	
2-42-64	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「閑居図」, 和歌「な散そと花やいさめむ世のちりを はらひつくせしやとのミゆれば」。	
2-42-65	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「むつきつたち例のこと帯江にも次とて山地といへる山越にいたりて」, 和歌「こゝろとくことしも来けり海こしの 児島をいつる春のあさひに」。	
2-42-66	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「大神のみ稜威もそひぬかきりなき いへのまもりとなせよこのたち」。	
2-42-67	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「とことにはやかてむすへよ大伴の ミつのうら松千代も栄へむ」。	
2-42-68	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「羈旅」, 和歌「日数経て家をおもへはあはれなる のやまをゆくもわひしかりけり」。	
2-42-69	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「松の屋翁うせ玉ひて一周の霊祭にとてもよみて備へけるうた」, 和歌「めぐり来し去年をしのへは名に高き 月も待つらむこゝちこそせね」。	
2-42-70	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「故翁の一周の霊祭にかねてよみて送れるうた」, 和歌「めぐり来し去年をしのへは名に高き 月も待らむこゝちこそせね」。	和歌は2-42-69と同一。
2-42-71	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「六十の賀に俊成の君のかたを小床にかけ奉りてよみ侍る」, 和歌「大かたはいふもかしこき君ながら よハひばかりハあえむとそおもふ」。	
2-42-72	[中村寛和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	寛 詞書「霞添春色といふ事を」, 和歌「柳原もゆるミとりハあさけれと かすみにふかき春のいろかな」。	

2-42-73	〔中村寛和歌短冊一括〕			1括り(2枚)		紙帯で一括。紙带上書「此歌とよのはず候てよみかへし反ぐ」。
2-42-73-1	〔中村寛和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「山吹」, 和歌「こえかねてけふもやとりぬゆふくれのまかきににほふやまふきのはな」。	
2-42-73-2	〔中村寛和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「沢夏月」, 和歌「人こゝろ浅沢水のあさければ やとるほとなき夏の夜の月」。	紙背に「此分夏さわり■けつ事不用」と書き入れあり。
2-42-74	〔中村寛和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「寄渡恋」, 和歌「棹させばかなたこなたにゆくものをなとわかこひそ渡る瀬のなき」。	
2-42-75	〔中村寛和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「何かともなきをさちにてなには津に ふたゝひ千代の春をむかへつ」。	
2-42-76	〔中村寛和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「蚊遣火」, 和歌「くるしきはなればかりかは蚊やらんとたくひとさへもいかにいふさき」。	
2-42-77	〔中村寛和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「海辺初春」, 和歌「とし浪のよりし渚はきのふにて 海はら遠くたつ霞かな」。	
2-42-78	〔中村寛和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	寛 歌題「秋雨」, 和歌「秋草のひもとく花をおもはずば たへなむものか雨のつれづれ」。	
2-42-79	〔中村寛和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	寛 和歌「家の名の松のミとりも一しほのいろをふかむるときは来にけり」。	
2-42-80	〔短冊板〕	年月日未詳	短冊	1枚	短冊に和歌を筆記する際の下敷きとなる板か。	
3	〔文芸関係版本写本等一括〕			1纏め(24冊・仮5冊・1通・1枚・2部・2纏め・1隻)		3-1~3-36もと彫刻入り手文庫に一括収納。手文庫は旧所蔵者の手元に残し、内容物のみSILティッシュで1纏めにした。
3-1	寅二月十八日手扣	年未詳2月18日	折本	仮1冊	「亥暮当相利大庄屋方不受取由、礪右衛門より遣申候、可被尋事」とあり、「子十一月大十二大」などの記述があるが詳細不明。	紙面表裏が何かで透明コーティングされている。
3-2	〔沢庵和尚遺書〕	年月日未詳	横切紙	1通	沢庵和尚が柳生但馬守に与えた「兵法ノ心ト仏法之心トヲ引合」せて書いた遺書とある。	
3-3	袖中四補 一	年月日未詳	7.3cm × 9.5cm	1冊	中邨寛(中村寛) 和歌集を筆写したものと思われる。「かたち見て人こそふるを都なる あまよの蚯蚓声あはれなり」など。第1集。	
3-4	袖中四補 三	年月日未詳	7.3cm × 9.5cm	1冊	中邨寛(中村寛) 和歌集を筆写したものと思われる。「ひるなれや見でまかへつる月影を けふとやいはむきのふとやいはむ」など。第3集。	
3-5	朝鮮人御用書	年月日未詳	美大・横本	1冊	朝鮮通信使に対応した大名や通行ルート上の宿場などの役割分担、用意する料理の献立などを記録したもの。	
3-6	画題合璧 三・四	明治12年2月	14.5cm × 9.8cm	1冊	(跋文)無声庵中男玉乾(翻刻人)愛知県下名古屋区末広町寺沢松之助 秋・冬の詩文の題の事例と、作画のモチーフの図様を示した書物。第3・4集。	
3-7	巾箱画譜 第一函	明治13年6月	14cm × 9cm	1冊	(著)和歌山県土族佐野元恭(出版主)大阪府平民辻本信太郎 絵を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第1巻。	

3-8	巾箱画譜 第二函	明治13年6月	14cm×9cm	1冊	(著)和歌山県土族佐野元恭 (出版主)大阪府平民辻本信太郎 絵を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第2巻。	
3-9	巾箱画譜 第三函	明治13年6月	14cm×9cm	1冊	(著)和歌山県土族佐野元恭 (出版主)大阪府平民辻本信太郎 絵を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第3巻。	
3-10	巾箱画譜 第四函	明治13年6月	14cm×9cm	1冊	(著)和歌山県土族佐野元恭 (出版主)大阪府平民辻本信太郎 絵を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第4巻。	
3-11	文林画譜 一	明治13年1月	14cm×9cm	1冊	(編)和歌山県土族佐野元恭 (出板人)大阪府平民渡辺貞吉 絵 を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第1巻 は蘭。	裏表紙に「中村蔵書」の朱書あり。
3-12	文林画譜 二	明治13年1月	14cm×9cm	1冊	(編)和歌山県土族佐野元恭 (出板人)大阪府平民渡辺貞吉 絵 を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第2巻 は竹。	裏表紙に「中村蔵書」の朱書あり。
3-13	文林画譜 四	明治13年1月	14cm×9cm	1冊	(編)和歌山県土族佐野元恭 (出板人)大阪府平民渡辺貞吉 絵 を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第4巻 は菊。	裏表紙に「中村蔵書」の朱書あり。
3-14	文林画譜 五	明治13年5月	14cm×9cm	1冊	(編)和歌山県土族佐野元恭 (出板人)大阪府平民渡辺貞吉 絵 を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第5巻 は人物・建物など。	
3-15	文林画譜 六	明治13年5月	14cm×9cm	1冊	(編)和歌山県土族佐野元恭 (出板人)大阪府平民渡辺貞吉 絵 を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第6巻 は山水画。	
3-16	文林画譜 七	明治13年5月	14cm×9cm	1冊	(編)和歌山県土族佐野元恭 (出板人)大阪府平民渡辺貞吉 絵 を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第7巻 は山水画。	
3-17	文林画譜 八	明治13年5月	14cm×9cm	1冊	(編)和歌山県土族佐野元恭 (出板人)大阪府平民渡辺貞吉 絵 を描く際の参考になる古画の図様と詩文を集成したもの。第8巻 は山水画。	
3-18	[雅譜写]	年月日未詳	美・横長	仮1冊	千秋楽・倍臚・夜半楽・萬歳楽など雅楽の楽曲で用いる楽譜を書き写したもの。	
3-19	[奈良絵屏風]	年月日未詳	19.4cm×34.5cm	1隻	金箔押の小型の屏風に、平安貴族をモチーフにした何らかの物語の1場面が描かれている。	タテ19.4cm×ヨコ34.6cm。蝶番つきの二つ折(2曲1隻)仕立て。
3-20	百人一首秘訣	享保20年卯4月吉旦	美・縦	仮1冊	岨山春幸(花押)→大野直晴「百人一首大意口決」および「五箇之秘歌切紙」として「奥山に紅葉ふみ分けなく鹿の 声聞時そ秋ハ悲しき」など5首の歌について解釈の秘説を記したもの。	
3-21	群書類従目録	年月日未詳	18.5cm×13.5cm	1冊	(編)塙検校保己一『群書類従』の収録作品・史料のリスト。	一部破損あり。
3-22	和漢聞書	年月日未詳	美・横本	仮1冊	ゆたか・義方(中村寛) 朝戸出・綾絹・越の戸など地唄等曲類の楽譜の写しと思われる。	一部破損あり。
3-23	龍笛譜	年月日未詳	美大・横本	1冊	中村義方(寛) 新羅陵王急・廻盃楽・賀殿など龍笛の楽曲の譜面を書き写したもの。	

3-24	大公儀秘書御定法之写	文久3歳癸亥 仲秋上旬吉 日	半・豎	1冊	(写)二子中村祥三郎 目安裏判之事・地頭違出入之事・裁許裏判之事・跡式養子出入之事など、江戸幕府の定法についてまとめた書類の写し。	明治4年辛未初秋の写本。
3-25	歌文詠草	年月日未詳	半・横半	1冊	寛(中村)「二月廿日余り一日難波へ出たちて岡山といへる所よりすさをかへすとて、古郷へよみてやりける 人やりの旅ならなくにともすれば かへりよらるゝふるさとのやま」など、中村寛が詠んだ和歌・文章を自ら書き写しまとめたもの。	2-41などに含まれる和歌・文章なども、この写本にいくつか入っている。
3-26	源氏物語聞書	文化庚午春	半・横半	1冊	(写)義方(中村寛)『源氏物語』の文中に登場する語句についての注釈をまとめた書物を書き写したものの。	
3-27	萬葉集聞書	文化庚午春	半・横半	1冊	(写)義方(中村寛)『萬葉集』収録和歌に使われている語句の意味や読みについての注釈書を書き写したものの。「先」とある注釈は藤井高尚の考えとある。	
3-28	綱政公御道の記	年月日未詳	美・豎半	1冊	岡山藩主池田綱政が江戸を立って岡山城へ戻るまでの道中で見聞した事柄・所感・和歌を叙述した紀行文。写本。	
3-29	景樹社中歌合并先醒東行道記中歌	(文化・文政 年間)	美・豎半	1冊	香川景樹の門人による三十三番の歌合(文化12年)と、文政元年春に景樹が関東へ赴いた際の道中記に記された和歌などを抜き書きしたもの。	罫線が刷られた料紙を用いる。
3-30	御とのは集	年月日未詳	美・横半 折	仮1冊	「只独楽のミにてまことの歌よみ給ふ君にしたかひ奉りて道を聞事なし、故二よめるうたもうたともしらず、唯心をやしなふのミ」という人物が、自作の和歌を書き集めた私家集。「春こもるまつならはしによしの山 こゝろせかるゝ花のさかりに」など。	
3-31	宇比文のしるべ	文化8年4月 26日	豎紙	1部	(著)藤井宿禰高尚(松屋大人) (書林)大坂本町二丁目書林葛城宣英堂奈良屋長兵衛 文章の初学者にとって適切な参考書(紫文製錦・増補歌文要語)について記述したもの。	刷り物。包紙あり、上書「松屋大人著 宇比文のしるべ これハ文章の書ならひやうを教へさとしたるものなれハ、入学の初にまづ見るべき書なり 大坂書林 宣英堂誌」。
3-32	宇比文のしるべ	文化8年4月 26日	豎紙	1部	(著)藤井宿禰高尚(松屋大人) (書林)大坂本町二丁目書林葛城宣英堂奈良屋長兵衛 文章の初学者にとって適切な参考書(紫文製錦・増補歌文要語)について記述したもの。	刷り物。包紙あり、上書「松屋大人著 宇比文のしるべ これハ文章の書ならひやうを教へさとしたるものなれハ、入学の初にまづ見るべき書なり 大坂書林 宣英堂誌」。
3-33	三十三所十八神社 備中順道記	文化9年壬申 秋	18.5cm ×9.2cm	1冊	(著)三十三度順拝行者 泉州三雲芳兵衛 (板元施主)後月郡下鴨村酒屋清三郎 (彫刻)井原町胡屋竹治 花山院鳳皇が備中国川上郡阿部深山に庵居していた際に巡拝所として選んだ霊場33箇所と18神(吉備津神社)について記したもの。1番瑞源山深耕寺より3吉備津神社まで霊場の名前、次の霊場までの距離・近所の名所旧跡について記す。	版本。
3-34	[集合写真]	(明治期以 降)	写真	1枚	結婚式の集合写真。中村祥三かと思われる人物がみえる。その子の婚礼写真か。	
3-35	[未使用和紙一括]	年月日未詳	各種	1纏め	様々な大きさの未使用和紙一括。	109枚一纏め。
3-36	[未使用短冊一括]	年月日未詳	短冊	1纏め	未使用の模様刷り短冊一括。	8枚一纏め。
4	[家系関係資料・書状・土地関係資料一括]			1箱(19通・ 6冊・6纏 め・5包・2 点・仮1冊・ 1綴・1枚)		4-1~4-41松に月と鶴の描かれた赤漆の文箱入り一括。箱に「中村家々系(藤井高尚手紙)」と記された貼紙あり。
4-1	[天野屋大野家関係文書一括]			1包(1冊・1 通・1枚)		4-1-1~4-1-3包紙入り一括。包紙上書「天野屋系図 書翰」。

4-1-1	大野家略系図	天保10年亥 晩冬中旬	半・竪	1冊	八代後胤直興書之 伊予国衆大野直昌の子直常(実是一条兼定の落胤という)を「町屋住居初代」とする天野屋大野氏の家系図。筆者の九兵衛直興は中村孫三郎の孫。末尾に公家的一条・醍醐家との交流について記述あり。	2丁目袋綴じ内部に、「天のや九兵衛ノ子大坂ノ島ノ内ノウなぎ谷ノふしみや八兵衛」などと書かれた養子に関する書付が挟み込まれている。
4-1-2	[中村健治・同禎助宛伏見屋八兵衛書状]	年未詳8月15日	横継紙	1通	伏見屋八兵衛→中村健治・同禎助 愚父九兵衛が死去前にもらい受けていた養子九十郎がその跡を相続し道修町の旧宅も変えたが、住居賃と借財がかさんで言語道断の状態になっていること、八兵衛が九十郎の借財を賄ったことなどを記す。	
4-1-3	寿	年月日未詳	包紙	1枚	「寿」と表書された包紙のみ。中身はなし。	
4-2	[讃岐斎藤家系図]	年月日未詳	罫紙	1纏め	讃岐国戸板郷藤目城の城主斎藤国光(師盛とも)とその子孫について記した系図。大織冠鎌足流藤原氏とある。	封筒入り。封筒上書「系譜 藤原家」。罫紙2枚1纏め。
4-3	釣書	年月日未詳	罫紙	仮1冊	岡山県吉備郡川辺村に住む岡幸の家族関係と曾祖父よりの続柄、遠祖岡郷介のこと、現在の岡家の資産状況などをまとめたもの。	封筒入り。封筒上書「釣書 岡家」。
4-4	[中村滋久宛 工藤進思郎書状]	昭和58年1月6日	罫紙	1通	中村家所蔵の藤井高尚書簡を使用した論文が刷り上がったので抜刷2部を贈る旨伝え、おかげで数多くの新事実を知ることができたことを感謝する内容。	封筒入り。封筒上書「701-01 倉敷市二子 中村滋久様 700岡山市津島中三-二-一八 工藤進思郎」。封筒内に岡郷介の伝説について罫紙2枚に記述したメモが混入している。
4-5	[二子地区東部最終処分場2期工事についての回答]	平成13年5月21日	洋紙	1纏め	倉敷市市民環境局環境部部長国重満夫→二子地区委員会代表小田三明 二子地区委員会代表より提出された東部最終処分場工事に関する要望への回答。同年6月16日付けでこの回答に対して二子地区住民としていかに取り組むか判断するためのアンケートのお願いが付属する。	この文書の紙背を利用して、中村家所蔵絵画(肖像画および貼交屏風に貼付された書画)の作者に関する調査メモが記されている。
4-6	[中村幸子宛 工藤進思郎書状封筒]	平成元年5月1日	封筒	1通	封筒のみで中身なし。	封筒上書「700-0016岡山市伊島町二-十五-五-二〇四工藤進思郎→701-0015倉敷市二子二〇四中村幸子様」。
4-7	[中村滋久履歴書]	昭和49年1月15日	洋紙	1通	中村滋久(大正元年11月5日生まれ)の履歴書。	
4-8	明治廿一年九月 都宇郡二子村切図 中村蔵書	明治21年9月	美・竪	1冊	二子村の字ごとの彩色切図。村全図あり。	「水晶苑」と記された団地の区割り図青焼きと、メモが記された封筒が挟み込まれている。
4-9	大正七年五月十五日 家督相続登記申請并付属登記書類 中村寛治	大正7年5月15日	半・竪	1冊	中村寛治 中村祥三から家督相続した中村寛治が土地分筆・土地表示変更について登記申請したもの。	
4-10	大正元年十二月改正 土地台帳 南中村	大正元年12月	半・竪	1冊	中村祥三調之 中村家が所有する田・畑・宅地・山林・保安林について、所在地・地番・字・地位・面積・地価・事故・小作預け面・小作人住所氏名を記したものの。	
4-11	大正四年三月 山林見取図扣 中村氏	大正4年3月	半・竪	1冊	中村氏が所有する山林の地番ごとの見取図と考えられる。字として表れない地名や山の名、山林内に存在する石碑・目立つ樹木・祠など細かい書き込みがなされている。	
4-12	[藤井高尚・藤井暮庵・古川古松軒等書状類一括]			1包(3括)		4-12-1~4-12-3を「写真野々宮」の封筒でくるむ。整理時にSILティッシュの紐で括る。
4-12-1	[藤井高尚ほか書状一括]			1括(4枚・31通・1纏め・1冊・1封)		4-12-1-1~4-12-1-38紙綴一括。
4-12-1-1	[備作国学関係門人系譜書付]	(明治期カ)	横切紙	1枚	備前・備中・美作三カ国の範囲内にいた国学者・文学者などを、本居宣長・香川景樹・木下幸文・月溪などの系列ごとにまとめたもの。『賜天覧台覧岡山県名鑑』(明治44年)を参考に書かれたもの。	一部破損。

4-12-1-2	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳11月28日	横切紙	1通	銀子のことについて、先般承ったとおりの証文を御取替にして済ませたい、利息も例年御廻し下さっている内から100匁を引いて先方へ遣わしてくれるように、証文は2通のうち120匁利の方をお返しください、と伝えたもの。	
4-12-1-3	〔藤井高尚書状追伸一括〕			1纏め(2通)		4-12-1-3-1~4-12-1-3-2巻込み一括。
4-12-1-3-1	別之陳(宛名未詳 藤井高尚書状)	年月日未詳	横切紙	1通	もし塩長(塩屋長兵衛)・関牛(部)との意味違が解決しているのであれば平和にて殊の外よろしい、拙子が板下の方へ出頭する際塩長を中へ加える件以外のことは、もし異論があっても本文で拙子が書いた旨趣に沿って取り計らってくれば、こちらに相談には及ばないと伝えたもの。	別の書状に添えられた追伸。
4-12-1-3-2	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年月日未詳	横継紙	1通	節関牛への板下料と『松の落葉』3口之巻は是非拙子より渡したい、この板下は完成次第貴君が受け取って早速備前船に載せて御下し下されたい、関牛へも急ぎ立てて作ってもらった板下を2、3ヶ月も捨て置くようなことになっては何を申しても張合いがなくなるなどと述べたもの。	別の書状に添えられた追伸か。
4-12-1-4	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年月日未詳	横切紙	1通	「塩長」こと塩屋長兵衛への貸し金については、拙者より3両、貴家より5両の割合で貸与するというのでよろしい、と伝えたもの。	別の書状に添えられた追伸と考えられる。
4-12-1-5	二陳(中村孫三郎宛 藤井高尚書状)	年未詳亥12月21日9ツ時	横切紙	1通	藤井長門守(花押)→中村孫三郎 清田屋義右衛門に申し聞かせた金見糺改について、昨日受け取った金60両のうち少しでも申し分がありそうなものを除外すると金54両7、8匁ということだったので、54両を差し上げるようになった、と事情を説明したもの。	別の書状に添えられた追伸。
4-12-1-6	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年月日未詳	横切紙	1通	『文後集』の校合について、「塩長」こと塩屋長兵衛より幾度申しつかわしても城戸から返事が来ないので致し方がない、城戸の考えは拙子にてはわからず、塩長も知らぬことなので事態が呑み込めないなどと伝えたもの。	
4-12-1-7	〔中村氏宛 藤井高尚書状〕	年未詳7月11日	横切紙	1通	松齋(花押)→中君 中元賀儀として御肴料金50疋を贈られたことに感謝し、いつごろか受け取っていた「御文一章」に加筆したものを今日送る旨、伝えたもの。	一部虫損あり。
4-12-1-8	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳12月23日	半・竪	1通	来春2月2日に岡山を立ち、片上・姫路広峯両所・明石・兵庫に少しづつ逗留して20日過ぎに御地へ着くこと、「河義」方へ逗留して「あやつり」を見物し、それから島の内の岡丈平方へ逗留し道頓堀の芝居を見物すること、貴家がお帰りになったらすぐに花見のため上京し、14、5日在京して用事を済ませ御地へ帰り、貴家に逗留して何を講釈するか相談したいなど、と伝えている。	和紙2丁を冊子仕立てに綴ってある。
4-12-1-9	銀子預り一札之事 預り申銀子之事	天保10年亥12月	竪紙	1通	預り主二子村孫三郎・加判同村礒右衛門・礒之介→藤井長門守・藤井左衛門 通用銀5貫500目を預かり、毎年12月に利息として銀550目つつ渡すことを約束した証文の案文。筆跡は受取人とされている藤井高尚のもの。	虫損あり。
4-12-1-10	〔中村孫三郎宛 藤井高尚書状包紙〕	年月日未詳	包紙	1枚	包紙のみ、内容物はなし(別番号のいずれかの可能性あり)。	包紙上書(表)「大坂唐物町中橋筋ヲ東江入丁 中村孫三郎様 急要用 藤井長門守(印) 大坂迄買済」(裏)「二月廿二日持参二付戎屋へ文後集直し彫河儀を為請取候」。
4-12-1-11	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳閏7月19日	横切紙	1通	尚齒会の文章について、半分ほど読んだところ出来が悪くないように思い、板にしようと思いましたが出来なくなるのでそのつもりで一つつつ糺してみると、大きな誤りが数多みつきり、今朝暁より唯今まで2枚直し、昼までには直しを済ませる予定だと伝えたもの。	

4-12-1-12	真盛豆の詞	文政12年夏	横切紙	1通	松齋(藤井高尚) 京都の北野あたりにある真盛菴の主人が、陸奥国三春産の黒豆を南部の里の片栗で作った衣でつつみ、伊勢国二見の浦の青い苔を彩りに添えた食べ物を作り、朝廷に宮仕えする人に例年睦月献上した。これが「真盛豆」と呼ばれるようになったとの由来を記した文章。	
4-12-1-13	二陳(中村君宛 藤井高尚書状)	年未詳7月11日	横切紙	1通	松齋(藤井高尚)→中村君 表方のお岑と隠居方の折枝の買物代支払いが延びているが、一両日中には家来に持たせて遣わずと後室が言っている旨を伝えたもの。	
4-12-1-14	書落し又申上候(中村様宛 藤井書状)	年未詳正月25日	横継紙	1通	藤井→中村様 『六百番歌合』の会を2月8日に始めること、時刻は4つ時~8つ時とすること、このことを福島江口氏に伝達してほしいことなどを報せたもの。	
4-12-1-15	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳10月11日	横継紙	1通	9月14日付けの書状が塩屋長兵衛より『出雲路日記』と一緒に送られてきたので拝見したこと、『真盛豆之文』のこと、『出雲路日記』の板下は大変な出来で校正も行き届かず板下まで誤りが多く、彫り直しが必要なこと、『松の落葉』2, 3ノ巻の校正を「河義」へ提出したことなど伝える。	
4-12-1-16	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横切紙	1通	「もろこしの白氏わか国の清輔朝臣のあとをたつねてかならず其数に」云々の文章について、何らかの注文をつけたものか。書物の校正のやり取りで手交された書付か。	
4-12-1-17	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横切紙	1通	校正用の原稿を中田清右衛門に渡してこちらへ速やかに届けてほしいこと、12月になるようなら校合できないので何も送らなくていいこと、来年4~5月は赤穂・姫路へ出かけるので校合は来秋、本の売り出しは明後年の春になりそうなこと、京との地震のことなどを伝えたもの。	
4-12-1-18	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状包紙]	年月日未詳	包紙	1枚	中身はなく、包紙のみ残る。前後のいずれかの史料と本来セットのものか。	包紙上書「中村孫三郎様 急用 藤井松齋」。
4-12-1-19	[藤井高尚和歌書付]	年月日未詳	横切紙	1通	「からたちの■にかくれてかくはしき 花たちはなにくふあるしか」など和歌2首を記す。	
4-12-1-20	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状]	年未詳亥12月21日	横切紙	1通	藤井長門守(印)(花押)→中村孫三郎 20日に渡す約定だった銀子について、清田屋義右衛門に依頼して質の善悪を鑑定してもらうため支払いが延引していることを伝え、今日は金54両を差し上げるので預かり書付を返送してくれるよう依頼したもの。	
4-12-1-21	[中村孫三郎宛 藤井高尚書状包紙]	年月日未詳	包紙	1枚	中身はなく、包紙のみ残る。前後のいずれかの史料と本来セットのものか。	包紙上書「中村孫三郎様 用書 藤井長門守」。
4-12-1-22	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横切紙	1通	先年一通り吟味した『紫式部日記』について改めて下見を試みたが、至って難しく講釈も大いに骨が折れること、傍注付きの本で上巻の講釈を今年済ませ、明年下巻に取り掛かることにする旨を伝えたもの。	
4-12-1-23	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横切紙	1通	この暮は至って多事で貴家も小作人の対応で苦勞していることと察する、凶年というほどではないが人情の悪い年で拙子も役用向が心底に叶わず不快になり、すっかり引きこもって新年にかけ戸外しないことにしたことなど伝える。	
4-12-1-24	[藤井高尚書付]	年月日未詳	横継紙	1通	拙子銀子のことについて、証人・村役人らが別人によき田地を売ってしまい悪い田地を渡そうして揉め事が発生したことを伝える。	
4-12-1-25	[中村孫三郎宛 城戸千楯書状]	年未詳9月4日	横切紙	1通	城戸千楯→中村孫三郎 7月2日に大地震があつて大変だったが無事なことを報せ、孫三郎が国元から一両日前に上坂したとのことなので、余暇に上京をお待ちしていること、松屋大人(藤井高尚)からのお届けの品もたしかに届いたことなどを伝えたもの。	端裏に小さく「千楯」と記入あり。

4-12-1-26	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横切紙	1通	大森与三右衛門の娘が下村へ嫁いでいるが、嫁ぎ先の亭主の名字・通名をいつでもいいので書付で送ってほしい、屋号もあるようならそれも承りたい、と伝えたもの。	
4-12-1-27	口状(宛名未詳 藤井高尚書状)	年未詳7月2日	横切紙	1通	昨年の越中富山歌合を左衛門(藤井高枝)の判と一緒に書写したものを貴家へ御覧に入れ、そのままになっているが、この歌合を板にしようかと思ひこの秋春樹に相談する予定なので、貸している歌合写本を返却してほしい、と要請したもの。	
4-12-1-28	[中村孫三郎宛 真野宇右衛門書状封筒]	年月日未詳	封筒	1封	中身はなく、封筒のみ残る。	封筒上書「中村孫三郎様 貴■ 真野宇右衛門」。
4-12-1-29	[宛名未詳 某書状断簡]	年月日未詳	横継紙	1通	凶変の節、野辺の見送りに参加し供物を贈ってくれた人物に礼を述べ、諸入用の支払い額が大きいため今日また銀札200目を借用したいこと、石碑を49日に建てることなどを伝えたもの。	後半が欠落。
4-12-1-30	覚(中村孫三郎宛 藤井高尚書状)	年未詳8月3日	横継紙	1通	藤井長門守高(花押)→中村孫三郎 金1両2歩を渡すので御落手のうえ節関牛へ板下料として渡すよう伝えたもの。	追伸部分が剥落寸前、取扱い注意。
4-12-1-31	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横切紙	1通	『古今集』を今朝差し出した家来に託して差し上げるはずが忘れていたので、この使いに添えて進呈すること、呉服物の注文書は返却すること、繁用中に七夕の会があり2、3首詠んでみたが出来が悪いことなどを伝えたもの。	
4-12-1-32	[中村孫三郎宛 か■ ■右衛門書状]	年未詳11月7日	横継紙	1通	樽物定めてお世話になったこと、あれこれ取り紛れ御礼が遅くなったこと、代銀の差し出しのことなどを伝えたもの。	端裏上書「二子村孫三郎様 貴下要用 か■ ■あ■右衛門」。
4-12-1-33	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横継紙	1通	「なには」へお出でになるのは来月節句過ぎになるのかと問い、同所では芝居が残らず大当たりし江戸役者の尾上菊五郎の所作が素晴らしいから是非来てほしいとの報せがあったが、今年は何を言われても行くつもりはない、と伝えている。	
4-12-1-34	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横切紙	1通	「けん見」=検見のことについて、「田地持之富家」は米が高値になって大いに勝手がよくなっており、少々のことでは難儀に及ぶことはないことなどを伝えたもの。	
4-12-1-35	別啓(宛名未詳 藤井高起書状)	年月日未詳	横継紙	1通	藤井左衛門高起(印・花押) 元来は家僕嘉兵衛に書面を持たせて使いをさせるつもりだったが差支え、印判も名前もない略儀な書面を別人に持たせて送ったので、証拠としてこの別啓に印判を捺して送る旨を伝えたもの。	
4-12-1-36	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳9月16日夕	横切紙	1通	御詠草を直して考えてののだが、詠んだ歌を溜め込むのはよくないと思う、文通のついでに少しづつお見せいただくのがよい、少しづつなら歌の講評を詳しく申し上げることができる、と伝えたもの。	
4-12-1-37	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横切紙	1通	酒津のことを承ったが、小鷹(和紙)・短尺は持ち合わせているので持ってこなくてよいと伝えたもの。	
4-12-1-38	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横継紙	1通	福島行きが延期になったのでこちらに来てほしいこと、瀬左衛門が大病とのことで左衛門(藤井高枝)は明日から足守へ行く予定であることを伝えたもの。	
4-12-2	[藤井高尚関係書状一括]			1括(2包・1枚・1冊・29通)		4-12-2-1~4-12-2-33紙綴一括。
4-12-2-1	[中村孫三郎宛 藤井高枝書状]	年未詳5月14日	横切紙	1通	藤井左馬介高枝(花押)→中村孫三郎 去る葬式の節、念入りに代理の使者と供物の1箱を下されたことに対する礼状。	
4-12-2-2	[宛名未詳 藤井高尚書付]	年月日未詳	横切紙	1通	童女のことについて、岡山川崎町車屋平助と申す者に11歳の娘がおり、容儀利口で三弦を弾じ、舞も舞うことができるということで、今日家来の竹蔵を見に行かせることを伝えたもの。	

4-12-2-3	〔中村孫三郎宛 藤井高尚書状包紙〕	年月日未詳	包紙	1包	包紙のみで内容物なし。資料群中のいずれかの書状と本来セットのものか。	包紙上書「二子邑中村孫三郎様 御報 宮内藤井長門守 銀子御請取書も在中」。
4-12-2-4	〔中村孫三郎宛 藤井高尚書状包紙〕	年月日未詳	包紙	1包	包紙のみで内容物なし。資料群中のいずれかの書状と本来セットのものか。	包紙上書「二子村二而中村孫三郎様 宮内藤井長門守 至而急事 靴屋方御伝被下惣爪方之倉敷御便二御届被下候様御頼申候事」
4-12-2-5	〔藤井高尚宛 白井惟徳書状〕	年未詳6月3日	横継紙	1通	白井元蔵→藤井長門守 御文集の跋文執筆依頼を承知したこと、但州湯島(城崎)客舎よりの手紙を5月晦日に拝見したが旧年以來の臂痛などが順快と聞き喜んでいて、丹後国橋立産物しをり2点をくれたことに感謝していること、蓮阿らが象頭山に赴いた時の歌を載せた『にし浦つたひ』という本を拝見したことなどを伝える。	白井元蔵惟徳は京都の医者。
4-12-2-6	〔中村孫三郎宛 真野竹堂書状〕	年未詳10月4日	横継紙	1通	尚齒会跋文の末に「天保六年乙未春正月」と書いてほしいこと、万波氏の詩は採用しないことになったので下書の詩を今日返却してほしいこと、このことを松の屋大人(藤井高尚)を含む諸人に報せないでほしいことなどを伝える。	端裏上書「中村孫三郎様 用書 竹堂」。
4-12-2-7	〔中村孫三郎宛 周助書状〕	年未詳3月23日	横継紙	1通	戸田氏に関わる一条につき、当人が役家になることを嫌がっているの如何ともしがたい旨を伝えたもの。	端裏上書「二子 中村孫三郎様 ■下 周助」。
4-12-2-8	〔中村孫三郎宛 城戸千楯書状〕	年未詳8月5日	横継紙	1通	『松之落葉』についての御委細書の内容を承知した。板下代・板木彫料金子を無利息で大人(藤井高尚)が取り替える件も承知した。塩屋長兵衛(塩長殿)は如才ない人物であると知っているが今度「河義殿」に板下を任すのは少々不安心である、手筈も相違し迷惑だ、などと伝えたもの。	端裏上書「中村孫三郎様 城戸千楯」。
4-12-2-9	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳6月28日	横継紙	1通	藍屋より結構なるギアマンを恵与されたことを大変喜び、感謝の意を伝達してほしいと伝える。御詠草については延引してしまったが歌の部分に加筆して返却する、真助より「ねだり状」が来たので真盛豆の文を草稿のまま送った、塩屋長兵衛が蒔蘭牛から受け取った『松の落葉』二ノ巻板下を4、50日も捨て置いて送ってこないのはあまりにひどい仕方だ、などと伝える。	端裏に「100」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-10	覚(藤井高尚書付)	年月日未詳	横切紙	1枚	藤井高尚が自身で揮毫した文章や和歌を記した短尺などの代価を示したのものか。「稻花香処園の記」の絹地横額は金200疋、短尺5枚(歌と文)は金100疋などとする。	端裏に「99」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-11	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳7月26日	半・竖	1通	大都では急に弟子を増やすことは難しく3年の間は連中が3人ばかりで一人も増えない先例もあることを伝え、雪月花の歌について「いつくハ何れ」という詞はよくないと講評し、城戸千楯に貴君の御身上・御人物・御歌文を詳細に紹介しておいた。千楯は京師第一の国学者で彼ほど歌文に詳しいものは京にいないから3、5日中に文通するように、『中臣祓』は吉田家のことが少し気がかりなので板行が延引になった、来年2月中旬に御地へ出向いた際に御宅で講釈を行いたい何を読んだらよいだろうか、読むべき書物が尽き果てもはや短くて良いものをとんと思いつかない、などと伝える。	端裏に「98」と鉛筆書きの注記あり。2丁を仮綴じた冊子形態の書状。
4-12-2-12	〔宛名未詳 藤井高尚書状〕	年未詳12月11日	横継紙	1通	例年送ってもらっている2貫目の利息銀を20日頃までにお越し下されば大いにありがたいと伝えたもの。	端裏に「97」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-13	別陳(宛名未詳 藤井高尚書状追伸)	年月日未詳	横切紙	1通	来る19日の夕、年忘れに琴治を呼び三弦と児輩に舞をさせる予定だが、寒いので案内しなかった、もし靴屋などの所用のついでに便があればその日にお出で下さい、と伝えたもの。	端裏に「96」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-14	〔中村孫三郎宛 藤井高尚書状〕	年未詳8月18日	横継紙	1通	駕籠人足仕度取り計らいにつき、道路状態が悪いので人足兩人に酒代の手当を遣わすこと、三木屋の件でお世話になり孫三郎の働きで調整できたので、御礼として鈴の屋の書状に老拙が添書きしたものを差し上げるので家室にしてほしいことを伝える。	端裏上書「中村孫三郎様 御礼書 藤井長門守」。これとは別に端裏に「95」と鉛筆書きの注記あり。

4-12-2-15	別陳(宛名未詳 藤井高尚書状追伸)	年月日未詳	横継紙	1通	『松の落葉』四の巻の文章の一部を改めたいと思い、書き改めたものを紙に包んだので、これに従ってその部分を直してほしい、書き改めた一文を修正箇所の上に貼付ければ手間も少ないと思うと依頼し、8月12日より八田部・岡田・山手・生坂を廻り所々で月見会に参加することなどを伝える。	端裏に「93」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-16	唐物町一件御■	年月日未詳	横継紙	1通	唐物町の借屋の一件について詳しく御報せいただき大いに理解した、去々月盆後に「京庄」が高野山から帰ってこないとの報せがあり、それならと書付を高野山に送って掛け合うよう伝えたが塩屋長兵衛(塩長)からは何とも応答がなく、いつまでも事が済まない、借屋の付属物を状況によっては買い取るつもりだが、これは拙子が赴かないと掛け引きも難しい、などと伝える。	端裏に「94」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-17	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳正月8日	横継紙	1通	年賀のあいさつと2月2、3日頃こちらを出立し同月20日頃に御地へ到着することを伝えたもの。	端裏に「92」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-18	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳7月14日	横継紙	1通	酒津より依頼のあった文章について、60章の草稿を何の心もつけずに勘解由に引き渡してしまったので、貴家に写本があるようなら17日に持ってきてほしい、と伝えたもの。	端裏に「91」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-19	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳4月22日	横切紙	1通	景勝の所々に世話人がいるので、そこで宴も催し歌も出すつもりでいること、遠境は捨て置き近所の数年の同人で志厚き人たちにお知らせしてほしいこと、貴君と竹堂子で相談してほしいこと、赤穂の三木氏は格別遠くないので竹堂子より報せてほしいことなど指示したもの。	端裏に「90」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-20	[中村孫三郎宛 藤井高枝書状]	年未詳閏10月3日暁	横継紙	1通	『古今打聴』6冊・金目貫・四分一目貫を受け取ったこと、これらはとりあえず借用し帰国後に支払いの算用をしたいことなどを伝えたもの。	端裏上書「中村孫三郎様 出立取込不備要書 藤井左馬介」。
4-12-2-21	[中村氏宛 藤井高尚書状]	年未詳8月6日	横切紙	1通	茶事に用いる1枚ものについて伝達してほしいこと、三木氏へ中元の謝儀に対する礼状と詠草に加筆したものを届けてくれるよう「隠居君」へ頼んでほしいこと、最近同役の若者が心得違いを起して退去してしまい、その関連で三日三夕休息も出来なかったことを伝える。	端裏書「中村君行状」。別に「88」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-22	口状(宛名未詳 藤井高尚書状)	年未詳7月6日	横切紙	1通	西讃の山地家より来状があり、親族が乱心して人を殺害し本家の自分たちも閉門処分となっているので、盆後に楽しみを延期してほしいと言ってきたこと、その対応を報じたもの。	端裏に「87」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-23	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳11月8日	横切紙	1通	老拙は京都で煩っていたが漸々元気になり、去月20日ごろ帰郷したが、西風で海路に手間取り赤穂から上陸し同所の門人のところへ逗留し、そこから駕籠で帰ったこと、今度の旅は物入りが多かったが浪華逗留中に謝金が大いに集まり金5、6両が残ったことなどを伝える。また、四国から大坂へ売りに出された「頼政の灯笼」を又三衛門が大坂で入手し持ち帰ったことを報じる。	端裏に「86」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-24	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳6月1日	横継紙	1通	今年は夏秋冬と服薬養生を専一にして他出は控えることを伝え、御内室様が大病に罹ったものの順快したとの報せを喜び、大田氏が度々歌を送ってくるとのことだが彼は志格別の人なので援助してやってほしいこと、塩屋長兵衛と『中臣祓』板行についてやり取りしていることを報じたもの。	端裏に「85」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-25	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳10月18日	横継紙	1通	三木屋の祖母の外分(外聞)がよくないというのは全くの思い違いであること、備後の絵師怡雲に描かせた画2枚のこと、友吉の芝居は山姥をはじめ大いに面白いので御家内様ともどもお出でをお待ちしていることなどを伝えたもの。	端裏に「83」と鉛筆書きの注記あり。

4-12-2-26	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳正月28日	横切紙	1通	内祝いとして鏡餅・美酒などを贈ってもらったことに対する礼状。来月8日開催の六百番歌合の本を江口氏に託して上方へ送ること、岡山の片岡徳四郎・川上市之丞を歌合に誘ったことなど伝える。	端裏に「84」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-27	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳12月17日	横切紙	1通	社家持ちの無年貢地を41年以前に買っていたが、今回にわかには請戻したいとの要望があり、来年に先延ばしするよう言ったが、それでは先方が困るというので400匁を受領して請戻しに応じたことなどを伝える。	端裏に「82」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-28	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳9月晦日	横継紙	1通	10月11、2日から20日までの間で3、4日差し合いのない時日出向くこと、前々日までに報せてほしいこと、27日の芝居の役者が良いことなど伝える。	端裏に「81」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-29	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳11月21日	横継紙	1通	「文しよ袋」の仕立てを御内君様に頼みたい、特に好みもないので絹を何なりと見繕って作ってほしい、京へ「むねと」が所持していくものなので見苦しいものでなければよい、そちらで絹を購入して一切の値段を連絡してほしい、と伝えている。	端裏に「80」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-30	二陳(宛名未詳 藤井高尚書付)	年月日未詳	横切紙	1通	27日の会が延引となり次の会は9月上旬になるのでお繰り合わせを願い、靴屋の病人も岸田氏の治療でようやく快方に向かっていることなどを伝える。	端裏に「79」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-31	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳5月16日	横継紙	1通	病氣も治り中風の症状も悪くないが、老体だからか全快とはいかない、しかし立ち居に大きな不自由はないこと、越中の歌合写本を暫時貸してほしいことを伝える。	端裏に「78」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-32	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳10月25日	横継紙	1通	中田清右衛門が近來取次ものが多いので上方の振合を記した書付をくれと申し出てきたので、謝礼の貧富軽重の差を書き出して遣わした、下書を心得として差し上げる、と伝えたもの。	端裏に「77」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-2-33	[宛名未詳 藤井高尚書状]	年未詳10月13日	横継紙	1通	沖新田へ『神の御蔭日記』原本2冊などを遣わしたいと思い御宅まで送ったが、これは急ぎではないこと、『文後々集』下ノ巻が来ず困っているがこれは今月末までに上方へ送りたいと思っていることなどを伝える。	端裏に「76」と鉛筆書きの注記あり。
4-12-3	[藤井暮庵関係書状一括]			1括(5通)		4-12-3-1~4-12-3-5紙綴1括。
4-12-3-1	[藤井暮庵宛 小野泉蔵(達)書状]	(年未詳)10月6日	横継紙	1通	達→暮庵 頼山陽の近状については不確かだったが、病状について詳説に接して悲しみ大いに力を落としていること、備前漂流舟一巻のことなどを伝える。	
4-12-3-2	[菅茶山宛 藤井公顕(暮庵)書状]	(年未詳)7月29日	横継紙	1通	藤井公顕→茶山菅老先生 眩暈が起きたと聞き病状を見舞い、先年成羽へ参った際に村中の案内で福地村へ行って見たが竹田に勝る雅景が見られたことを伝え、福山で700軒が被害に遭う大火があったとの風説を聞いたが事実がわからない、そうだとしたら福山は未曾有の大変だ、と記す。	
4-12-3-3	[藤井料助(暮庵)宛 古川古松軒書状]	(明和9年)5月6日	横継紙	1通	東都大火について実説が聞こえてこない、16日には浦池九淵(浦太夫)が帰国するので実事が聞けるかも知れない、近藤氏よりもきっと書状が来るかと思う、粟津ヶ原の敵討について大津御役所に奉公している者からの詳細な書状を見せてもらう約束をしているので、到来次第写して送付する、自分はよい食事を食べて悪いところは微塵もなくまだ死なない、喜んでくれ、と伝えたもの。	(端裏上書)「藤井科助様 ■■ 竹亭翁拜」。
4-12-3-4	[藤井料助(暮庵)宛 古川古松軒書状]	(明和9年)4月10日	横継紙	1通	江戸で発生した行人坂の大火について「下火之消ざる中も参り書状」をもとに被害状況を報じ、数万人が死亡したらしいこと、近藤先生は別条ないこと、ロシアの一件に関する御触は諸侯様ばかりに出されて御領内への御触は出されないらしいことなどを報じたもの。	(端裏上書)「神辺二而 藤井科助様 ■■返事奉復 有井竹亭翁九拜」。

4-12-3-5	[中村禎助宛 神崎小魯書状]	年未詳4月念9日	横継紙	1通	近頃は読書稽古をしてお参上する心持だったが、取り紛れて延引していることにつき御海涵下さるよう伝え、見事な竹の子ほか2種を恵贈してくれたことを謝し、扇子3本を認めて送ったので入手下さるよう伝えたもの。	(上書)「中村禎助様 ■下 小魯 略封御高免」。
4-13	[内田よし子ほか3名宛 村島常書状]	明治31年5月3日	横切紙	1通	村しまつね→内田よし子・中村寛治・中村祝・犬飼高張 在校中に御厄介になったことへの感謝を伝え、あなた様たちくらいの年齢の人を見かけるたびになつかしく思い出している、どうかたゆまず倦まず勉強して立派に卒業してほしい、などと伝えたもの。	封筒あり。上書(表)「岡山県備中郡宇都庄村口尋常小学校にて 内田よし子様・中村寛治様・中村祝様・犬飼高張様 親展」(裏)「京都市上京区麩屋町通二条下ル尾張町二十七番 村島常 五月四日」。郵便局消印あり。
4-14	[中村おすま宛 田中氏書状一括]			1包(3通)		4-14-1~4-14-3封筒入り一括。封筒上書(表)「中むら おすま様 まいる御かミヘカ」(裏)「田中天通 余り■筆人目をはし候故よるなまにてゆかしとハ■被下御願申候」。
4-14-1	[中村おすま宛 田中氏書状]	年未詳5月9日	横継紙	1通	田中ばゝか→中村おすま 久々にお目にかかったこと、いつも結構な品物を恵与下さることに御礼を述べ、早々にお帰りになったので積もる物語も出来ず残念だ、その後思いもよらぬご無沙汰をした、邦子の見合いが不折合で永子も元々ぼんやりしているのが悪化しており心配だと伝える。	横継紙が途中ではがれ、現状2枚に分離している。
4-14-2	[中村おすま宛 田中氏書状]	年未詳旧7月24日	横継紙	1通	田中ばゝか→中むらおすま その後風邪の具合はどうか、いつも無音に過ごしてしまうことを許してほしい、別れを惜しみ知らずしらず長話をいたし、私の「ぼんやり」が近頃格別ぼんやりになったせいで大きなやりそこないがあったことなどを伝える。	
4-14-3	[中村おすま宛 田中天通書状]	年未詳3月30日	横継紙	1通	田中天通→中村おすま 邦子のことで深切にさせていただきありがたい、邦子は背ばかり高くて真の子供のような状態なので、嫁にもなかなか向かないなどと相談したもの。	内容に障害に関する記述あり、閲覧前に審査必要か。
4-15	[中村祥三宛 三宅泰造書状]	(明治33年)9月23日	横継紙	1通	三宅泰造→中村祥三 小生は応召以来不幸にして北清の原野を睥睨し各地を転戦しており、北京城頭に旭日旗が翻る快を見ることが出来ず、今は広陵の兵営にいることなどを伝える。	封筒あり。上書(表)「備中国都窪郡庄村中村祥三様 暑酬」(裏)「第五師団補充馬廠ニテ 三宅泰造 九月廿三日」。年月日入りの郵便局消印あり。
4-16	[中村禎三郎宛 佐藤悠次郎書状]	(明治25年)正月元旦	横継紙	1通	佐藤悠次郎・佐藤信吉→中村晚風 年賀状。信吉は上坂せず家族一堂で越年したとある。「恭賀新年」と記した佐藤悠次郎の名刺1枚が添付。	封筒あり。上書(表)「備中郡宇都二子村中村祥三内二而 中村禎三郎殿」(裏)「大坂東成郡東平野町大字北平野二千八百八十六番地 佐藤悠次郎」。年月日入りの郵便局消印あり。
4-17	[中村祥三宛 多田寿太郎書状]	(明治30年)3月	横切紙	1通	多田寿太郎→中村祥三 愚父が死去した際に弔詞を賜ったことへの返礼状。	封筒あり。上書(表)「口村大字二子 中村祥三様 悔状二対スル礼書」(裏)「庄村大字矢部 多田寿太郎」。年月日入りの郵便局消印あり。
4-18	[中村祥三宛 龍口信太郎書状]	(明治23年カ)9月5日	横継紙	1通	龍口信太郎→中村祥三 愚父の死去に際して早速弔詞を下されたことに深謝したものの。	封筒あり。上書(表)「都窪郡庄村二子 中村祥三様 御礼■」(裏)「都窪郡山田村 龍口信太郎」。
4-19	岡山県第二岡山中学校創立廿五周年記念修練道場建設要綱	昭和17年12月6日	冊子	1冊	岡山県第二岡山中学校創立廿五周年記念修練道場建設期成会委員一同 記念事業趣意書・修練道場建設期成会規定・記念事業役員名簿・武居魁助「修練道場の建設と其の教育的意義につきて」を収録。	表紙に「御父兄各位へ」との付箋貼付。封筒あり。上書(表)「岡山市天瀬南町二一四 中村示積様」(裏)「岡山県第二岡山中学校創立廿五周年記念修練道場建設期成会(岡山市網ノ浜)」。期成会への会費納入依頼書と会費払込通知書など書類一式を同封。
4-20	[中村祥三宛 神崎熊一郎書状一括]			1包(2通)		4-20-1~4-20-2封筒入り一括。封筒上書(表)「岡山県備中郡宇都二子村 中村祥三様」(裏)「三月卅一日発ス 東京都麹町富士見町吉丁目二松学舎梅野介にて 神崎熊一郎様」。郵便局消印あり。
4-20-1	[中村祥三宛 神崎熊一郎書状]	明治20年8月18日	縦紙	1通	神崎熊一郎→中村祥三 通学は今年より始めたので来年末までには少しは進歩もできるかと思っていること、生徒は1400名ほどいること、明日は日蝕で当地でも9分9厘まで蝕するといいい天気もよさそうなので明日の様子を後日お報せすることなどを報じたもの。	

4-20-2	[中村祥三宛 神崎熊一郎書状]	(明治18年)3月25日	罫紙	1通	神崎熊一郎→中村祥三 今年2月中新宿の女郎町で60軒が全焼, 今月上旬日本橋通で1300余軒が全焼するなど大火事が多いこと, 明治天皇が山陽道行幸のため来る4月10日に東京を出発し岡山県にも立ち寄るとのこと, 当地の三島先生子息桂太郎が来る4月3日より米国桑港に向かい5年間遊学すること, 三島先生に額の揮毫を依頼しておいたので出来次第送ることなど。	
4-21	[中村禎造宛 神崎熊一郎書状]	(明治21年)12月5日	継紙	1通	神崎熊一郎→中村先生 父が上京して当地見物を済ませ, 昨日早朝に海路帰郷したので, 明日早朝には岡山の三番港に着港すると思うこと, かねて依頼のあった三島中洲翁の揮毫について, 「悠然窟」の額面が出来たので帰郷する父が持参することなどを伝える。	封筒あり。上書(表)「岡山県備中国都宇郡二子村 中村禎造殿 平安」(裏)「東京府下麹町区富士見町寺丁目三拾三番地 小野内 神崎熊一郎 十二月初五」。郵便局消印あり。
4-22	[中村祥三宛 三宅千秋・三宅光次書状]	(明治27年)4月9日	横切紙	1通	三宅千秋・三宅光次 貫一が亡くなった際, 葬送に参加し音物を贈ってもらったことに対する礼状。	封筒あり。上書(表)「都宇郡庄村大字二子 中村祥三様 会葬礼書」(裏)「浅口郡連島町 三宅光次」。郵便局消印あり。
4-23	[中村祥三宛 神崎熊一郎書状]	(明治17年)12月28日	横継紙	1通	神崎熊一郎→中村先生・同賢兄 先生様の丁寧懇誠なる御教示, 小生の身上に関する貴兄様の緊要な御戒書に感謝し, 千里の外にあっても御厚意を忘れず勉勵し御恩に報いたい, 国元よりの資本金は4円だが書籍・炭・石油を節約すれば大丈夫である, 早く官費生になりたい, と伝えたもの。	封筒あり。上書(表)「[破損]中国都宇郡二子村 中村祥三様 平安書」(裏)「十二月二十八日夜八時三十分認メ直ニ投函ス 東京ニテ 神崎熊一郎拜」。郵便局消印あり。
4-24	[中村祥三宛 片山光右衛門書状]	(明治32年)5月4日	横継紙	1通	片山光右衛門→中村賢台 所蔵の品々を遠慮なく拝見させてもらった上, 種々の饗応に預り, 近來の希望を達することが出来たことを深謝し, 返礼が遅れたことを詫言した。	封筒あり。上書(表)「都宇郡庄村大字二子 中村祥三様」(裏)「同郡加茂村片山光右衛門 五月四日」。郵便局消印あり。
4-25	[中村家系図]	年月日未詳	罫紙	1纏め	初代中村孫三郎から六代中村寛治(現戸主)までの歴代当主の略歴を記す。また平田良之介について家柄・良之介自身の出所などを記す。釣書の類か。	罫紙4枚1纏め。
4-26	[天保山十景葛城山桜封筒]	年月日未詳	封筒	1点	「天保山十景之内葛城山桜」と題し, 表に彩色風景画を, 裏に高野大納言保光の和歌を刷った封筒。	封筒のみ, 中身なし。
4-27	釣書	年月日未詳	罫紙	1纏め	上道郡西大寺町の伊原仙太郎について, 親族関係や資産, 父親の肩書などをまとめたもの。	罫紙2枚1纏め。
4-28	[天保山十景淡路島霞封筒]	年月日未詳	封筒	1点	「天保山十景之内淡路島霞」と題し, 表に彩色風景画を, 裏に武者小路実陰の和歌を刷った封筒。	封筒のみ, 中身なし。
4-29	系書	年月日未詳	罫紙	1纏め	初代中村孫三郎から六代中村寛治(現戸主)までの歴代当主, およびその子(滋久ら)の略歴を記す。	罫紙8枚1纏め。封筒あり。上書「系書 中村寛治」。4-25に関連。
4-30	[封筒]	昭和18年1月	封筒	1通	上書に「昭和十八年一月 中村家釣書」とある。	封筒のみ, 中身なし。
4-31	通知書(保安林について)	昭和7年6月10日	洋紙	1纏め	岡山県知事篠原英太郎→中村寛治 都窪郡庄村大字二子字高鳥居の山林を保安林に編入することを伝えた通知書と指定書。	通知書・指定書を折込み一括。
4-32	[伊原氏に関するメモ]	年月日未詳	罫紙	1枚	伊原万年(鶴寿。藤井高尚門人)について, 簡単に記したメモ。	
4-33	明治廿五年十一月現在 二子山ノ上墓籍下調簿 祭主中村祥三	明治25年11月	半・横長	1冊	祭主中村祥三 先祖中村孫三郎以降の中村一族の墓所について, 俗名・没年・戒名・墓石の形状・施主などをまとめたもの。	
4-34	[下書・メモ等一括]			1包(3枚・1綴・1纏め・2通)		4-34-1~4-34-7封筒入り一括。封筒上書「滋久 神水井物語 下書 領収書在中」。

4-34-1	[こたつの電源に関するメモ]	平成3年カ	罫紙	1枚	中村滋久 こたつに確かに電気が来ているので安心して下さいと図解入りで示したもの。「大正元年十一月五日生 八十才です」とある。	
4-34-2	神水の井物語	年月日未詳	罫紙	1綴	尾上地区にある深井姓の一族と二子にある「神水の井」の関係性について記述した文章の下書。補筆・訂正が無数に入れられている。	罫紙に鉛筆(またはシャープペンシル)で記したもの。
4-34-3	[メモ]	年月日未詳	罫紙	1枚	「律二撰スル(安ズル)ヲ戒メ善法ニ撰スルヲ戒メ饒益有情ヲ戒ム」などとある。	罫紙に鉛筆(またはシャープペンシル)で記したもの。
4-34-4	[坪井家に関する問い合わせへの返書下書]	年月日未詳	罫紙	1纏め	二子の坪井家について、貴兄が想像しているような名家ではない云々と記した手紙の下書。無数の推敲が加えられている。	罫紙に鉛筆(またはシャープペンシル)で記したもの。
4-34-5	領収証	平成4年12月15日	洋紙	1通	TeIDS電通商事→中村殿 コピテルコードレス電話代金の領収書。	
4-34-6	領収証	平成5年5月19日	洋紙	1通	両児神社奉賛会塩田昇→中村幸子 遷座1200年祭寄附金の領収書。	
4-34-7	[フキの料理方法]	年月日未詳	洋紙	1枚	フキを調理するためのレシピメモ。	
4-35	目録	昭和15年12月31日	横折紙	1通	金重勇(陶陽)→中村寛二 陶陽作の備前焼1個を窯出し次第差し上げると伝えたもの。	包紙入り。包紙上書「御礼 金重 中村様」。
4-36	[中村禎祐宛 田中篤左衛門書状]	年月日未詳	横継紙	1通	先般遠路にもかかわらず来訪し厚志を示してくれた中村氏に対し、和歌を交えて返書した。「山川をこえてはる々々老をた■ たつねとふせる君ならハこそ」など。	端裏上書「二子村 中村禎祐様 田中篤左衛門 貴窓要用」。
4-37	[宛名未詳 某消息]	年未詳1月3日	横継紙	1通	安産の報せを聞いて祝意を伝えたもの。	
4-38	[中村御内宛 大野内消息]	年未詳きさらぎ17日	横継紙	1通	大野内→中村御内様 「かゝみ袋」の調製が延引していることを詫び、今は金物押があまり流行っておらず「とふせい仕立」で仕上げたいと京都から言ってきた、思召しに叶えばよいが遠方で心に任せず御堪忍頂きたい、芝居も追々できるのでゆるゆると大坂へお出でください、と伝えたもの。	4-39と関連。
4-39	[宛名未詳 大野内消息]	年月日未詳	横継紙	1通	「かゝみ袋」について依頼を受け大坂・京都の香具屋に相談しているがなかなか都合がつかず延引していることを伝え、頼みがいのない人だと思われることを恥じ入る次第と詫びている。また、大坂は殊の外不景気だが明春には天保山も出来るので、ゆるゆるとお出で下さい、と伝えたもの。	差出ないが4-38と同筆・同内容につき筆者を推定。
4-40	[中村祥三宛 村田財治郎書状]	明治31年5月9日	罫紙	1通	村田財治郎→中村祥三 祥三の父親が死去したことを伝え聞き、お悔やみを述べたもの。	封筒入り。封筒上書(表)「備中国都宇郡庄村 中村祥三様 御悔」(裏)「備中国窪屋郡清音村 村田財治郎 拝 明治三十一年五月九日」。
4-41	系書	年月日未詳	罫紙	1綴	初代中村孫三郎から中村滋久に至る歴代当主とその兄弟姉妹について履歴を記す。鉛筆で多数の補訂加筆が行われている。	封筒入り。封筒上書「系書 中村寛治」。
5	[書状・書類・詩歌短冊等一括]			1纏め(1綴・3纏め・12通・6枚・4冊・4括り・2包・1袋)		旧蔵者宅で様々な箱に入っていた文書・短冊類を資料収集時に一つにまとめたもの。5-1~5-33一括。

5-1	[四国八十八ヶ所札挟一括]			1綴(2枚)		5-1-1~5-1-2紐綴一括。綴紐に草鞋のミニチュアが付属。
5-1-1	[四国八十八ヶ所札挟]	慶応3年丁卯 歳3月吉祥日	板	1枚	備中都宇郡二子村中村幾志同行二人 四国八十八ヶ所遍路の際に用いる納札を挟む板。	紐で5-1-2と一緒に綴られている。
5-1-2	[四国八十八ヶ所札挟]	嘉永5年壬子 歳2月吉祥日	板	1枚	備中都宇郡二子村中村禎助内佐登 四国八十八ヶ所遍路の際に用いる納札を挟む板。	紐で5-1-1と一緒に綴られている。
5-2	小学校授業料納付簿	明治30年4月 1日	美・横半 折	1冊	庄尋常小学校第一学年生中村寛治・都宇郡庄村大字二子中村祥三→庄村長内田泰造 授業料を月ごとに納付し収入役から領収印をもらった帳簿。	
5-3	小学校授業料納付簿	明治31年4月 1日	美・横半 折	1冊	庄尋常小学校第二学年生中村寛治・都宇郡庄村大字二子父中村祥三→庄村長内田泰造 授業料を月ごとに納付し収入役から領収印をもらった帳簿。	表紙に「皆済」印あり。
5-4	記(代金受領書)	大正6年7月8 日	横切紙	1通	備中倉敷本町呉服商岡田義平商店→南中村 兵児帯・常盤上布などの代金受領証。	印刷された様式に手書き記入したもの。
5-5	[断簡]	年月日未詳	横切紙	1通	差出・宛名欠 檜舞台にて御活躍と聞き何よりと思っていること、小生もその後頑健にて例の方面も楽しみにしていることなど。	後半欠落。破損、分裂の恐れあり取扱い注意。
5-6	[茶屋町紡績株式会社に関する問い合わせ]	年月日未詳	罫紙	1通	差出・宛名欠 茶屋紡(茶屋町紡績)買収の噂の実否、茶屋紡の紡機は太糸・中糸・細糸のどれを扱っているのかなど、問い合わせ事項を列挙したもの。	虫食いによる破損甚大、取扱い注意。
5-7	[通常賛成員章授与書]	大正2年5月 21日	縦紙	1通	神宮奉齋会副総裁省正二位公爵二条基弘・会長正六位藤岡好古→中村祥三 本会主旨翼賛により通常賛成員章を授与したもの。	
5-8	神宮参拝証	(大正年間カ)	13.6× 8.35cm	1枚	伊勢宇治神宮奉齋会大本部→岡山県都窪郡庄村中村祥三 神宮参拝のつど検印を受ける参拝証。大正2年5月の検印あり。	印刷された様式に手書き記入したもの。
5-9	天保七年丙申正月吉日 田畑預米帳	天保7年丙申 正月	美・横長	1冊	林左衛門 鶴正 一、壱石壱斗五升 内巻依りなど。	裏表紙「北国屋 一粒万倍」。
5-10	[戒名揮毫書]	年月日未詳	42×29 cm	1枚	□□院篤義日浄大居士・□□院妙近日香大姉の戒名を並記。墓石への揮毫下書きか。	上部が欠損している。
5-11	[断簡]	年月日未詳	横切紙	1通	差出・宛名欠 冒頭の挨拶部分のみ残存。	冒頭部分のみ。
5-12	[中村祥三宛 宮武南岳はがき]	(明治38年) 乙巳元旦	はがき	1通	和気郡片上町守時別荘宮武南岳→本県都窪郡庄村字二子中村祥三 富士山と日の丸の旗を掲げた砦が描かれた年賀状。	(消印)「備前片上ノ卅八年一月〇日ノ〇便」。
5-13	[中村祥三宛 宮武瑞嶺・由子はがき]	大正(6年)丁 巳元旦	はがき	1通	高松市外栗林公園前宮武南岳改瑞嶺・由子→岡山県都窪郡庄村中村祥三 海を挟んで富士山を遠望する絵が描かれた年賀状。	(消印)「高松ノ6. 1. 4」。
5-14	[詩文懐紙一括]			1纏め(3 枚)		5-14-1~5-14-3折込み一括。
5-14-1	ひとのゆるさぬ中	年月日未詳	縦紙	1枚	とみよし「ひとにせられしとのひねのねみたれかミの心しり顔二…」と長歌風の詩文を記す。	

5-14-2	卯月祭の日といふことを	年月日未詳	縦紙	1枚	(渡辺)保教「けふはかの祭の日也けり、大宮人の我も々と…」と長歌風の詩文を記す。	
5-14-3	八月十五夜ふねにのりてあそぶ	年月日未詳	縦紙	1枚	(渡辺)保教「こよひは秋のもなかなり、あかしの口にあなひせんと…」と長歌風の詩文を記す。	
5-15	[中村祥三宛 犬養毅書状]	年未詳10月25日	横継紙	1通	犬養毅→中村祥三 御書面を下された高誼に感謝する旨を伝えたもの。	封筒あり。上書(表)「岡山県都窪郡庄村中村祥三殿」(裏)「東京市牛込区馬場下町卅三番地 犬養毅」。(消印)「口込/35-10-3」「口川/口五年十月三十一日八便」。「同人自筆分」と後筆で追記あり。
5-16	[高久靄崖履歴]	年月日未詳	罫紙	1通	観塔堂 文人画家高久靄崖(下野の人、谷文晁に師事)の履歴をまとめたもの。	「観塔堂便箋」とある便箋2枚に記す。封筒あり。上書「高久靄崖履歴有中 観塔堂撰写」。
5-17	[犬飼篤太郎ほか有志宛 犬養毅書状]	(明治25年)壬辰3月1日	横継紙	1通	犬養毅→犬飼篤太郎・中村信次郎・中村祥三・その他有志者 今回総選挙に際し国家のために尽力してくれたこと、卑劣兇暴な手段で妨害されたにも関わらず当選できたのはひとえに御奮励・御尽力の結果であることを記し、感謝の意を伝えたもの。	封筒あり。上書(表)「岡山県都宇郡庄村山地 犬飼篤太郎様・中村信次郎様・同祥三様」(裏)「東京市麹町区五番町拾六番地 犬養毅」。(消印)「武蔵東京麹町/廿五年三月二日/ル便」「備中撫川/廿五年三月四日/口便」。
5-18	[人物画]	年月日未詳	縦切紙	1枚	墨で描かれた僧体の人物画下絵。	
5-19	詠草	年月日未詳	半・縦	1冊	輔政「雲の波よるとも見えぬ月の舟 まほ待とる影の涼しさ」などの和歌を記し、藤井高起(松の屋主人たかおき)に添削を依頼したもの。高起による朱筆書き入れあり。	一部破損あり。
5-20	[歌合]	年月日未詳	縦継紙	1枚	「夢に人の見えしかハ」「いひそめていと久しう成ける人に」などの歌題で左右1首づつを番えた歌合の歌稿。訂正あり。	
5-21	[消息一括]			1纏め(4通)		5-21-1~5-21-4巻込み一括。
5-21-1	[おきぬ宛 大野九兵衛消息]	年未詳陸月今日	横折紙	1通	相ふの九兵衛(大野九兵衛)→[ ]むらおきぬ 初春の寿を祝い揃って御機嫌よく若葉の春を迎えたことを喜ぶ年賀状。	
5-21-2	[御母君様宛 大野九兵衛消息]	年未詳文月今日	横折紙	1通	おほの九兵衛(大野九兵衛)→御母君様 暑中お見舞いも出さなかったことを詫言したの。	破損あり。
5-21-3	[中村御口もし宛 大野琴消息]	年未詳稔月今日	横折紙	1通	大野琴方→中むら御口もし様 年賀状。	
5-21-4	[中村御口もし宛 大野琴消息]	年未詳口月今日	横折紙	1通	大野琴→中村御口もし様 年賀状。孫三郎様へもよろしくお伝えください、とある。	
5-22	[水墨画]	年月日未詳	縦紙	1枚	公家風の人物が月を眺める絵に、広村の「うつし絵かうつゝか人かうちも寝ず さやけき月を千代も見るへし」の和歌が添えられている。	
5-23	[神崎小魯書跡]	元治元年初秋	縦紙	1枚	神崎廉「人心之中以心為天…」と漢文を記す。	
5-24	[短冊一括]			1纏め(20枚)		5-24-1~5-24-20折込み一括。
5-24-1	[唯章和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	唯章 歌題「冬月」、和歌「村雲は峯の嵐に吹はれて 木の間に氷る冬の夜の月」。	
5-24-2	[堀尾岸根和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	岸根 歌題「禁庭雪」、和歌「久かたのくもみの庭も冬のきて よそにかはらぬ雪ハふりけり」。	
5-24-3	[安原玉樹和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	玉樹 歌題「古寺雪」、和歌「けふりたるミえぬは人も住さらん 雪ふりうつむ古寺の門」。	

5-24-4	〔唯章和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	唯章 歌題「羈旅」, 和歌「見かへれはかこたれにけり有明の 月おちかゝるふるさとのそら」。	
5-24-5	〔源俊師和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俊師 歌題「山家夢」, 和歌「ことのねを聞つる夢はさめにけり 嵐は峯の松に残りて」。	
5-24-6	〔増範和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	増範 歌題「五月雨晴」, 和歌「八重雲のけふ■つまもたえゝにゆふ日をもらす五月雨の空」。	
5-24-7	〔俊和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俊 歌題「としのうちに梅のはなさけり」, 和歌「さく梅はいかてこえけん降雪に 春をへたつるとしの中垣」。	
5-24-8	〔安原玉樹和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	玉樹 歌題「網代に紅葉のひまなくちりたる」, 和歌「秋の色を余所にやらしと網代木の もみちのかきりせきそとめたる」。	
5-24-9	〔牧野唯宗和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	唯宗 歌題「人のうふせ事七夜」, 和歌「生土の神もうれしと見ますらん なゝ夜を祝ふみとり子の家」。	
5-24-10	〔大田晋斎和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	武経(太田晋斎) 歌題「旅行友」, 和歌「いれひもの同し心の友を得て 旅のせいなるくさもいはれつ」。	
5-24-11	〔源俊師和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俊師 歌題「忍渡恋」, 和歌「つゝめともいろに出てや世にも■ん今さへ袖にあまるなミたは」。	
5-24-12	〔源俊師和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俊師 歌題「十二月つこもり」, 和歌「はかなくてことし越きぬ明日は又 霞へたてん故郷のそら」。	
5-24-13	〔俊和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俊 歌題「瀧のほとりに日々来てみる」, 和歌「瀧つせの清き心を友とてや やま路に人の尋来るけん」。	
5-24-14	〔源俊師和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俊師 歌題「朝雪」, 和歌「冬枯れてむつかしかりし野らも今朝 くさはおしなミ降れるしら雪」。	
5-24-15	〔堀尾岸根和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	岸根 歌題「仏名おこふ家」, 和歌「よもすから仏のミなをとへつる 宿にはのこるつミはあらしき」。	
5-24-16	〔俊和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俊 歌題「唐土にて月をみる」, 和歌「唐土のミちは千里をへたつれと 日かりまかはぬふるさとの月」。	
5-24-17	〔渡辺保教和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	保教 歌題「たひ人もみちのしたにやとる」, 和歌「もみち葉の散木のもとに立よれば 錦のころもわれもきにけり」。	
5-24-18	〔俊和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俊 歌題「雨ふるとて来ぬ日に」, 和歌「さらぬたにまつはわひしきタくれに 雨さへ降りて人はとひこぬ」。	
5-24-19	〔賢道和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	賢道 歌題「山家夜灯」, 和歌「とふ人もなき山住の夜るは猶 ともし火のミを我友にして」。	
5-24-20	〔堀尾岸根和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	岸根 歌題「浜のまさこの数しらんとたのめたる女」, 和歌「かきりなく思ふこゝろのことならば はまの真砂はよミはてぬとも」。	
5-25	天保八年丁酉正月吉日 日賀恵	天保8年丁酉正月吉日	小・豎半	1冊	ふたご豊増 倉敷代官とその手代、早島家中・撫川家中に属する人たちの名簿、この年の根付水割(村毎の用水受給期間)、御用銀などの借用に関する記録。	
5-26	児島霊場	弘化元年甲辰年初秋	小・豎半	1冊	(誌)前吉塔寺円明(板)清水孫四郎 第一番札所の北方中蔵院から八十八番札所の番田阿弥陀寺明王院まで、児島八十八か所札所の寺院名と札所間の距離を記したもの。	裏表紙「北国屋 中村祥三」。

5-27	〔中村孫三郎ほか宛書状一括〕			1括(24通)		5-27-1～5-27-24紙綴一括。
5-27-1	〔中村孫三郎宛 富助書状〕	年未詳9月15日	横切紙	1通	富助→中村孫三郎 私は別条なく奉公を勤めていること、給米3石3斗を頂戴したことを伝える。	封筒あり。上書(表)「中村孫三郎様 人々御中 御屋敷にて富助」(裏)「無別条」。
5-27-2	〔中村禎助宛 江口亀之助書状〕	年月未詳16日	横継紙	1通	今日は差支えがあるとのことだが、私方にも故障があるので、今日のことは延引して明朝にしてくれるよう手紙を出しておいた、と伝える。	端裏上書「中村禎助様 用■ 江口亀之助 略封御免被下候」。
5-27-3	〔中村孫三郎宛 光三郎書状〕	年未詳正月22日	横継紙	1通	山地村庄屋光三郎→二子村庄屋孫三郎 今朝そちらの村の谷蔵という者が菊平と一緒に山地村で「御上様」より厳しく禁じられている鶴を撃ったのだが、そのことを承知しているのか問い合わせたもの。	
5-27-4	〔中村孫三郎宛 元助書状〕	年月日未詳	横継紙	1通	元介→孫三郎 私は別条なく奉公しているので安心してほしいと伝え、来年も給米2石8斗をもらって奉公を継続すること、長々の留守中に宿元のことを万事世話してくれて感謝していることを報じる。	包紙あり。上書(表)「孫三郎様 人々御中 江戸御屋敷 元助」(裏)「無別条」。
5-27-5	〔中村孫三郎宛 室山某書状〕	年未詳11月22日	横切紙	1通	過日お返し申し上げた脇指を、来る25日晚までに便があれば私の方まで差し越してほしいと伝えたもの。	端裏上書「中村孫三郎様 室山藤■ 大略■念」。
5-27-6	〔中村孫三郎宛 東円助書状〕	年未詳7月26日	横継紙	1通	東円助→中村孫三郎 無沙汰を詫び時候の挨拶を述べると共に、追伸で御本家中村礪右衛門が養生叶わず死去したことにつきお悔やみの意を伝えたもの。	
5-27-7	〔宛名未詳 某書状〕	年未詳7月20日	横継紙	1通	元家健治殿が当月朔日にその村の庄屋役を仰せ付けられたと西山氏から連絡があり、当方も喜んで旨を伝えたもの。	端裏書「七月廿日」。
5-27-8	〔中村孫三郎宛 平助書状〕	年未詳5月朔日	横切紙	1通	かねてお願いしていた松屋大人(藤井高尚)の短冊を送ってくれたことに対し御礼を述べたもの。	
5-27-9	〔中村孫三郎宛 中村健蔵書状〕	年未詳9月15日	横切紙	1通	中村健蔵→中村孫三郎 私どもは異儀なく奉公しており、宿元について毎度お世話になっていることに感謝する旨を伝えたもの。	包紙あり。上書(表)「中村孫三郎様 人々御中 江戸御屋敷 中村健蔵」(裏)「無別条」。
5-27-10	〔中村宛 江口某書状〕	年未詳11月16日	横継紙	1通	昨日ご入来くださった際他出しており失礼したことを伝え、明日は繰り合わせて在宿するようにするので、度々のことで御苦労に思うがご入来くださるよう報じたもの。	端裏上書「二子 中村様 御用■ 福島 江口拜」。
5-27-11	〔中村禎介宛 江口亀之助書状〕	年未詳11月17日	横切紙	1通	酒津行きの件について、相談したいので今日私宅へお出で下さるよう伝えたもの。	端裏上書「中村禎介様 用事有之候 江口亀之助 大略御免被下候」。
5-27-12	〔中村孫三郎宛 江口某書状〕	年未詳2月27日	横継紙	1通	え口■■■→中村孫三郎 先日・昨日と二度もお出で下さったのに倉敷に出かけていて拝顔できず失礼したことを伝え、脇差・目貫を売り払うよう指示があったもののどの程度の値段で売ってよいか承ってなかったので報せてほしいと述べたもの。	
5-27-13	〔中村宛 江口某書状〕	年未詳3月14日	横継紙	1通	梅谷掛引一件について、そのまま打ち過ぎており、16、7日ごろに取り決めてお出で下さりたい、早々に訳立てば貴家も安心、私どもは大安心であると伝えたもの。	端裏上書「二子 中村様 大急内用書 福島 江口」。
5-27-14	〔御庄屋宛 藤八書状〕	年未詳9月15日	横切紙	1通	藤八→御庄屋様 私は別条なく奉公を勤め来春も重年して給米2石8斗を頂戴しているので安心してほしいと伝えたもの。	
5-27-15	〔中村禎助宛 溝手憲章書状〕	(天保13年)11月19日	横折紙	1通	溝手九七郎憲章(花押)→中村禎助 禎助の養父中村孫三郎の死去を伝え聞き、お悔やみを述べると共に菓子一折を靈前に供えたい旨、伝えたもの。	

5-27-16	〔御庄屋宛 甚七書状〕	年未詳9月12日	横切紙	1通	御屋敷内甚七一御庄屋様 私は無事に奉公を勤め来る戌年も重年して給米2石8斗を頂戴しているので、この給米を宿元へ渡してほしい、と伝えたもの。	包紙あり。上書(表)「御庄屋様 人々御中 御屋敷内甚七」(裏)「無別条」。
5-27-17	〔御庄屋宛 呂助書状〕	年未詳9月15日	横継紙	1通	呂助→御庄屋様 下拙は無事に勤務しており来る戌年も重年して給米2石8斗を頂戴しているので、この給米を勘十郎・半次郎へ渡してほしい、と伝えたもの。	封筒あり。上書(表)「二子村御庄屋様 人々御中 御屋敷二 路助」(裏)「無別条」。
5-27-18	〔御庄屋宛 元助書状〕	年未詳9月15日	横継紙	1通	元助→御庄屋様 私は別条なく奉公を勤めており、来春も重年して給米2石8斗を頂戴していることを伝えたもの。	包紙あり。上書(表)「御庄屋様人々御中 御屋敷 元助」(裏)「無別条」。
5-27-19	〔御庄屋宛 三吉書状〕	年未詳9月15日	横継紙	1通	三吉→御庄屋様 私は別条なく奉公を勤めており、来春も重年して給米2石8斗を頂戴しているので世話人勘重郎・仲蔵へ渡してくれるよう伝えたもの。	封筒あり。上書(表)「二子村御庄屋様 貴下 江戸御屋敷 三吉」(裏)「無別条」。
5-27-20	〔御庄屋宛 大八書状封筒〕	年月日未詳	封筒	1通	封筒のみで中身なし。上書(表)「二子村御庄屋様 貴下 江戸御屋敷 大八」(裏)「無別条」。	
5-27-21	〔御庄屋宛 吉介書状封筒〕	年月日未詳	封筒	1通	封筒のみで中身なし。上書(表)「二子村御庄屋様 貴下 江戸御屋敷 吉介」(裏)「無別条」。	
5-27-22	〔庄屋宛 小田佐助書状〕	年未詳9月12日	横切紙	1通	小田佐助→庄屋様 下拙は来る戌年も重年して給米3石5斗を頂戴し、そのうち3石は為替したので残り5斗を儀左衛門に渡してほしい、と伝えたもの。	包紙あり。上書「庄屋様 参人々御中 御屋敷内 小田佐助」。
5-27-23	〔中村孫三郎宛 東円助書状〕	年未詳9月18日	横継紙	1通	東円助→中村孫三郎 実家のことで毎度役界になっているのに久しく無沙汰したことを謝したのもの。	包紙あり。上書(表)「中村孫三郎様 人々御中 小田円助事東円助」(裏)「返■之■状添候事」。
5-27-24	〔和氣小八郎宛 中村礒右衛門書状〕	年未詳子正月18日	横切紙	1通	二子村庄屋中村礒右衛門→和氣小八郎 その村の藤助が二子村の虎蔵・源之助へ田地を質物に入れて借用した銀子の返済が滞っている件について。	
5-28	〔書状類一括〕			1括(19通・3枚)		5-28-1～5-28-22紙綴一括。
5-28-1	〔宛名未詳 某書状〕	年未詳5月朔日	横継紙	1通	中村寛の御高説を承ることができて大慶だったこと、拝借していた『宇比麻奈備』5巻と写本1冊の返却が大延引していたが好い便りがあったのでお返しすることを伝えたもの。	端裏書「五月朔日」。
5-28-2	〔禎祐宛 藤大夫書状〕	年未詳9月3日	横切紙	1通	好物をたくさん恵んでくれたことを謝し、御母堂様へも御礼の意を伝えてほしいと述べたもの。	端裏上書「禎祐様 奉後 藤大夫」。
5-28-3	歳旦末春	文政10年亥春	横切紙	1通	日賞軒賀竹「春たつといふ斗にて春ならぬ 我眼かすミて今朝や見ゆらん」などの和歌を記した歳旦摺物。	刷り物。
5-28-4	〔中村孫三郎宛 安養院隠■書状断簡〕	年未詳5月5日夕	横継紙	1通	安養院隠■→中村孫三郎 愚作を一両日中に御覧に入れたい、四十になって初めて入門し平仄もわからないこと、いずれも下書きにて見苦しいので他見は御用捨願いたいことなどを伝える。	本文欠。差出・宛名部分と追伸部分のみ残存。
5-28-5	〔中村禎助宛 久兵衛書状〕	(天保13年)11月19日	横継紙	1通	久兵衛→中村禎助 中村孫三郎が死去したことを伝え聞き、お悔やみの言葉を述べたもの。	
5-28-6	〔宛名未詳 某書状〕	年未詳11月24日	横継紙	1通	登坂用向も済んだが今もって金子が届かない、金子が到着したら用向をそれぞれ片付けて一日も早く帰村したい、と伝えたもの。	
5-28-7	〔利喜三宛 弁義書状〕	年未詳3月11日	横継紙	1通	弁義→利喜三 谷屋の家内がそちらの御宅を訪問し御老母と貴公の御内室・御妹女と一緒に倉敷へ参詣することのだが、必ず間違いなく同道するよう勤めてほしいと依頼したもの。	
5-28-8	〔中村おきぬ宛 大川兩人書状〕	(天保13年)10月13日	横折紙	1通	中村孫三郎が病気で養生叶わず去月5日に死去したと坪内より伝え聞き、お悔やみの言葉を述べたもの。	(上書)「中村おきぬ様 大川兩人方」。

5-28-9	奉願上口上	明和2年乙酉 9月8日	竪紙	1通	塩津村弥七→庄屋助左衛門 現在まで居住している屋敷が不勝手につき、前潟村分土手根の私持地に屋敷を作りたいので御役所に許可してもらえるよう取成してほしいと願い出たもの。	御役所宛の庄屋助左衛門奥書あり。
5-28-10	乗作請状事	宝暦6年丙子 2月吉日	竪紙	1通	乗作人無津村作太夫・請人同村・組頭同村久七→塩津村弥七郎 沖新田の弥七郎御持地で当子5月から乗作をさせてほしいこと、許可してもらえれば随分作方に精を出し、毎年の検見で決まった年貢米を1合も断らず納めること、沖新田村方の作法を堅く守ることなどを誓約したもの。	
5-28-11	[中村禎助宛 堀尾■■書状]	年未詳4月朔日	横切紙	1通	先だって拝見した御払出物について、西大寺町中島屋兼吉へ話したところ、今明日のうちに私のところへ立ち寄り一見の上で値段を定めたいと言ってきたので、今晚までにこちらに物品を差し越してほしいと伝えたもの。	端裏上書「中村禎助様 急用■■ 堀尾■■」。
5-28-12	[中村禎介宛 堀尾右衛門書状]	年未詳2月14日	横継紙	1通	依頼されていた御手本が多用で大延引していることを詫びたもの。	端裏上書「中村禎介様 ■下 堀尾右衛門」。
5-28-13	[中村宗匠宛 林之輔書状]	年未詳6月9日	横継紙	1通	林之輔→中村宗匠 去5月11日夜に船にて上京し堀之内茶事に参加したこと、旧冬お話しした唐物町稽古場の普請は延引していたが7月には釜を掛けるので秋には是非上坂してほしいこと、最近茶人のような体裁をして実際には浄瑠璃道具会や頼母子寄合で渡世している人が多いこと、短冊代のことなどを伝えたもの。長文。	
5-28-14	[宛名未詳 某書状]	年未詳10月28日	横継紙	1通	今般の礪右衛門殿の出府について労い、同人より具体的に話を承り何よりのことと思うが、御上御用については同人が帰村の上で話もしてくれるのだろうか、と心配なことを伝えている。	端裏書「十月廿八日認」。
5-28-15	[中村禎助宛 三宅弥平太書状]	年未詳9月10日	横折紙	1通	三宅弥平太→中村禎助 父の死没につきお悔やみの手紙と結構な御菓子を贈ってくれたことに対する礼状。	
5-28-16	[金銭書付]	年月日未詳	横折紙	1枚	「一、三百七十八文」などと金額を2項目記し、合点と印を捺したもの。	
5-28-17	[宛名未詳 某書状]	年未詳正月24日	横継紙	1通	年賀の挨拶と共に旧冬お願いした勤化のことについて述べ、記帳のうえ銀子・帳面とも使いの者に渡してほしいと伝えたもの。	端裏書「正月廿四日」。
5-28-18	覚	年月日未詳	横切紙	1枚	「弍斗 伝八」「弍斗 伊八」など米と対応する人名を記したもの。	
5-28-19	[宛名未詳 某書状]	年未詳2月21日	横継紙	1通	そちらの御支配所内の佐次郎の妻として当村の友八妹を呼び取ること、儀右衛門の弟を実父辰三郎方へ相談の上で引き取ることについて、やりとりしたもの。	
5-28-20	覚	年未詳子12月29日	横切紙	1通	木屋吉十郎→谷屋弥七 講銀の受領証。	
5-28-21	[中村老先生宛 堀尾藤大夫書状]	年未詳3月19日	横切紙	1通	先日初めて参上した際の対応について感謝の意を伝え、御礼状を差し上げるのが大延引したことを詫びたもの。	端裏上書「中村老先生 堀尾藤大夫 井■事 御■■被下候二及不申候」。
5-28-22	[和歌懐紙断簡]	年月日未詳	竪紙	1枚	「百敷のおほみや人そいとまあれや さくらかさしてけふもくらしつ」など。	前半欠損。
5-29	[大野九兵衛関係書状・年貢受取書類一括]			1括(1纏め・32通)		5-29-1~5-29-33紐一括。
5-29-1	[年貢請取通一括]			1纏め(3通)		5-29-1-1~5-29-1-3折込み一括。

5-29-1-1	酉歳御年貢請取通	寛政元己酉年	横切紙	1通	善左衛門分の徳辻1石6斗7升3合の受取について。	
5-29-1-2	己酉御年貢請取通	年未詳12月7日	横継紙	1通	庄屋初右衛門 浜田屋善左衛門分などの年貢を弥七より受け取ったことを伝えたもの。皆済。	
5-29-1-3	己酉御年貢請取通	年未詳12月7日	横切紙	1通	庄屋馬吉 谷屋弥七から徳米1斗4升6合7タなどを受領したもの。皆済。	
5-29-2	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳11月3日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 塩辛・繰綿を贈られたことに対する礼状。	
5-29-3	己亥御年貢通	年月日未詳	横継紙	1通	庄屋助左衛門 頓行善左衛門分の年貢受取状況を記したもの。	
5-29-4	己亥御年貢請取通	年未詳12月朔日	横切紙	1通	庄屋彦四郎 浜田屋善左衛門分の年貢受取状況を記したもの。皆済。	
5-29-5	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳正月11日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 昨年は不漁・不作だったにも関わらず鱈の塩辛と繰綿300目を取り揃えて送ってくれたことを謝し、孫三郎が近頃庄屋役となり繁用なことを労い、本家の小児が難痘の不幸に遭ったことを気の毒に思う旨伝える。	
5-29-6	東儀御年貢請取通	寛政元酉年	横切紙	1通	善左衛門分の年貢受取状況を記したもの。皆済。	
5-29-7	覚	年未詳午9月	横切紙	1通	浜田屋善左衛門 尾原屋・谷屋・礪屋・岡山佐見屋などに対する利銀の支払い状況を記したものか。	
5-29-8	己酉御年貢請取通	年未詳12月7日	横継紙	1通	庄屋初右衛門 谷屋弥七分の年貢受取状況を記したもの。皆済。	破損あり。
5-29-9	己酉御年貢請取通	年未詳戌6月2日	横切紙	1通	庄屋浅右衛門 塩津弥七分の年貢受取状況を記したもの。皆済。	
5-29-10	己酉御年貢請取通	年未詳11月24日	横継紙	1通	沖新田村兼帯庄屋■津村初右衛門 塩津村弥七分の年貢受取状況を記したもの。皆済。	
5-29-11	己酉御年貢請取通	寛政2年戌2月22日	横継紙	1通	兼帯庄屋太平次・庄屋浅右衛門 谷屋弥七分の年貢受取状況を記したもの。皆済。	
5-29-12	預り申銀之事	明和2年酉12月	縦継紙	1通	中嶋村預り主権兵衛・同村証人幸蔵→早嶋塩津村弥七郎 淵ノ元の田7畝5歩半などを質物として文銀1貫150匁を借用したもの。	中嶋村庄屋安原善右衛門の奥書あり。
5-29-13	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳正月5日	横継紙	1通	大野九兵衛直興(花押)→中村孫三郎 年賀状。	
5-29-14	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳3月17日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 中村家にて看病してもらっていた母親の帰郷について取り計らってくれたことに御礼を述べたもの。	
5-29-15	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳6月15日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 4日朝に安治川を出帆し翌日無事に帰国したとの報に対し安堵した旨を伝え、帰国後風邪気味という孫三郎の全快を願ったもの。	
5-29-16	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳8月21日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 元家方で孫が出生したものの親が死去したことについてお悔みを述べ、この地の近郷は雨が繁くて稲作の実入りが悪い、綿なども不作であることを報じている。	
5-29-17	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳臘月7日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 今般役用で登坂した中村礪右衛門に久しぶりに会うことが出来うれしかった、礪右衛門から「御地頭様御改革」について聞き、何かと心配事もあるかと察する旨を伝えている。	

5-29-18	戊申御年貢請取通	年未詳己酉 12月19日	横継紙	1通	兼帯庄屋左平治・年寄平之助 市場弥七分の年貢受取状況を記したものの。皆済。	虫損あり。
5-29-19	[宛名未詳 大野直興カ書状]	年未詳9月17 日	横継紙	1通	御本家方について貴君が万事引き受け世話をしてくれているおかげで老人も安気に過ごしていることに礼を述べ、健治殿が若年なので何かとお世話になる旨伝えたもの。	端裏書「九月十七日」。署名・宛名を欠くが筆跡から大野直興が中村氏に宛てたものと推定。
5-29-20	[宛名未詳 大野直興カ書状]	年未詳8月25 日	横継紙	1通	火事で焼け出され平野屋彦兵衛方の焼失屋敷の蔵に仮住まいしているが困窮していること、妻や娘も病気で弱っていること、守広氏宅は別条ないが淡路町掛屋敷は類焼し気の毒なこと、当夏は諸国で温疫が流行し当地でも夥しい病死者が出て墓所も焼場も差支え火葬も出来ないこと、御城代様と御奉行所が莫大な御救米を下され、御救小屋を建設して難済人を収容していることなどを伝える。	署名・宛名を欠くが筆跡と内容から大野直興が中村氏に宛てたものと推定。
5-29-21	己酉御年貢通	年月日未詳	横切紙	1通	庄屋■左衛門 塩津弥七請込の年貢受取状況を記したものの。皆済。	
5-29-22	吉年切売渡申畑証文事	安永7年戌12 月	縦紙	1通	売主頼江村武介・口入同村長四郎→頼江村善左衛門 畑1畝を1年契約で売り渡し、代銀70疋を当年貢の支払いに充てたもの。	年寄九郎兵衛・庄屋彦四郎の奥書あり。端裏書「浦田大辻 長つ帳 頼江武介」。
5-29-23	己酉御年貢通	年月日未詳	横切紙	1通	庄屋■左衛門 塩津弥七請込の年貢受取状況を記したものの。皆済。	
5-29-24	[中村鉄治宛 古川義武・武正連署書状]	年未詳10月 13日	横切紙	1通	古川勇左衛門義武(花押)・同寿之進武正(花押) 鉄治の養父死去の報せを受けお悔やみを申し入れたもの。	
5-29-25	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳6月9 日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 家事取り紛れ年始の状を差し上げなかったことを詫言、貴家で最近米の商売を始めたことについて述べたもの。	
5-29-26	[中村孫三郎宛カ 大野直興カ書状]	年未詳5月16 日	横継紙	1通	宛名の人物から無事帰郷の報せを受け、逗留中心安さに任せて構いもしなかったのに丁寧な手紙をもらって痛み入る、帰路は船で2日間安治川に滞留したとのことだが退屈だったろうと伝え、依頼の鏡袋について妻に早速伝えたところ承知したとのことだった旨を報じる。	署名・宛名を欠くが筆跡と内容から大野直興が中村孫三郎に宛てたものと推定。端裏書「五月十六日」。
5-29-27	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳卯月8 日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 山田廣人が長病の末に死去したことを報じ、当地下寺町の遊行寺にある石碑に廣人の俗名を追々刻もうと思っている旨、伝えたもの。	
5-29-28	[宛名未詳 大野直興カ書状]	年未詳臘月 15日	横継紙	1通	少しだけでも当用御取替に応じてくれれば、節季ごとの諸払の融通ができ安心できると依頼したもの。	署名・宛名を欠くが筆跡・内容から大野直興の書状と推定。端裏書「臘月十五日」。
5-29-29	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳7月16 日	横継紙	1通	大野九兵衛直興(花押)→中村孫三郎 家内の不快について見舞状をもらったことを謝し、既に兩人とも全快しているので安心してほしいと伝え、貞寿院様御年回忌の供物として椎茸1袋を送ること、素良漬をたくさん送ってくれたこと及び四季十首題御秀詠を見せてくれたことに謝意を述べたもの。	
5-29-30	[中村孫三郎宛 大野直興書状]	年未詳10月 28日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 常繁居士の年忌御菓子料を拝受し霊前に供えたこと、妻の病気が全快したこと、例年のごとく鯨塩辛と線綿を送ってくれたことへの謝意を伝え、町内一統の手厚い世話で無利息借財し、所持道具を売って得た銀子で借財の取扱いに宛て、ようやく絶家を免れたことを報じる。	
5-29-31	[宛名未詳 某書状]	年月日未詳	横切紙	1通	暑中見舞いの手紙。	

5-29-32	〔中村孫三郎宛 大野直興書状〕	年未詳弥生3日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 依頼していた畳表を送ってくれたことに謝意を述べ、妻の病気も大体よくなったので安心してほしいこと、天保山の整備状態を細かく報じ、景色が甚だ良くなって天気な日は遊山の船が50艘余りも来る、当春は少しでも上坂してくださいと伝えたもの。	
5-29-33	〔中村孫三郎宛 大野直興書状〕	年未詳11月26日	横継紙	1通	大野九兵衛→中村孫三郎 寒中見舞いの手紙。	
5-30	〔書状・年貢関係書類一括〕			1括(1纏め・2通・1枚)		5-30-1~5-30-4紙綴一括。
5-30-1	〔書状・年貢請取通一括〕			1纏め(2通)		5-30-1-1~5-30-1-2折込み一括。
5-30-1-1	〔中村孫三郎宛 真野官之丞書状〕	年未詳正月15日	横折紙	1通	真カ野官之丞(花押)→中村孫三郎 年賀状。	破損個所多く取扱い注意。ハンコがたくさん捺印されている。
5-30-1-2	丁未御年貢請取通	年未詳己酉12月19日	横継紙	1通	帯江前湯村年寄弥八郎・兼帯庄屋多平治・市場村谷屋弥七 年貢米の皆済受取。	破損個所多く取扱い注意。5-30-1-1に折り込み一括。
5-30-2	乍恐奉願上口上	明和5年戊子9月26日	縦継紙	1通	塩津村弥七→庄屋助左衛門 願福寺普請入用に充てる勸化銀の不足が判明し、不足分の調達のため同寺の所有地を銀主に質入れした件について述べたもの。	
5-30-3	箕島村納米請取通	寛政元酉年	横折紙	1通	早ノ弥七郎が納付するはずの米18斗を半次郎が弁済したことを示すもの。	
5-30-4	〔高書付〕	年月日未詳	横切紙	1枚	「東帳」「西帳」それぞれにつき、2石2斗7升6合3夕などの高などを記したもの。	
5-31	諸国歌人中物下			1包(99枚・1括)		5-31-1~5-31-100包紙入り一括。包紙上書「諸国歌人中物下」。
5-31-1	〔湛然和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	湛然 歌題「あかつきのよふことり」、和歌「散らぬまをとく見よとてやあかつきの 花の木陰に呼子鳥なく」。	
5-31-2	〔正院カ和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	正院カ 歌題「祝千万歳栄」、和歌「相生の松に巢をはむ鶴の友かめの 齢ひを見てと暮しつ」。	
5-31-3	〔大年和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	大年 和歌「はし姫も錦織けりこのころは 峯のあらしに木の葉ちり来て」。	
5-31-4	〔亭子和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	歌題「祈恋」、和歌「逢事のかたき恋路も千早振 かミをいのれはまたれこそすれ」。	裏に「亭子」とある。
5-31-5	〔通満和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	通満 歌題「冬湊」、和歌「風をあらミもふねよするミなと江ニ まさる千鳥の声さはくなり」。	
5-31-6	〔安継和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	安継 和歌「さと遠くいぬしすれはまれにとふ 人もくひなとねむりつゝ聞」。	
5-31-7	〔日遠和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	日遠 歌題「宿」、和歌「わすれめやこゝはかりねのくさまくら むすふはふかき■のはき」。	
5-31-8	〔通茂和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	通茂 歌題「君の千とせを祈るころを」、和歌「おこたらずとことハなからなを祈る 君のよはひのすゑなかくとそ」ほか1首。	
5-31-9	〔百之和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	百之 歌題「逢恋」、和歌「年月のうかりし■もうちいてゝ こよひそ人に語りつくさん」。	

5-31-10	〔惠果和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	惠果 和歌「こしかたを思ひつゞけてきのふけふ つゆの手向に袖そぬれける」。
5-31-11	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「恋の山入てくるしき道そとハ ふミそめてこそおもひ知ぬれ」。
5-31-12	〔美広和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	美広 歌題「閑庭井」, 和歌「汲なれし此隠家の山の井も いはさぬ人そかけもうつらす」。
5-31-13	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「初せり之霞て音はするハウや ふしみの里のなか雨の空」。
5-31-14	〔通満和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	通満 歌題「花感開」, 和歌「なかゝゝニはるかまにゝゝ咲ミちて はなにはならぬしかなけるさと」。
5-31-15	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「卯の花の垣根とのミや思はまし しつふとやにけふかたすハ」。
5-31-16	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「淋しさハ其色としもなかりけり まき立山の秋のゆふくれ」。 『新古今和歌集』寂蓮法師の歌。
5-31-17	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「吾妻野の烟のたてる所ミて かへりミスれ八月傾きぬ」。
5-31-18	〔義継和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	義継 歌題「池」, 和歌「風吹はみきりの池に立なみの 立もかへらぬ人そはかなき」。
5-31-19	〔俊雄和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俊雄 歌題「凧」, 和歌「あはれけふ君しいまさハ凧の 音も寂しと思さまし」。
5-31-20	〔元至和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	元至 歌題「冬山里」, 和歌「此冬は常なき風の音たてゝ さひしさそふる山陰の庵」。
5-31-21	〔洵和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	洵 枕詞「あるし身まかり給てのちこの菴に來り庭にしをれたる冬草をミておもひつゞけ侍る」, 和歌「なき君におくれしとてや庭の面の 草葉もともにかれはてにけむ」。
5-31-22	〔義鄰和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	義鄰 歌題「寄虚恋」, 和歌「たのめつる人の心にあきの来て 空にしられぬ袖の露けさ」。
5-31-23	〔方雄和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	方雄 歌題「軒竹」, 和歌「軒ちかきこれのむら竹ものいはゝ ありし昔をともにかたらん」。
5-31-24	〔秀明和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	秀明 歌題「百歳老人の寿を寄松奉祝」, 和歌「君かよわひ千とせの松に比ふれハ またあまりありこの百とせ」。
5-31-25	平野謙吉和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	謙吉 歌題「鶯鳴梅」, 和歌「ふく風邪はまた寒けれと鶯の 声そ聞ゆる梅の花園」。
5-31-26	〔乗義和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	乗義 歌題「湖上冬月」, 和歌「神風のいふき嵐にさえ暮る つき影氷る鳩のうみつら」。
5-31-27	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「桜花咲やしめらん筑波山 このもかのもにあまるしら雲」。
5-31-28	〔一水和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	一水 詞書「老のはしめをほきまゐらせり」, 和歌「今年より老木の 数に入ぬれと ちよまつかえときけはたのもし」。
5-31-29	〔秀月和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	秀月 詞書「中村氏の還暦を祝て」, 和歌「今年より君か齢も若かえり 幾千代までも松風とよふ」。

5-31-30	〔秀月和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	七十七翁秀月 詞書「中風しらす」、和歌「七七のよそひの人のふみもちて 風のさはりをとくといふらむ」。	
5-31-31	〔良■和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	良■ 歌題「秋旅」、和歌「我ために誰かはなけくおきそ山 ふもともミえすなひく朝きり」。	
5-31-32	〔斎貴和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	斎貴 歌題「嶺上松」、和歌「終夜まくらにちかく音きれて あくれは遠き峯の松風」。	
5-31-33	〔斎貴和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	斎貴 歌題「初春」、和歌「梅か香を浪の花にもたくへつゝ かすむな二はの浦の曙」。	
5-31-34	〔斎貴和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	斎貴 歌題「冬暁日」、和歌「あけちかミさしいる月の影さえて 灯し火ほそくなりまさるかな」。	
5-31-35	〔指老和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	指老 歌題「獺辺閑談」、和歌「うつみ火のきえんとすれはさしそへて かたるに更る夜はのしつけき」。	
5-31-36	〔正之和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	正之 和歌「朝露にみちふみ分しかり衣 うつるそ嬉し萩の花摺」。	
5-31-37	〔大年和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	大年 歌題「寄鳥恋」、和歌「うき人をうしとおもはてこふる杜 神世の鳥のをしへ也けれ」。	
5-31-38	〔藤浪和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	藤浪 和歌「たちはなの花の香ふかくうつすとて うすきころもの身をなけく哉」。	
5-31-39	〔子侑カ俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	子侑カ 俳句「夏きくや 千とせの露も やとひ水」。	
5-31-40	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「山里ハ雪ふりしきて道もなし けふこむ人をあはれとはミむ」。	紙背に「二番」とある。
5-31-41	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「木からしの森のこすえの■なく 名にあらハるゝ神無月哉」。	
5-31-42	〔山倍和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	山倍 和歌「大将の位徳も自然備りて 烏帽子も石と年を経ぬらん」。	紙背に「防陽山口住」とある。
5-31-43	〔短冊板〕	年月日未詳	短冊	1枚	短冊に和歌を筆記する際に下敷きにする板か。	
5-31-44	〔渡辺保教和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	保教 歌題「久祈恋」、和歌「とにかくに神■けもつきるやハ ■こひとし人やいのりし」。	
5-31-45	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「玉くしけ二見の浦の貝しけミ まきゑににたる松のむら立」。	
5-31-46	〔谷本始漢詩短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	谷本始 歌題「奉寿三吉大儒人一首」、漢詩「伝盞高座々方看祝気滋 庭松留白霍池水淀元亀」。	
5-31-47	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「影ミれハ秋にかきらぬ名成けり 花おもしろき月よミの森」。	
5-31-48	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「色々の木の葉なかるゝ大井川 しもはかつらの紅葉とやミン」。	
5-31-49	〔坦度和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	坦度 歌題「寄瀬恋」、和歌「宇治河のさゝのあしろによろといふひをかさぬれと逢よしのなき」。	
5-31-50	〔義雄和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	義雄 歌題「心はまゐらせて」、和歌「庭松にちきりひさしき此宿のちよのさかへの色をましにき」。	

5-31-51	[齋貴和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	齋貴 歌題「ぬ中へ下る人」、和歌「ぬてさしの旅のよそひの夢笠を 取出るにも袖そしくるゝ」。	
5-31-52	[堀尾岸根和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	岸根 歌題「寄寺祝」、和歌「とし経れとあかゐの水の底すみて 影もにこらぬ三井のふる寺」。	
5-31-53	[清松園白叟俳句短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	六十九生清松園白叟 詞書「中村晚風子九山水の愛断を賞して」、俳句「事のたる 花のなかめや 岩つらし」。	
5-31-54	[渡辺保教和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	保教 歌題「旅宿恋」、和歌「ふるさとに風のつけなはいかにせんわりなくちきる草のまくらを」。	
5-31-55	[震斎俳句短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	震斎 詞書「坪井子の雪の中ニ婚姻するお賀して」、俳句「降り込むと ゆきの朝に 初の春」。	
5-31-56	[白美和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	白美 歌題「忘れて後おもひいつ」、和歌「ちきりつる日数ハ遥過ぬれば おもひ出てもかいなかりけり」。	
5-31-57	[大田晋斎和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	武経 歌題「法師の色このめる」、和歌「烏羽玉のすみのころもの身をしらて あたなるいろにまとふはかなさ」。	
5-31-58	[渡辺保教和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	保教 歌題「志賀の渡りゆく人立につとふ」、和歌「にほの海わたるもつらし風をいたミ 遠きかち路をひもくもるゝ」。	
5-31-59	[坦度和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	坦度 和歌「のとかなる春の日なれと道の辺の 柳をミれは風そ吹ける」。	
5-31-60	[堀尾岸根和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	岸根 歌題「九月志賀のやまこえしたる」、和歌「長月のなかき夜すからなく鹿の 声をほたし志賀の山こえ」。	
5-31-61	[堀尾岸根和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	岸根 歌題「窓友竹」、和歌「鶯のなれてきやとるものなれば うゑそへおかむ窓の呉竹」。	
5-31-62	[和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「ふる雪ハきえてもしはしとまらなん はなも紅葉もえたになきころ」。	
5-31-63	[白美和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	白美 歌題「大鷹狩したるところ」、和歌「かり人のたけき心のミゆる哉 居しこふしの鷹もいさミて」。	
5-31-64	[堀尾岸根和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	岸根 歌題「水の上に木の葉おちてなかる」、和歌「このころは水のミとりもいろかへぬ 藪もてなかるゝ木々のもみちに」。	
5-31-65	[大田晋斎和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	武経 歌題「女の松のミをつゝみておこせたる」、和歌「吾妹子にまたもあひ見んしそと こゝろの松の身をたのむかな」。	
5-31-66	[秀月和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	七十三翁秀月 詞書「中村氏より短冊錫籠いろゝ風流なる品送り給るけるをよろこひて」、和歌「ありかたやめくみもふかき此品を何にたとへむ和歌の浦風」。	
5-31-67	[長紀和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	長紀 歌題「穂田」、和歌「露にとふ月のミちねといかならむ いなは波たつ小田の秋かせ」。	
5-31-68	[周行和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	周行 和歌「分行けは袖にそ移るむらさきの いろこき野路の萩のえの露」。	紙背に「行路萩露」とあり。
5-31-69	[和歌]	年月日未詳	短冊	1枚	「遠近のたつきもしらぬ山中に おほつかなくもよふことり哉」ほか1首。	料紙を二つ折にしてある。
5-31-70	[齋貴和歌短冊]	年月日未詳	短冊	1枚	齋貴 歌題「夕千鳥」、和歌「うみ千鳥ゆふくれこと二つまやよふ波のまくらは ■もあらなくに」。	

5-31-71	〔大野直興和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	古稀翁直興 歌題「試筆」, 和歌「難波津にすむ甲斐有て人なみに まれてふとしの春そむかふる」。	
5-31-72	〔窓明和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	窓明 歌題「苗代蛙」, 和歌「しつ男の秋をたのみの苗代を のかすみかと蛙なくなり」。	
5-31-73	〔豊之和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	豊之 歌題「山路時雨」, 和歌「さひしくも冬の山路をこえ行は 時雨はかりにあひにける哉」。	
5-31-74	〔千代和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	詞書「御かへし」, 和歌「手なれねはいとしつたなき琴音も はるにあひぬる君か言の葉」。	紙背に「千代」とある。
5-31-75	〔正鄰俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	正鄰 詞書「七十七の年満を賀し奉りて」, 俳句「喜ひや かさねて千世方 松の春」。	
5-31-76	〔茂樹和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	茂樹 歌題「朝之花」, 和歌「入かたの月もあはれとみつれとも あさけの花の露のぬれ色」。	
5-31-77	〔政房和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	政房 歌題「忍洩恋」, 和歌「思はれむことをやさしうき人の ミるめものふ我なミたかな」。	
5-31-78	〔格雨俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	格雨 歌題「高松懐古」, 俳句「五月雨や 水に湛へて 啼く蛙」。	紙背にも同じ句が書かれている。
5-31-79	〔中村祥三還暦祝歌一括〕			1括(12枚)		5-31-79-1~5-31-79-12紙帯括り一括。紙带上書「祥三祝還暦」。
5-31-79-1	〔小松原清和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	清 歌題「寄梅祝」, 和歌「鶯は梅咲くやとを音つれて めてゝあるしの齡ほくらむ」。	紙背に「七十三翁 小松原清」「松島小野鉄三郎と請」とある。
5-31-79-2	〔小松原清和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	清 歌題「寄梅祝」, 和歌「ことしより老木の梅はこつ枝さし 君かへりつし千代に咲くらむ」。	紙背に「七十三翁 小松原清」「松島小野鉄三郎と請」とある。
5-31-79-3	〔小松原清和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	七十三翁清 歌題「寄梅祝」, 和歌「梅さひたあまたの木々にむすふ実を きみか齡の数によまゝし」。	紙背に「松島小野鉄三郎請」とある。
5-31-79-4	〔三溪和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	三溪 歌題「寄亀二還暦祝」, 和歌「うごきなき岩尾のうゑのこの亀に 君がよはひぞ千年契りつる」。	紙背に「松島三宅軽三郎祝詞」とある。
5-31-79-5	〔清造居士漢詩短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	清造居士 詞書「奉祝中村君還暦」, 漢詩「鶴鬢逢顔身尚強 経論満腹九々余芳 子孫栄福人羨仰 唐代郭翁何足望」。	
5-31-79-6	〔西計俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	西計 詞書「中村祥三翁の還暦を祝して」, 俳句「老てなほ 若しちとせを芽吹く松」。	
5-31-79-7	〔耕斎和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	耕斎 歌題「寿還暦」, 和歌「高砂の松のみとりの色に出てゝ わかゝへりつゝ歳よらなまし」。	
5-31-79-8	〔耕斎和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	耕斎 詞書「中村大人の還暦を寿きて」, 和歌「老ぬれと君は千とせや経ますらん ことしを年の始めとはして」。	
5-31-79-9	〔笠外和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	笠外 歌題「祝還暦」, 和歌「本年の松ハ結枝も栄けめ 此先千代も八千代経カルを」。	
5-31-79-10	〔か■俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	か■ 句題「祝還暦」, 俳句「六十年の 松ミき太し ■の家」。	
5-31-79-11	〔平野謙吉和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	謙吉 歌題「寄梅祝」, 和歌「としゝに句ひそひゆく梅の花 君か千とせのかさしならまし」。	紙背に「下庄平野医師」とある。
5-31-79-12	〔万国俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	万国 詞書「祝中村君還暦」, 俳句「またわかし 四つにたらぬ 乳あそひ」。	

5-31-80	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「亀のをの山の岩ねをとめて落る たきの白玉千代のかすかも」。	
5-31-81	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俳句「■鹿や昔のまゝの継橋を わすれず渡る春霞かな」。	
5-31-82	〔平野謙吉和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	謙吉 歌題「寄撫子」, 和歌「思ひなはこゝろをぬさとくたきけん いまはたなかむ花のなてしこ」。	
5-31-83	〔平野謙吉和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	謙吉 歌題「鵜川船」, 和歌「うは玉の闇こそふけれ鵜川舟 月をよそなるせゝのかゝり火」。	
5-31-84	〔馬僊俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	馬僊 俳句「待合に 蚊を追ふ音や 暁の月」。	
5-31-85	〔久菟和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	久菟 歌題「岩野濃」, 和歌「一木はみな三千とせといふからに幾世限りのあらぬ桃園」。	
5-31-86	〔平野謙吉和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	謙吉 歌題「花菖蒲」, 和歌「うすくこく色もかすあり露おきて 朝日ににほふ花あやめかな」。	
5-31-87	〔平野謙吉和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	謙吉 歌題「寄撫子」, 和歌「ミはぬさとこゝろくたけし御国の 大和撫子花さきにける」。	
5-31-88	〔平野謙吉和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	謙吉 歌題「梅に鶯」, 和歌「梅の花にほふ春へは薄霞 よみに聞ゆる鶯の声」。	
5-31-89	〔尚鞞和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	尚鞞 歌題「春月」, 和歌「ひと年をあ■ひといふもをろか也 軒はにほふおほろ月かハ」。	
5-31-90	〔一水和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	一水 歌題「海辺雪」, 和歌「しほ竈や今朝降そめし雪の上になひくけふりもめつらしきかな」。	
5-31-91	〔恵泉和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	恵泉 和歌「あたしのゝ露とはかなくなき玉の 君か佛夢にたも見め」。	紙背に「追善」とある。
5-31-92	〔馬僊俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	馬僊 俳句「雲雀より 高うのほりそ はな見哉」。	
5-31-93	〔馬仙俳句短冊〕	大正3年	短冊	1枚	馬仙(馬僊) 句題「祝華甲」, 俳句「日■永し よせては返す 波の音」。	紙背に「大正三年祥三還暦二利生院祝詞」とある。
5-31-94	〔桂窓和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	桂窓 歌題「海村」, 和歌「浦つたひなひく烟のこきかたや 名におふ里のしほやなるらん」。	紙背に「岡山寺円満院住職ノ筆」とある。
5-31-95	〔秀月和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	七十七翁秀月 詞書「中風のましなひ」, 和歌「七々のよはひの人のふみもせは かぜのさはりハとくといふらむ」。	紙背に「大江村 田中秀造」とある。
5-31-96	〔桂窓和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	桂窓 歌題「籬卯花」, 和歌「卯の花の雪そまかきに積りける 花葉に庭のくもりにしより」。	
5-31-97	〔渡辺藍溪和歌短冊〕	(明治18年)乙酉元旦	短冊	1枚	七十七歳藍溪恭謹書 和歌「七十に七つの年のみすくきわ 風のあたりをとくといふらむ」。	
5-31-98	〔渡辺藍溪和歌短冊〕	(明治18年)	短冊	1枚	渡辺藍溪老人書 歌題「古歌二中風のましなひ」, 和歌「七十に七つのとしの水荃わ かぜのあたりを解といふらむ」。	
5-31-99	〔務和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	務 歌題「冬の口の口に」, 和歌「あら玉のふす猪か床のあらねとも 口もせくましのり[ ]ねや」。	文字が摺れて消えかかっており判読困難。
5-31-100	〔重孝和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	重孝 詞書「角田君の四十二の賀を祝ひて」, 和歌「千代八千代栄久しき初春の にきあふ庭に遊ぶ鶴亀」。	紙背に「宿森安氏」とある。

5-32	〔和歌・俳句短冊一括〕			1包(53枚)		5-32-1～5-32-53封筒入り一括。
5-32-1	〔経甄和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	経甄 和歌「水むすふ影はむかしとかはれとも 見し世のまゝとつる月かな」。	紙背に「木国若山 吉田権十郎」とある。
5-32-2	〔安恵和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	安恵 歌題「九月十三夜」, 和歌「のとかなるうら安の国の長月の月のひかりハみれとあかぬかも」。	
5-32-3	〔小諸和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	小諸 歌題「浦暁」, 和歌「うら波はまた闇けれとかへふねの いかり取也あけんとすらん」。	
5-32-4	〔元義和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	(平賀カ)元義 歌題「寄日祝」, 和歌「曇りなき代ハ久かたの日の光 たれかハ四方にあふかさらめや」。	
5-32-5	〔木下幸文和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	幸文 歌題「初春風」, 和歌「うちむれてわかなつむ ■■白たへの袖にそみゆる春の初風」。	
5-32-6	〔内藤中心和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	中心 歌題「太刀」, 和歌「はきなれし十束の太刀ハ大君の 御世を守れるたからせけり」。	
5-32-7	〔石野広道和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	広道 和歌「薄霧もうすらきはてゝ輪田の崎 むこ山おろし月にふくなり」。	紙背に「十九 石野広道 中原氏名広道、従五位下遠江守、歌学ヲ好シテ大イニ修メ頻々著書アリ」とある。
5-32-8	〔蘆庵カ和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	蘆庵カ 歌題「名所搗衣」, 和歌「誰まつと夜ことにふけてころもうつ きぬたのこゑのたかやすの里」。	
5-32-9	〔景樹和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	(香川カ)景樹 歌題「爐火」, 和歌「冬こもり春のころハ埋火のしたにのミこそほのめきにける」。	紙背に「南十二番」とある。
5-32-10	〔務和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	(小野カ)務 歌題「犬」, 和歌「はつかしと思ひもせぬかむく犬は老さらはひて市中にをり」。	
5-32-11	〔小諸和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	小諸 歌題「鳥辺若菜」, 和歌「芹川の春のうすゝみかきやりて ふたえにまじるミとりをそ指」。	
5-32-12	〔芳秀和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	芳秀 歌題「冬獸」, 和歌「ねやのまへに鈴の音寒く聞ゆなり て ■ひの猫や霜をふむらん」。	
5-32-13	〔平松安材和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	安材 歌題「こと人をおもふ」, 和歌「浦 ■かすかよふときけハさよ千鳥 おとつれするか嬉しけもなし」。	紙背に「玉島平松性 塩飽屋三郎右衛門」とある。
5-32-14	〔尚澄和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	尚澄 詞書「そのしをはしめにして蓮に露のおきけるといふ題を」, 和歌「底清き池の蓮のゆふ露ニ にとらぬ月の影もやとれり」。	
5-32-15	〔林孚一和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	孚一 和歌「秋もはや近づきぬらしさ ■■の あかつきかたの風のすゝしさ」。	
5-32-16	〔金峨和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	(古市カ)金峨 歌題「雨中梅」, 和歌「春雨はなかなふりそ梅のはな にをひのうすくなりや ■■■ん」。	
5-32-17	〔石坂堅壮和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	秋郎(石坂堅壮) 歌題「野月」, 和歌「打渡す稲田の露のてる月に 光るかきりそ野辺にそ有ける」。	紙背に「石坂堅壮」とある。
5-32-18	〔春木和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	春木 歌題「朝顔」, 和歌「白露のをき出てミれハ袖かきに いろもこぼれて匂ふ朝 ■」。	
5-32-19	〔和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	■のまひらる人カ 詞書「中村主人の六十一の年賀といふことを」, 和歌「萬代もへぬへきものを六十あまり 一 ■て松の若葉とそしれ」。	

5-32-20	〔正斎和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	和歌「君か為春野に出て若菜摘 わか衣手に雪ハふりけん」。	紙背に「八十三叟正斎」とある。
5-32-21	〔美郷和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	美郷 歌題「貧家更衣といふことを」, 和歌「人なミにかふるもやさしあらたへの かたのまよひとりもなおさず」。	紙背に「中 岡山人」とある。
5-32-22	〔常定和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	常定 歌題「寄鶴祝」, 和歌「はつわか菜もゆる沢辺に鳴たつの君を千代にとよほふむるかな」。	
5-32-23	〔羽栗謙次和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	羽栗 和歌「お■をよる越くればやま蔭の いき■かちし鴨そ鳴くなる」。	紙背に「倉子城 羽栗謙次」とある。
5-32-24	〔正道和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	正道 歌題「江上霞」, 和歌「朝のまにつりする船もほのゝと かすみこめたる湊江の空」。	
5-32-25	〔斗麦俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	七十六斗麦 俳句「花もとり かたなさしたる 女かな」。	
5-32-26	〔如水和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	如水 歌題「月」, 和歌「久かたの天の川原を渡るよ■ つきに棹をさす夜半の船人」。	
5-32-27	〔斗麦俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	斗麦 俳句「門先に 風呂焚く家や もゝの花」。	
5-32-28	〔細里和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	細里 歌題「古渡落葉」, 和歌「きてみれば風に落葉の空さむミ袖の渡りの冬のもゆら口」。	
5-32-29	〔祐義和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	祐義 歌題「初秋露」, 和歌「秋来ぬと風邪音信ぬ夕暮の さやかに見ゆる萩の上の露」。	紙背に「七月」とある。
5-32-30	〔斗麦俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	七十六麦翁 俳句「塩浜や けふりの外そ 雪の朝」。	
5-32-31	〔半二俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	七十九翁半二 俳句「旅人と共に時雨て 村の者」。	
5-32-32	〔斗麦俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	八十一斗麦 俳句「浜くりや 伊勢も浪花も おなし春」。	
5-32-33	〔中御門宗有和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	宗有 歌題「秋田」, 和歌「さひしくもしきの鳴立小山田の 稲葉の末に秋風そ吹」。	紙背に「中御門様又号松木様」とある。
5-32-34	〔■風俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	■風 俳句「かせ■る 日の■なり 梅の花」。	紙背に「月泉賞 甲斐国東山梨郡七里村芭蕉堂主人」とある。
5-32-35	〔谷蘭畹俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	蘭畹 俳句「山々は 雪に夜明けて 梅の花」。	紙背に「月泉到来 伊予西宇和郡八幡浜町咸宜堂谷蘭畹」。
5-32-36	〔廬月俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	廬月 俳句「有りかたき 茶の香にゆかし すまゐふり」。	紙背に「月泉賞」とある。
5-32-37	〔斗麦俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	八十一斗麦 俳句「水汲の 問はすかたりや けさの秋」。	
5-32-38	〔廬月俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	廬月 俳句「御手始二 ■ふ触らミや 梅見客」。	紙背に「月泉賞」とある。
5-32-39	〔行納和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	行納 歌題「とこなつをよめる」, 和歌「日くらしのなきつるなつにさきにけり ゆふくれなゐのやまとなてしこ」。	
5-32-40	〔半二俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	七十九翁半二 句題「修道者埋請務財用者穿磨」, 俳句「玉よりもたけ路防く おかの邦」。	
5-32-41	〔高之カ俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	七十九高之カ 俳句「藤口や 露に袂のぬ[ ]」。	文字が磨滅して読みがたい部分あり。
5-32-42	〔貞■俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	貞■ 俳句「元日は あらたまりたる 寒かな」。	

5-32-43	〔芦笛カ俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	ろ笛(芦笛カ) 俳句「やふ入りを 船はすますや 国なまり」。	
5-32-44	〔俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	俳句「誰ヶ軒に 遠山峯の 雪の松」。	
5-32-45	〔芦笛俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	芦笛 俳句「飼立し 馬を月悟や 洪団扇」。	
5-32-46	〔芦笛カ俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	ろ笛(芦笛カ) 俳句「眼覚の児 ■引■の 鳴る哉」。	
5-32-47	〔芦笛カ俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	ろ笛(芦笛カ) 俳句「横乗の 馬■も戻る せ■の音」。	
5-32-48	〔肖■和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	肖■ 歌題「松下泉」, 和歌「岩間もる清水すたしミ結ふ手の しつ くに■くミ■の松か■」。	紙背に「夏」「尾州住人 加藤口光」とある。
5-32-49	〔信徴和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	信徴 詞書「中村大人の不惑の賀に寄松祝といふ事を」, 和歌「朝 夕になれてむつける老松は きみか千とせのためしなるらん」。	
5-32-50	〔西大路隆意和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	隆意 歌題「行路柳」, 和歌「往来する袖もみたれて玉ほこの み ちの手引の青柳の糸」。	紙背に「西大路御殿御染筆」「タカモトヨム」とある。
5-32-51	〔石坂堅壮和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	秋郎(石坂堅壮) 歌題「藤袴」, 和歌「やことなき人の着るてふ藤 袴 うへ紫の色ににほへり」。	紙背に「秋」「石坂堅壮」とある。
5-32-52	〔安原玉樹和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	玉樹 詞書「京へいきけるをりまひ子の浜よりふねにのるとて」, 和歌「ゆくゝもみるものなから須磨の浦 こきはなるゝはかなしかりけり」。	
5-32-53	〔眠居俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	眠居 俳句「苛らしう 竹の子を掘る 男哉」。	
5-33	〔藤井高尚研究資料一括〕			1袋(2冊・1 纏め)		5-33-1～5-33-3封筒入り一括。
5-33-1	藤井高尚『松の落葉』の刊行と著述祝—中村寛宛 書簡による考察を中心として—	昭和57年12 月	印刷物	1冊	(著)工藤進思郎 『岡山大学文学部紀要』第3号の抜き刷り。	
5-33-2	小柴屋と藤井高尚—中村家所蔵の国学関係資料 をめぐって—	平成5年12月	印刷物	1纏め(3 冊)	(著)工藤進思郎 『岡山大学文学部紀要』第20号の抜き刷り。	同じものが3冊あり。
5-33-3	中山尚齒会乃記	天保6年春	印刷物	1冊	(編著)松乃屋老人(藤井高尚) 高尚および門弟らの詩文・和歌 を収めた書。	写本のコピー。
6	〔詩画色紙等一括〕			1箱(3纏 め・54枚・7 通・2包)		6-1～6-66木箱入り一括。
6-1	〔書付〕	年月日未詳	摺折紙 半切	1纏め	「豆を口へ入目カラ出す事」「鼻紙を落花にして散らす事」など手 品の技法に関するメモ, および御息所などの用語の意味を注記し たもの。	2枚一括。
6-2	〔立斎漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	立斎 「題後赤壁図」として詠まれた漢詩。	絹本。
6-3	〔文明漢詩拓本〕	年月日未詳	色紙	1枚	文明(「宮山眞童」ほかの印章あり)	
6-4	〔泰里漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	泰里 漢詩「擔鐸声稀水漏遅…」。	紙背に「十五」とある。
6-5	書画帖題言	年月日未詳	色紙	1枚	6-2～6-66が本来貼付されていた書画帖の冒頭に記された題言 か。「小倉子諧好遊所至必友…」。	絹本。
6-6	〔書画帖表紙装丁〕	年月日未詳	25.5cm ×22.8	1纏め	折本の表紙および裏表紙と思われる。	2枚一括。

6-7	〔中院通茂筆百人一首和歌色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	喜撰法師 和歌「わか庵は宮このたつミしかそすむ 世をうち山と人ハいふなり」。	紙背に「中院大納言通茂」「四」とある。
6-8	〔美峰漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	美峰 「遊仙曲」と題して詠まれた漢詩。「道人閑読藥珠經…」。	
6-9	〔雅信和歌色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	雅信 歌題「槿」, 和歌「やまかつの柴の袖かきあさかほの 花ゆへならて誰かとハまし」。	
6-10	〔恒女和歌色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	恒女 歌題「寄道祝」, 和歌「神代より世々につたへてつきせぬハこゝろをたねの言の葉の道」。	
6-11	〔小野千故母和歌色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	小野千故母 和歌「たらちねのおやのまもりとあひそふる 心はかりはせきなとゝめそ」。	紙背に「四十五之内」とある。
6-12	〔花卉図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	白い花びらの花が描かれている。	
6-13	〔堀尾虬淵漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	虬淵■者 漢詩「山刻霜餘骨梅横水底枝」。	
6-14	〔童子図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	童子2人が描かれている。	
6-15	〔山水図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	水辺の柳と小舟に乗る人物, 中景・遠景の山が描かれている。	印章が薄れて読み取れず。団扇型の絹本。
6-16	〔徳大寺実堅和歌色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	三位中将実堅 歌題「待花」, 和歌「春の来てまつにつれなきには桜 花よりさきにいく日へにけん」。	
6-17	〔二条康道和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	康道 歌題「河辺紅葉」, 和歌「山川にうかへて水の秋とミン うつ吹ちらせ風の紅葉は」。	包紙あり。上書「二条康道卿御筆」。
6-18	〔田代翁和歌色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	すて翁 和歌「九霞なら三幅あるハ其はつよ 四ふくと云ふハこなたの五福」。	紙背に「田代翁御歌」, 「青橋子郎書」とある。
6-19	〔愿斎漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	愿斎 「北郊観花」と題して詠まれた漢詩。「茅屋柴墻花満…」。	
6-20	〔文人書画値段書付〕	年月日未詳	横折紙	1通	「一、吉円（山陽）などと文人の書画の値段を列記した書付。	
6-21	〔癯松道人漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	癯松道人 漢詩「似郎中美世無多…」。	絹本。
6-22	〔園山西山漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	西山老樵 「岐岨覧古」と題して詠まれた漢詩。「巖邑義旗起 軍声動帝都…」。	絹本。西山は松江藩の儒者。
6-23	〔南越霞翁漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	南越霞翁 「咏芙蓉峰」と題して詠まれた漢詩。「神州名嶽海東涯…」。	絹本。
6-24	〔漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	漢詩「愛虞楮者書壁 而以論神樂之…」。	絹本。
6-25	〔廉三漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	廉三 漢詩「山宮移地浄青苔…」。	絹本。
6-26	〔和歌色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	和歌「袖にふけさそな旅ねの夢もみし おもふかたよりかよふうら風」。	
6-27	〔書画帖表紙装丁〕	年月日未詳	25.3cm ×22.5	1纏め	折本の表紙および裏表紙と思われる。金箔貼り。	2枚一括。
6-28	〔紀広成筆羅漢図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	琵琶を奏でる羅漢と蝶が描かれている。	印章に「紀広成…」とある。真贋は不明。
6-29	〔神崎小魯漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	小魯散人 漢詩「晚風落日独尋思…」。	

6-30	〔神崎小魯漢詩色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	小魯散人 漢詩「屋角位山月已残…」。	
6-31	〔魚図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	其■ 魚が二匹描かれている。	
6-32	〔中村祥三宛 宮武南岳はがき〕	大正2年2月9日	はがき	1通	高松市外西中ノ村宮武南岳・秀子→岡山県都窪郡庄村字二子中村祥三 寒中見舞いの絵葉書。牛の絵が描かれている。	
6-33	〔中村祥三宛 松邨為三郎はがき〕	(明治37年カ) 甲辰元旦	はがき	1通	岡山市舟着町松邨為三郎→都窪郡庄村中村祥三 年賀状。海中の立岩に松、富士山と初日の出の絵が描かれている。	
6-34	〔屏風人名取調書付〕	年月日未詳	横折紙	1通	中村家の所蔵していた書画貼交屏風に貼付されていた個々の書画の作者に関する注記。高嶠天・篠崎小竹・堀尾虬淵・山田方谷・三島中洲らの書、菅沼斐雄・安原玉樹・木下幸文らの短冊、岡本常彦・白神皐々・狩野尚信らの山水画など。	
6-35	〔僧玉舟伝記〕	明治39年	罫紙	1通	大徳寺185世住持の玉舟宗璠について、生地・号・没年などを記したもの。関係するものか不明だが印章が3つ捺してある。	
6-36	〔一条内房筆和歌色紙〕	(延宝3年カ)	色紙	1枚	後鳥羽院の和歌「うくひすのなけともいまたふる雪に 杉の葉しろき逢坂の山」を書いた色紙。	紙背に「左 一条内大臣内房公」「一条殿内房公乙卯四」とある。
6-37	〔甘露寺方長筆和歌色紙〕	(延宝3年カ)	色紙	1枚	後久我太政大臣の和歌「明ほのや川せの浪のたかせ船 くだすか人の袖の秋霧」を書いた色紙。	紙背に「甘露寺宰相方長」「甘露寺殿方長卿乙卯四」とある。
6-38	〔雅喬王筆和歌色紙〕	(延宝3年カ)	色紙	1枚	寂蓮法師の和歌「暮てゆく春のみなとハしらねとも 霞におつるうちのはし舟」を書いた色紙。	紙背に「四右 白川二位雅喬」「白川殿雅喬王乙卯四」とある。
6-39	〔花山院定誠筆和歌色紙〕	(延宝3年カ)	色紙	1枚	大蔵卿有家の和歌「かせわたるあさちのすえの露にたに やとりもはてぬよみのいなつま」を書いた色紙。	紙背に「八左 花山院大納言定誠卿」「花山院殿定誠卿乙卯四」とある。
6-40	〔万里小路雅房筆和歌色紙〕	(延宝3年カ)	色紙	1枚	後京極摂政太政大臣(藤原良経)の和歌「わするなよたのむのかぜの澤をたつ かりもいなはの秋野夕暮」を書いた色紙。散らし書き。	紙背に「右 万里小路大納言雅房」「万里小路殿雅房卿乙卯四」とある。
6-41	〔烏丸光雄筆和歌色紙〕	(延宝3年カ)	色紙	1枚	西行法師の和歌「きりゝすよさむにあきのなるまゝに よはるかこゑの遠さかりゆく」を書いた色紙。	紙背に「九右 烏丸宰相光雄」「烏丸殿光雄卿」とある。
6-42	〔人物没年書付〕	年月日未詳	横継紙	1通	大田南畝の没年などを記し、そこから何らかの考察を行ったメモ。	
6-43	〔花卉図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	蒲公英などの花草が描かれている。	
6-44	〔蘭岳筆山水図色紙〕	乙酉秋	色紙	1枚	蘭岳写 集落のある川辺の風景を描いた文人画。	
6-45	〔武者図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	胴丸の甲冑を来た武者を描いたもの。	
6-46	〔雲林筆山間瀑布図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	雲林 山の谷間を落ちる滝のようすを描いたもの。漢詩が添えられている。	
6-47	〔菱田来成筆カ山水図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	島来成(中島来成。菱田来成の前名) 水面に臨む山肌を描いた文人画。	真贋は不明。
6-48	〔蘭図色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	水墨で描いた蘭に「風蘭用筆要飛舞」の漢詩が添えられている。	
6-49	〔古裂〕	年月日未詳	織布	1枚	鳶模様の古裂に裏打ちしたもの。書画帖の表紙用か。	

6-50	[恒女和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	恒女「当座 帰雁連雲」寄浦恋の歌題で詠まれた和歌2首。「なこりあきや雲に翅をつらねしも わすれかたみの雁の玉章」など。	
6-51	[中院通茂筆古今集和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	僧正遍照の和歌「あさみとりいとよしかけてしら露を 玉にもぬけるはるのやなきか」を書いたもの。	紙背に「中院大納言通茂」とある。
6-52	[中院通茂筆和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	小野小町の和歌「おもひつゝぬれはや人のみゑつらむ 夢としりせはさめさらましを」を書いたもの。	紙背に「中院大納言通口」とある。
6-53	[素六俳句色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	素六 俳句「はし立の 来てゆかかすや 柿の花」。	
6-54	[中院通茂筆和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	大伴黒主の和歌「おもひ出て恋しき時ははつかりの なきてわたると人はしらすや」を書いたもの。	紙背に「中院大納言通茂」とある。
6-55	[花卉図色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	白い花が描かれている。	絹本。
6-56	[蓮に蟹図色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	大きな蟹が蓮の茎をハサミで切ろうとしている絵柄。左上に「呂紀」の文字あり。	
6-57	[唐子図色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	水辺で群れる唐子5人が描かれている。	紙背に「十七」とある。
6-58	[芟和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	芟 和歌「枝かはすよしのやま吹はな散て こかねの露に浪そこえけり」。	「芟」は公家の一字名と推定。
6-59	[和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	歌題「黒」、和歌「烏羽たまのやみのうつゝに ■■ やれと ■■ てか ■■ なきとこのくろかみ」。	
6-60	[和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	歌題「白」、和歌「しら雲の ■■ たつミねの山さくら そらにもつゝくた ■■ つか ■■ かぜ」。	6-59と同筆。
6-61	[和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	歌題「青」、和歌「河たきのはこしのいろにまかふかな 玉のすたれにかくるあふひハ」。	6-59と同筆。
6-62	[和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	歌題「赤」、和歌「しくれつるくもと日かけにそめられて 紅葉をおろすみねの木枯」。	6-59と同筆。
6-63	[仁和寺深仁法親王和歌詠草]	年月日未詳	横折紙	1枚	深仁 院聖廟御法楽都初春の巻頭和歌として「はる来ぬと宮このそらのやすらぐや おさまる御代のひかりなる蘭」ほか1首を書いたもの。	包紙あり。上書(表)「御室一品法親王深仁殿下詠草壹枚 蔭山徹雅」(裏)「安永年間 仁和寺御一代」。
6-64	手鑑の筆跡之覚	年月日未詳	横切紙	1通	六歌仙色紙が中院大納言通茂の筆であること、六歌仙画が狩野探信・狩野探雪の筆であることを記したもの。6-7、6-51、6-52、6-54に関連。	包紙あり。上書「手鑑の筆跡之覚」。
6-65	伏見宮邦永親王御筆六歌仙			1包(5枚)		6-65-1~6-65-5包紙入り一括。包紙上書「伏見宮邦永親王御筆六歌仙 日置侯家士 文政四辛巳年二月朔日 文政四辛巳年二月朔日 坪内兵助勝盛ヨリ譲リ請ル」。本来6枚あったと思われるが5枚のみ現存。
6-65-1	[伏見宮邦永親王筆六歌仙和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	大伴黒主の和歌「おもひ出てこひしき時は初かりの なきてわたると人はしらすや」を書いたもの。	紙背に「伏見宮邦永親王」とある。
6-65-2	[伏見宮邦永親王筆六歌仙和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	小野小町の和歌「おもひつゝぬれはや人の見へつらむ 夢としりせはさめさらましを」を書いたもの。	紙背に「伏見宮邦永親王」「伏見邦永親王」とある。
6-65-3	[伏見宮邦永親王筆六歌仙和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	喜撰法師の和歌「わかいほは都のたつミしかそすむ 世を宇治山と人はいふなり」を書いたもの。	紙背に「伏見宮邦永親王」とある。
6-65-4	[伏見宮邦永親王筆六歌仙和歌色紙]	年月日未詳	色紙	1枚	文屋康秀の和歌「ふくからに野辺の草木のしほるれは むへ山風をあらしといふらん」を書いたもの。	紙背に「伏見宮邦永親王」とある。

6-65-5	〔伏見宮邦永親王筆六歌仙和歌色紙〕	年月日未詳	色紙	1枚	在原業平朝臣の和歌「月やあらぬ春やむかしの春ならぬ わか身ひとつはもとの身にして」を書いたもの。	紙背に「伏見宮邦永親王」とある。
6-66	〔極札・和歌短冊一括〕	年月日未詳		1包(15枚)		6-66-1～6-66-15包紙入り一括。包紙上書「四気歌」。
6-66-1	〔古筆了栄和歌短冊極札〕	年月日未詳	押紙	1枚	(表)「花山院殿定誠卿 かせわたる (印章「琴山」)」、(裏)「かせわたる色紙 乙卯卯(印章「栄」)」。	本来は6-39に付随する極札。
6-66-2	〔古筆了栄和歌短冊極札〕	年月日未詳	押紙	1枚	(表)「甘露寺殿方長卿 明ほのや (印章「琴山」)」、(裏)「明ほのや色紙 乙卯卯(印章「栄」)」。	本来は6-37に付随する極札。
6-66-3	〔古筆了栄和歌短冊極札〕	年月日未詳	押紙	1枚	(表)「烏丸殿光雄卿 きりゝゝす (印章「琴山」)」、(裏)「きりゝゝす色紙 乙卯卯(印章「栄」)」。	本来は6-41に付随する極札。
6-66-4	〔古筆了栄和歌短冊極札〕	年月日未詳	押紙	1枚	(表)「一条殿内房公 うくひすの (印章「琴山」)」、(裏)「うくひすの 乙卯卯(印章「栄」)」。	本来は6-36に付随する極札。
6-66-5	〔古筆了栄和歌短冊極札〕	年月日未詳	押紙	1枚	(表)「白川殿雅喬王 暮てゆく (印章「琴山」)」、(裏)「暮てゆく色紙 乙卯卯(印章「栄」)」。	本来は6-38に付随する極札。
6-66-6	〔花卉図短冊断簡〕	年月日未詳	短冊	1枚	印章および落款が半分に切れている。断簡。	
6-66-7	〔安原玉樹和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	玉樹 歌題「年内立春」、和歌「口にてことしを去年とへたつるハかすみし人の心なりけり」。	
6-66-8	〔安原玉樹和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	玉樹 歌題「花下忘帰」、和歌「かへるさハおほる月よも面白し くるゝをいとふ花のかけかハ」。	
6-66-9	〔安原玉樹和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	玉樹 和歌「まもすかたときてかたらん心あひの ともまちえたり雪の夕暮」。	
6-66-10	〔安原玉樹和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	玉樹 和歌「ほとゝきす初音なくなり■やかの 宇治の里人このめつむらん」。	
6-66-11	〔安原玉樹和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	玉樹 和歌「木のめにてかたらひをれハなつ■しぬ ちりかふ花のあるしふる■」。	
6-66-12	〔長興和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	長興 和歌「唐土のいかなる山に照月を いかなる人の今宵ミるらん」。	「人」のあたり書き直しあり。上部欠損か。
6-66-13	〔長興和歌短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	長興 和歌「東より筑紫の海に入る影の なかき長夜のそよ月の月」。	上部欠損か。
6-66-14	〔蔦愚俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	蔦愚 俳句「起臥も 易し朝夕 丁の声」。	
6-66-15	〔蔦愚俳句短冊〕	年月日未詳	短冊	1枚	蔦愚 俳句「月花を 心に雪の 旅路かな」。	
7	〔土地および貸借関係書類ほか一括〕			1箱(3冊・ 仮1冊・1 帖・1鋪・2		7-1～7-23箱入り一括。
7-1	〔絵図〕	年月日未詳		1鋪	二子村を含む庄地区を広範囲に描いた絵図か。	大型の絵図だが紙継目がはがれて粉々に分解した状態で、原状が判然としない。取扱い注意。
7-2	明治廿四年十一月 山神社基本財産	明治24年11月	半・横半折	1冊	保管担当者中村祥三 融資や瓦師への支払いなど神社財産の運用を記録した帳簿。内容は明治24～36年までのもの。	
7-3	明治貳拾四年十二月一日 山神々社基本金保殖帳	明治24年12月	美・横半折	1冊	保管担当者中村祥三 融資や瓦師への支払いなど神社財産の運用を記録した帳簿。7-2と重複する内容もあるが大正5年までの記述がある。	裏表紙上書「都窪郡万寿庄二子殖座山神々社氏子惣代」。

倉敷市所蔵 北国屋中村家文書

7-4	第弐号 明治参拾七年ヨリ辰一月以降 金貸借記載簿	明治37年1月	美・横列	1冊	都窪郡庄村字二子中村祥三 預かり金と利子の支払・貸付金の回収などについて記録した帳簿。明治37年から大正初年までの内容。	裏表紙上書「都窪郡庄村字二子 中村祥三」。
7-5	[画帖]	(明治37年ごろ)	折本	1帖	宮武南岳・浪華琴石らが山水図・花卉図7作品を寄せ書きした小型の画帖。南岳の作品には明治甲辰孟春写とある。	舛入り。折帳の折り目が分解しており取扱い注意。
7-6	[第二次長州征討関係書類写]	慶応元年12月	半・縦	1纏め	第二次長州征討の推移について書いた記録の写。芸州口討手・御中軍先陣など参加諸大名の陣立などを記載。	綴じられていないが数丁一括の冊子状。現状は全4丁だが前後欠失か。
7-7	女官之称号	年月日未詳	横切紙	1枚	大皇太后宮・皇太后宮・皇后宮・中宮などの女官について、簡単に説明を加えたもの。	
7-8	[土地台帳断簡]	年月日未詳	半・縦	1丁	都窪郡庄村大字二子202番字小苗手の田について、地位・地価・事故・小作人住所氏名などを記したもの。	綴じ穴あり、土地台帳の一部と思われる。
7-9	記	年月日未詳	横継紙	1通	二子・上東・下庄・松島に所在する中村寛治の所有する宅地・田・畑について記したもの。	
7-10	[野取図]	大正3年5月28日	縦切紙	1枚	場所不明の土地測量図。「井上堅太郎取調」とある。	
7-11	[中村寛治宛 岡山商事株式会社封筒]	(大正年間カ)	封筒	1通	封筒のみで中身なし。	封筒上書(表)「中村寛治様 合同貯蓄六株(一分五厘) 金六円七十五銭」(裏)「大正 年 月 日 岡山県都窪郡倉敷町 岡山商事株式会社倉敷出張店 電話{一七一 一〇五}」。
7-12	大正三年春■出願扣	大正3年	罫紙	1枚	大字二子字才公1140番・同字小苗手202番に所在する田畑の地目改変(一部宅地化)出願についての覚。「許可ノ節ハ帳簿手入ノ事」とある。	
7-13	[中村祥三宛 庭瀬銀行預金等通知書]	大正6年9月25日	印刷物	1通	株式会社庭瀬銀行→中村祥三 中村祥三の預金高および大正6年6~9月分の利息金額を通知したもの。	
7-14	[土地書付]	年月日未詳	洋紙	1枚	二子字東堤第六番ほかの田・畑・宅地・山林について、面積・地価・元の所有者名を記したもの。	
7-15	[土地書付]	大正3年12月	横継紙	1枚	田6町8反1畝18歩ほかについて、何らかの土地書類と引合せ照合を行ったメモ。「引合済」「取消」などの注記あり。	
7-16	[貸付金・預かり金書付]	(年未詳)正月3日	横折紙	1枚	小田明一ほか15件の金貸付先・貸付額と総計、預かり金の費目ごと(竹代・金時計代など)の金額と総計を記したもの。	
7-17	[貸付金回収記録]	大正4年12月25日	罫紙	1枚	金の貸付先・金額を列挙し、返済が行われた案件については入金日と取消線を入れたもの。	
7-18	[金貸借関係書付]	(大正年間カ)	横切紙	1枚	山神社関係などの金銭の貸付や庭瀬銀行への預金について記録した書付。	前後に欠失あるか。
7-19	[小作米増減書付]	年月日未詳	横折紙	1枚	米2石6斗2升5合東堤弥右衛門入などの増預ケ分の合計から減少分を差引した石数などを記す。	
7-20	[貸付金記録]	年月日未詳	罫紙	1枚	金の貸付先・金額を列挙したものか。	
7-21	[野取図]	年月日未詳	横切紙	1枚	場所不明の土地測量図。	
7-22	改メ道敷裂地正訂旧ノ分	年月日未詳	半・縦	仮1冊	庄村大字二子第140番字九反田の田など道路施設によって一部地位変更が行われる土地についての台帳。	
7-23	収支差引残ノ部	年月日未詳	罫紙	1纏め	栗坂・松島・上東の3地区ごとに収入・支出の差額を記録したものの。詳細未詳。	綴じ穴はあるが現状は罫紙3枚をまとめただけの状態。

倉敷市所蔵 北国屋中村家文書

8	[扁額]	年月日未詳	扁額	1枚	「芙蓉亭 登々菴」	
9	[扁額]	丙戌	扁額	1枚	「丙戌長夏 香雪 梅圃書 於竹外行舎北窓下」	